

授 業 科 目 の 概 要			
(農学府農学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基礎 科目	生物生産科学概論 I	<p>(概要)</p> <p>農業生物を含む植物や昆虫、微生物・ウイルス等の成長制御と農業上重要な植物を保護するための基盤研究並びに応用研究の最前線に関する基礎知識を習得した上で、生物制御科学に関連する各分野の第一線で活躍する本学教員と学生がパネルディスカッション形式で討論を進めて行く集中講義。</p> <p>(共同/全8回)</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) (生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化)</p> <p>(No.7 有江 力) (植物病理学, 病害制御技術, 病原性進化、総合的防除システム)</p> <p>(No.8 福原 敏行) (生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング)</p> <p>(No.10 川出 洋) (天然物化学、生理活性物質、生合成、進化)</p> <p>(No.9 仲井 まどか) (害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除)</p> <p>(No.11 笠原 博幸) (植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構)</p> <p>(No.63 平岡 毅) (応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学)</p> <p>(No.64 森山 裕充) (マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス)</p> <p>(No.122 井上 真紀) (生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学)</p> <p>(No.65 小松 健) (微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体)</p>	共同

<p style="text-align: center;">共通 基礎 科目</p>	<p>生物生産科学概論Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>様々な学問領域からなる「生物生産学」という学問領域を理解し、高度な専門分野の科学研究を学ぶための基盤を形成するため、「生物学」をはじめとした「化学」「物理学」などの自然科学のすべての分野と関連し、発展し続けている科学であることを理解させ、その研究のための基礎的な知識と実際の現場における要請、そして最新の科学研究を解説し、生物生産科学の幅広さとその研究の進め方を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(No.57 大津 直子)</p> <p>第1回 硫黄は植物の必須元素の一つであり、植物体内の有機態硫黄化合物は、チオール基を介し酸化還元反応を行うことから、酸化ストレスや重金属ストレスの除去、酵素活性の制御を行い、植物の生育や環境応答に大きく関わっている。また、植物への養分吸収を助ける土壌微生物の機能にも、硫黄が重要であることが分かっている。本講義では硫黄代謝を中心に、植物の養分吸収についての最新の知見や、研究内容について講義する。</p> <p>(No.61 杉原 創)</p> <p>第2回 生物生産の基盤である土壌環境の理解に基づき土地管理を検討・構築・創出する事は、食料増産と持続可能な農業との両立を目指すうえで必要不可欠である。本講義では、食料問題が顕在化している熱帯地域の農業に焦点を当てたうえで、熱帯固有の土壌特性に付随して起きる物質動態の解析結果を基に、増産と保全の両立に必要な課題について議論する。</p> <p>(No.62 杉村 智史)</p> <p>第3回 我が国で飼育されているウシのほぼ100%が人工授精や胚移植といった人工繁殖技術によって誕生している。また、近年、生殖細胞、胚、多能性幹細胞、ゲノムなどの操作技術の進展により家畜生産が大きく変わろうとしている。哺乳動物の生殖制御技術に関して、最新の研究報告を踏まえながら講義する。</p> <p>(No.56 山田 哲也)</p> <p>第4回 植物を利用したグリーン・イノベーションが提案されている。これは、植物の持つ様々な能力を最大限に利用することで、食糧問題や環境問題の解決を目指すとともに、関連産業を発展させ、新たな雇用を創出するというものである。本講では、植物を利用したグリーン・イノベーションの実現に植物遺伝育種学が果たすべき役割について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
---	------------------	---	----------------

		<p>(No.2 大川 泰一郎)</p> <p>第5回 21世紀においては気候変動による地球温暖化、養水分など資源の枯渇の問題が顕在化しており、人口増加に食料生産の増加とともに、持続的で安定した食料生産が課題となっている。イネやコムなどの主要な食用作物の収量増加、光エネルギー、資源の高い利用効率、環境ストレス耐性、品種改良に関わる最近の研究成果を概説し、作物学の果たすべき役割を講義する。</p> <p>(No.3 佐藤 幹)</p> <p>第6回 畜産は我が国の農業産出額の 1/3 を占める重要な産業である。畜産は動物の命を頂くことで成り立つ産業であり、それに関わる産業動物、すなわち家畜の特性とその飼養管理を十分に理解しなければ動物の生産は成り立たない。本講義では、動物の栄養を中心に、それぞれの家畜の特性と必要な栄養素を講義し、その能力を最大限に発揮するにはどのような制御が必要であるかを解説する。</p> <p>(No.54 横山 岳)</p> <p>第7回 蚕糸業は明治以降の日本の経済発展、近代化に寄与してきた。本講義ではそれを支え発展したカイコの遺伝学や生理学を中心に概説する。主に性決定の機構や放射線を用いた実用品種の育種について、通年飼育や大量飼育を可能にしたカイコの生活史の制御と昆虫の環境適応の生理学について講義する。また現在進められている遺伝子組換え蚕や新たな素材の生産について説明する</p> <p>(No.135 伊藤 克彦)</p> <p>第8回 昆虫は地球上で最も繁栄した生物とも言われ、様々な生息環境に適応し進化を遂げてきた。その適応の秘密を紐解くために、今日、昆虫のゲノム研究が盛んに行われている。本講義では、昆虫ゲノム研究の現状や最新の研究成果などを紹介しながら、これらが明らかになることで、どういう意味があるのか、また、どのように応用できるのかを議論する。</p>	
<p>共通基礎科目</p>	<p>応用生命化学概論 I</p>	<p>(概要)</p> <p>応用生命化学及び生体分子化学の学問領域を理解するために必要な基礎知識を身に付けるため、応用生命化学及び生体分子化学の学問領域についてオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.15 服部 誠)</p> <p>第1回:応用生命化学および生体分子化学の領域の概説と本科目の内容を説明する。応用生命化学においては、生命活動を分子と分子、分子と細胞ならびに分子と個体</p>	<p>オムニバス方式</p>

		<p>との相互作用という視点でとらえ、基礎と応用の高度な融合を目指し、生命現象と生物機能を解明することおよび得られた知見と技術を応用発展させることを一体の学問として教育することを目的としている。その中でも生体分子化学は、タンパク質、核酸（遺伝子）、糖質、脂質、生理活性物質といった生命分子の構造・機能に関する研究を展開している。本講義においてはそれら研究の概要を解説する。</p> <p>(No.14 千葉 一裕)</p> <p>第2回：有機合成に関するトピックスについて解説する。有機合成は、錬金術時代に築かれた様々な化学物質の取扱技術を基盤として、近年飛躍的な発展を遂げた。その結果、医薬品原料や機能性材料、高分子材料など様々な物質を人の手で生み出し、我々の生活を豊かにしている。本講義では、目的物の有機合成反応を設計するために必要となる、分子の組み立て方に関する基本的なデザイン法、電子移動の表記による反応機構等に関する基本的な解説を行う。</p> <p>(No.67 北野 克和)</p> <p>第3回：生物活性物質の構造活性相関に関するトピックスについて解説する。応用生命化学の学問領域の生物有機化学分野に関する基礎知識を身に付けることを目的として、実際の研究例を紹介しながら説明する。具体的には、付着阻害活性に関する生物活性物質を取り上げ、研究の背景、天然物の全合成経路の確立、類縁化合物の合成による構造-活性相関の考察とそれに基づく新規活性物質の創製、および実用化に向けた検討事項等について紹介する。</p> <p>(No.69 松下 保彦)</p> <p>第4回：植物の細胞死と防御応答に関するトピックスについて解説する。植物は、カビ、細菌、ウイルス等の生物的環境因子に応答して自らを防御する植物免疫と呼ばれるしくみをもっている。植物免疫では、ウイルス感染による壊死斑形成など、細胞死誘導を伴った防御応答の例が数多く知られている。植物において細胞死誘導に関わる遺伝子の解析、外来遺伝子による細胞死誘導、現在までに知られている植物免疫の分子機構について解説する。</p> <p>(No.70 佐々木 信光)</p> <p>第5回：植物とウイルスとの分子間相互作用研究に関するトピックスについて解説する。植物ウイルスは宿主の生体機能を利用して増殖する絶対寄生性の病原体であり、有効な駆除方法が存在しない。植物ウイルスの増殖過程や病原性に関する分子機構および RNA サイレンシ</p>	
--	--	--	--

		<p>ングを介したウイルスに対する植物免疫機構に関する最新の知見を紹介する。また、生物農薬やバイオテクノロジーツールとしての植物ウイルスの活用方法についても概説する。</p> <p>(No.15 服部 誠)</p> <p>第6回:食品タンパク質の構造と機能に関するトピックスについて解説する。タンパク質の機能発現には構造が重要であることを、実例を示して解説する。機能既知のタンパク質の立体構造を決定すると、そのタンパク質がどのように機能しているのかを科学的に理解することができる。さらにタンパク質の機能の改変を達成する研究手法について、化学修飾に基づく手法、遺伝子工学的な手法などを取り上げ、どのような構造変換をすればタンパク質の機能改変に有効であるか詳細に解説する。</p> <p>(No.68 好田 正)</p> <p>第7回:食品の免疫調節活性に関するトピックスについて解説する。食品の中に含まれる、多糖、ポリフェノール、ビタミンなどは免疫系に認識され免疫応答を修飾することが知られている。その際、細胞表面に発現する受容体を介するものや、細胞内に取り込まれて細胞内の分子に直接作用するものが存在している。種々の食品因子の構造や作用および作用機序について最新の研究例を紹介する。また、食品中に含まれるアレルゲンについても解説する。</p> <p>(No.19 野村 義宏)</p> <p>第8回:生体高分子の有効利用に関するトピックスについて解説する。生体高分子の中でも細胞外マトリックスは結合組織全般に存在し、コラーゲン、ヒアルロン酸、プロテオグリカンを主成分とし、その構造並びに機能が明らかになってきている。単に組織の構造を維持するだけでなく、生理機能も示す事で細胞の生育環境を制御している。細胞外マトリックスについて概説し、主要成分の構造と機能、細胞との相互作用について解説する。</p>	
<p>共通基礎科目</p>	<p>応用生命化学概論Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>応用生命化学および生理生化学の学問領域を理解する為に必要な基礎知識を身につけるため、応用生命化学および生理生化学の学問領域についてオムニバス形式で講義する</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(No.17 三浦 豊/1回)</p> <p>第1回:食品成分の疾病予防や病症改善に関するトピックスについて</p> <p>食品成分による疾病予防や症状改善に関するトピックスを解説する。具体的には食品成分の消化と吸収、体</p>	<p>オムニバス方式</p>

		<p>内での代謝や生理作用などについて概説し、食品の有する可能性に関して議論した後、食品による疾病予防について、わが国で現在開発・販売されている特定保健用食品や機能性表示食品を取り上げ、その制度の概要やそれらが生み出されてきた社会的背景や実情を紹介する。さらに将来的な機能性食品の制度に関する展望についても、現状の問題点を含めて議論を行う。</p> <p>(No.71 木村 郁夫/1回)</p> <p>第2回:腸内細菌と宿主のつながりに関するトピックスについて</p> <p>近年の腸内細菌研究から、腸内細菌叢の変化が、宿主の恒常性機能に影響を与え、代謝性疾患、免疫疾患、中枢神経系疾患を含む、全身性の疾患に対し、直接的な原因となる事が明らかとなった。この中で特に、腸内細菌代謝産物が腸内細菌の宿主側に影響を与える分子実体として注目され、医学・薬学・農学など様々な側面から、腸内細菌分野への関心が益々高まっている。本講義では、腸内細菌叢および腸内細菌代謝産物と宿主恒常性機能との関連について、現在までの知見を概説する。</p> <p>(No.13 蓮見 恵司/1回)</p> <p>第3回:微生物の生産する医薬に関するトピックスについて</p> <p>抗生物質やその他の微生物由来の生理活性物質の医薬利用について解説する。講義の前半はそのような活性物質の探索の概要を説明する。特に標的となる病態と関連する生理現象を解説し、それを簡便な探索系に落とし込む方法論についても説明する。講義の後半では、世界中で4000万人もの患者が服用するコレステロール低下剤スタチンの開発と薬理学的作用の機序について解説する。さらに、担当者が進めている脳梗塞治療薬の開発についても説明をする。</p> <p>(No.136 鈴木 絵里子/1回)</p> <p>第4回:微生物の生産する物質とがん治療などに関するトピックスについて</p> <p>本講義においては、癌の発生のメカニズム、癌の早期診断技術、最新の癌治療戦略などを概説する。また、微生物が生み出す有用な生理活性物質の癌治療への利用や、新規治療薬の開発について説明し、そのような治療薬の薬剤耐性・薬物代謝・分布・排出など薬理学的観点からも解説する。さらに、癌と炎症のクロストークに関わるシグナル伝達や癌幹細胞を対象とした最新の研究内容についても紹介する。</p> <p>(No.18 殿塚 隆史/1回)</p> <p>第5回:糖に作用する酵素の解析とその応用に関するト</p>
--	--	---

		<p>ピックスについて</p> <p>糖に作用する酵素は、昔から農学や食品製造の分野で利用され、研究がなされてきた。その代表的な酵素が澱粉を分解するアミラーゼやセルロースを分解するセルラーゼであると言える。澱粉とセルロースは、同じグルコースを構成単位とする多糖であるが、澱粉は植物のエネルギーの貯蔵物質であるのに対し、セルロースは植物の構造の維持を担っている物質であり、全く異なっている。ここでは、アミラーゼやセルラーゼなど、糖に作用するいくつかの酵素についての比較を交え、その特徴や構造について紹介する。</p> <p>(No.12 西河 淳／1回)</p> <p>第6回：糖鎖生物学に関するトピックスについて</p> <p>生体内で何種類かの糖が繋がって出来た「糖鎖」の多くはタンパク質や脂質と結合して複合糖質と呼ばれる生体高分子を形成している。複合糖質は糖タンパク質、プロテオグリカン、糖脂質の3つに分類され、それぞれ構造や機能が大きく異なっている。本講義では、それぞれの分類における糖鎖の構造や機能の違い、さらに生合成経路について講述し、生命の営みにおけるいろいろな課程で様々な役割を果たしている複合糖質について理解を深める。</p> <p>(No.66 川合 伸也／1回)</p> <p>第7回：植物の代謝制御の応用に関するトピックスについて</p> <p>植物の一次、二次代謝産物生合成系を遺伝子レベルで制御してそれらの量的・質的な改変や新規有用物質を生産する組換え作物の開発やそれらの基礎的な研究が進められている。それらについての代謝工学的な原理や最新のトピックスを紹介する。また、植物ウイルス・ベクターを用いた有用タンパク質の安価な大量生産についても紹介する。</p> <p>(No.16 山形 洋平／1回)</p> <p>第8回：真核微生物の生化学とその応用に関するトピックスについて</p> <p>真核微生物の基礎と応用について、過去から現在までの発展を含む新旧の話題を提供する。応用真核微生物学の発展がどのようになされてきたのか、特に我が国においては、社会のどのような要請に基づいて真核微生物の研究がなされてきたのかを明らかにしつつ、その思考の過程を示し、新しい知識や方法論が今後の応用真核微生物をどの様に進めることができるのかを考える。</p>	
<p>共通基</p>	<p>自然環境資源学概論 I</p>	<p>(概要)</p> <p>木質資源の有効利用を実現する知識を習得するため、その形成過程である細胞分裂、木部細胞の形態形成、細胞</p>	

<p>礎 科 目</p>		<p>壁形成、さらに細胞死について、細胞生物学と樹木生理学の視点から解説する。環境資源材料の研究に必要な、物理数学、統計処理、弾性力学、粘弾性力学、破壊力学などの基礎と応用を学習する。</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用 森林環境教育、森林 ESD</p> <p>(概要) 多様な自然資源の源である生物多様性を保全し、持続的に自然資源を管理するには、広範な知識が必要となる。本概論は、生物多様性を維持する機構やその脅威となる要因に対する応答、生物多様性を支える非生物的環境の動態といった自然生態系に関する話題と、具体的な保全策や広域的な計画の立案、持続的に自然資源を利用するための技術・モノおよびシステムに対する理解、さらにヒトと自然環境の関係といった自然資源の利用に関わる話題を包括的に概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 第1回：動物の保護保全などについて講義する</p> <p>(No.30 星野 義延) 第2回：シカが自然植生や半自然植生に与える影響と被害防止対策についての現状と課題について概説する。</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 第3回 生物多様性の保全のための広域的な保全計画に必要な観点や技術について概説する</p> <p>(No.85 下田 政博) 第4回：人間の生活環境を構築する際に重要となる「アメニティ」「快適性」の考え方に着目し、ヒトにおける快適性の指標を解説するとともに、自然環境を活用した快適性デザインの方法を紹介する。</p> <p>(No.88 崔 東寿) 第5回：地球規模の環境変動が森林生態系と生物多様性に与える影響と対策について概説する。</p> <p>(No.87 白木 克繁) 第6回：自然災害の知識と防災技術を学ぶため、気象学、水文学、砂防工学の基礎を学ぶ。また、山地林・都</p>	<p>オムニバス方式</p>
----------------------	--	--	----------------

		<p>市林が環境に与える影響を学習する。</p> <p>(No.124 松本 武) 第7回：森林資源利用のための人・物・技術およびシステムの史的展開と今日的課題について学ぶ</p> <p>(No.125 吉田 智弘) 第8回：都市生態系において昆虫をはじめとする様々な生物がどのように適応・生息しているかを知ることによって、都市生態系について理解を深めることを目的とする。</p>	
共通基礎科目	自然環境資源学概論Ⅱ	<p>(概要) 物質循環環境科学に関する基礎から最新研究に至る知見を習得するため、物質循環と環境科学に関する化学および生物学的研究の最新研究を講義する。 (オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 第1回：大気環境研究に関するトピックス (No.80 大地 まどか) 第2回：海洋生態系の研究に関するトピックス (No.25 高田 秀重) 第3回：化学汚染物質の環境解析に関するトピックス (No.137 水川 薫子) 第4回：有機汚染物質の生物影響に関するトピックス (No.24 楊 宗興) 第5回：窒素・炭素・リンを中心とした生物圏の成り立ちに関するトピックス (No.79 梅澤 有) 第6回：安定同位体比を用いた物質循環に関するトピックス (No.78 多羅尾 光徳) 第7回：微生物による環境浄化に関するトピックス (No.82 渡辺 誠) 第8回：大気環境の変化に伴う植物影響に関するトピックス</p>	オムニバス方式
共通基礎科目	食農情報工学概論Ⅰ	<p>(概要) 作物生産の場である農業環境や作物栽培管理において必要となる計測技術について講じる。前半は、代表的な物理量を取り上げて、その計測原理、計測の自動化、コンピュータへの取り込み、データ処理について講じる。後半は、空間情報計測技術の社会的貢献を理解し、地域問題への対策や地域計画における利用可能性について考えられる知識を習得する。</p> <p>(No.94 帖佐 直) 第1回：計測原理 第2回：AD変換、インターフェース、システム化</p>	オムニバス方式

		<p>第3回：様々な計測・周辺技術 第4回：各種の計測法</p> <p>(No.126 山下 恵)</p> <p>第5回：空間情報技術の最新動向 第6回：写真測量による3次元モデルの生成 第7回：リモートセンシング画像処理 第8回：地域問題や地域計画における応用事例</p>	
共通基礎科目	食農情報工学概論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>農業や環境に関する計測技術の発展と情報インフラ整備の進展に伴い、多種多様なデータが集積されつつあることから、農業・環境ビッグデータの有効利用に向け、データサイエンスへのニーズが高まっている。前半に、情報技術の基礎理論と技術要素について理解し、関連するスキルを習得する。後半は、データマイニングの基礎と応用について、実データを用いた演習を交えて講じることにより、種々のデータからの知識獲得手法等の基礎技術を習得する。</p> <p>(No.96 辰己 賢一)</p> <p>第1回：基礎理論 第2回：コンピュータシステム 第3回：データベース 第4回：ネットワークとセキュリティ</p> <p>(No.138 福田 信二)</p> <p>第5回：データマイニングの基礎 第6回：データマイニングの応用 第7回：ビッグデータの有効利用 第8回：データ分析と知識取得手法</p>	オムニバス方式
共通基礎科目	地球社会学概論Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>環境共生型の社会を構想するためには、あらゆる視点からの学問的考察が必要になってくる。本講義では、人文科学・社会科学の2分野にわたって、環境共生型社会の構想に資する基礎的な知識について学ぶ。具体的には、人文・社会科学分野の基礎的な理論を習得するとともに、当該分野における基本的な研究手法について学ぶ。同時に、当該分野での調査・分析といった研究手法の基本についても学んでいく。そのうえで、環境共生型の社会構想を行うための基礎的知識をもった人材の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.129 澤 佳成)</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>本講義各回の内容において、環境共生型の社会の構築に関する理論の基礎的知識および研究手法についてどのような学びが得られるか概要を説明する。そのうえで、</p>	オムニバス方式

		<p>最終的な評価の基準を示す。導入として、ある教材の内容を履修者間で共有し、それをもとに、共生社会とは何か、共生社会を構想するにはどのような知見や視野が必要かといった点についてディスカッションを行う。お互いの意見に触れることによって、共生社会を考察していくうえでどのような視座が必要となるか、自分なりの考察の軸を探す機会とする。</p> <p>(No.100 榎本 弘行)</p> <p>第2回 環境法と共生持続社会</p> <p>「持続可能な開発」という言葉が提唱されてから40年近くなるが、環境法の世界では、この考え方を起源として又は関連して多くの国際法の諸原則が提唱され、それを実現するための多くの条約も結ばれ、国内法も制定されるに至っている。そこで本講義では、この「持続可能な開発」概念から直接導かれる環境法の原則やそこから派生する（又はそれと関連する）環境法の諸原則の意味内容・法的性質・具体例等について解説する。</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子)</p> <p>第3回 身体障害者補助犬と人の福祉</p> <p>身体障害者補助犬を例に挙げ、福祉マインドに基づく社会的弱者との共生について講義する。具体的には、身体障害者補助犬の効用と育成の実態、関連法、社会における障害者と補助犬の受け入れと受け入れ拒否の実態を紹介する。さらに、受け入れ拒否の解消に向けて、イヌとの共生、福祉社会における人同士の共生について、他事業の取り組みも参照しながら展望を示す。補助犬の使役犬内の位置づけを見ることで、イヌの品種改良や繁殖といった生物学的な話題にも触れる。</p> <p>(No.129 澤 佳成)</p> <p>第4回 システム社会と共生理念</p> <p>環境共生型の社会の実現について構想する際には、環境破壊の要因について把握したうえで、その解決の方途を探っていく必要がある。環境破壊の要因としてしばしばあげられるのが、高度に発達した政治・経済システムである。そこで、本講義では、まず、グローバル化した政治・経済システムが環境破壊をもたらす背景について探る。次に、共生に関する思想を参照しながら、環境破壊的なシステムを改善に導く方途について概観し、これからの社会のあり方について考察を加える。</p> <p>(No.39 高橋 美貴)</p> <p>第5回 地域環境史研究</p> <p>日本の地域環境史研究は、近代化のなかで「私たち」が失ったものの実態を解明すべく、20世紀末から多くの研究を積み重ねてきた。それらの研究動向のひとつに、</p>
--	--	---

		<p>その過程で失われた（あるいは失われつつある）伝統的な生業や生活と、それを支えていた地域の生物多様性との「関わり」のメカニズムを、地域研究として明らかにするという潮流がある。この授業では、このような研究の一端に触れながら、地域環境史研究の方法論や視点などについて学ぶ。</p> <p>(No.128 竹本 太郎)</p> <p>第6回 資源利用と環境保全の近代:森林管理とは何か(竹本)</p> <p>資源利用と環境保全を表裏一体的に捉えるため、主に明治期から大正期、昭和期にいたる近現代の森林管理に注目する。緑肥や薪炭にはじまり、建築用材へと資源利用が変化する中で、治山治水や国土保全、自然保護といった環境保全が要請される。入会権に関する公権論と私権論のぶつかりについて、山梨県における入会林野の御料林編入および御下賜を具体的な事例として取り上げながら、森林管理に関する基礎的な理論と研究手法を学ぶ。</p> <p>(No.99 吉田 央)</p> <p>第7回 戦後日本の経済成長と産業構造変化</p> <p>第2次世界大戦後、特に1950年代から1980年代にかけては、日本において急速な経済成長が起きると同時に、第1次産業の比重が低下し第2次・第3次産業が拡大する産業構造変化が進んだ時代である。経済成長と産業構造変化は、都市への人口集中と地域格差の拡大を引き起こすとともに、深刻な公害問題を引き起こした。この授業では、経済成長と産業構造変化を考察するための基本的な枠組みを学び、戦後日本の社会変動の具体的なイメージをつかむことを目標とする。</p> <p>(No.129 澤 佳成)</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>各回の講義によってえられた人文科学・社会科学の2分野における基礎理論および研究手法の総括的な理解を促進するために、まとめとして、以下の取り組みを行う。まず、まとめとなる教材を全員で教習したうえで、環境共生型の社会の構想にかんする受講生相互の意見交換を行う。次に、意見交換のなかで出された重要なキーワードを抽出する。そして、各キーワードが共生社会の構想にとってどのような意味をもつのか議論し、各自の共生社会に関する理解を深める機会とする。</p>	
共通基礎科	地球社会学概論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>地域農業に関連する既存の制度・学術論文の正確な内容理解するため、「地域農業」視角からの論考を輪読する。これにより、政策論としての地域農業論の有効性を検証するとともに、事例研究の実践(知見を導出する際</p>	

目		<p>の論証、既存の議論との接合・考察) について学ぶ。</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論, 地域農業システム, 地域労働市場, 生産力構造論, 東南アジア農業</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造, 動態変動, 農業政策, 地域経済, 国民経済世界システム</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析, 複合農業経営, 所得格差国際農業開発, 農産物価格分析</p> <p>(No.130 草処 基) 農家経済, 開発経済, 応用ミクロ計量経済学, 農業経済史, 制度</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通, 産直, 地産地消, マーケティング, 農業経営</p> <p>(No.139 観山 恵理子) フードシステム, マーケティング, 農業政策, アグリビジネス, グローバリゼーション</p>	
共通基礎科目	国際イノベーション農学概論 I	<p>(概要) グローバルからローカルの視点での、社会の課題を解決し、社会を動かすことを可能とするイノベーションの農学や関連分野での、現状と問題点を理解し、問題解決に向けた取り組み方法、科学的知見について考える。とくに、環境・物質循環・流域管理などの農村社会基盤および農業生産について基本的な知識・諸問題について講義する。 (オムニバス・共同方式/全8回)</p> <p>(No.44 五味 高志) 第1回 イノベーション農学とは?</p> <p>(No.104 加藤 亮) 第2回 流域における水資源管理におけるイノベーション</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 第3回 農薬や水田管理におけるイノベーション</p> <p>(No.106 桂 圭佑) 第4回 農地や土壌におけるイノベーション</p> <p>(No.44 五味 高志)</p>	オムニバス・共同方式、英語開講

		<p>第5回 森林管理と水に関するイノベーション</p> <p>(No.44 五味 高志・No.104 加藤 亮) 共同</p> <p>第6回 各自が考える社会的課題とそのイノベーションに向けたとりくみ</p> <p>(No.44 五味 高志・No.42 渡邊 裕純) 共同</p> <p>第7回 イノベーションへむけたギャップを越えるために必要な知見や技術</p> <p>(No.44 五味 高志・No.106 桂 圭佑) 共同</p> <p>第8回 新しい農学とその関連分野の連携</p>	
<p style="text-align: center;">共通 基 礎 科 目</p>	<p>国際イノベーション農学概論 II</p>	<p>(概要) グローバルからローカルの視点での、社会の課題を解決し、社会を動かすことを可能とするイノベーションの農学や関連分野での、現状と問題点を理解し、問題解決に向けた取り組み方法、科学的知見について考える。とくに、生物生産、生物新機能、ゲノム解析から、地域開発や農村開発、人口問題について学ぶ。 (オムニバス・共同方式/全8回)</p> <p>(No.43 山田 祐彰) 第1回 イノベーション農学とは？</p> <p>(No.103 川端 良子) 第2回 海外における農業生産とイノベーション</p> <p>(No.105 岡崎 伸) 第3回 生物生産と植物機能のイノベーション</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 第4回 農学分野での薬品や食品開発のイノベーション</p> <p>(No.47 竹原 一明) 第5回 応用動物学分野におけるイノベーション</p> <p>(No.43 山田 祐彰) 第6回 各自が考える社会的課題とそのイノベーションに向けたとりくみ</p> <p>(No.43 山田 祐彰・No.140 及川 洋征) 共同 第7回 イノベーションへむけたギャップを越えるために必要な知見や技術</p> <p>(No.43 山田 祐彰・No.141 轟 海松) 共同 第8回 新しい農学とその関連分野の連携</p>	<p>オムニバス・ 共同方式、英 語開講</p>

<p style="text-align: center;">共通 基礎 科目</p>	<p>農と工の科学概論</p>	<p>(概要) 農学の課題探求力と工学の課題解決力を融合した研究や学問的手法を学ぶ。とくに、複雑な生物機能に学ぶことで発想される物質生産及び変換、情報処理及び伝達、環境計測、生体計測、物質循環等に関わる様々なシステムを理解するための学問、学術分野を基盤とした、高度な研究力と課題解決力の素養を身につける。 (オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.124 豊田 剛己) 第1回 農工融合によるイノベーション</p> <p>(No.150 赤井 伸行) 第2回 計測技術と農工融合研究</p> <p>(No.143 秋澤 淳) 第3回 循環型エネルギーと農工融合研究</p> <p>(No.151 富永 洋一) 第4回 新しいエネルギーと環境問題解決への農工融合</p> <p>(No.146 梶田 晃司) 第5回 医療と生命科学の境界における農工融合</p> <p>(No.152 Wuled Lenggoro) 第6回 大気物質循環と高分子化学における農工融合</p> <p>(No.144 石田 寛) 第7回 生体計測や環境センシング技術と農工融合</p> <p>(No.145 梶田 真也) 第8回 新しい農工融合と研究分野</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">共通 基礎 科目</p>	<p>21世紀農学特論</p>	<p>(概要) 農学とその関連分野は、食料の安定供給、国土保全、地域経済等に重要な役割を有しているが、国内的には農林漁業者の減少・高齢化等の問題、世界的には食料問題解決が共通の課題となっている。 一方で、ライフスタイルの変化、世界の食市場の拡大、農業分野の変革は、新たな農学イノベーションを実現するチャンスでもある。本講義では、農学と関連分野の専門を極めながらも、それらの研究の水平展開から、あらたな研究や技術展開に発展した事例を紹介しつつ、横断型研究手法を学ぶ (オムニバス・共同方式／全8回)</p> <p>(No.198 松下 文夫)</p>	<p>オムニバス・共同方式</p>

		<p>第1回 知財の管理と21世紀農学</p> <p>(No.57 大津 直子、No.60 新村 毅)</p> <p>第2回 植物と動物の21世紀農学</p> <p>(No.18 殿塚 隆史、No.71 木村 郁夫)</p> <p>第3回 生命化学と21世紀農学</p> <p>(No.76 半 智史、No.91 加用 千裕) 共同</p> <p>第4回 資源利用と21世紀農学</p> <p>(No.96 辰己 賢一、No.126 山下 恵) 共同</p> <p>第5回 情報農学と21世紀農学</p> <p>(No.127 新井 祥穂、No.129 澤 佳成) 共同</p> <p>第6回 ヒトと社会の21世紀農学</p> <p>(No.106 桂 圭佑、No.105 岡崎 伸) 共同</p> <p>第7回 国際農学と21世紀農学</p> <p>(No.44 五味 高志)</p> <p>第8回 新たな分野融合と21世紀農学</p>	
共通基礎科目	異文化コミュニケーション学	<p>(概要)</p> <p>農学や関連分野の課題解決に必要な、文化・社会・歴史的な背景が異なる人やコミュニティー同士がコミュニケーションを行う際に起こりうるさまざまな現象を抽出し、メカニズム、課題、その解決法などを学ぶ。語学だけでなくその国の持つ文化や歴史を学ぶことで、差別や貧困、食料や農村社会、格差など現代社会における諸問題を解決するアプローチを学ぶ。</p>	
共通基礎科目	Advanced Lecture of Green, Food, and Lifescience	<p>(概要)</p> <p>世界が直面する食料・エネルギーの課題を解決”をテーマとして掲げ、“食料” “エネルギー” “ライフサイエンス”の3分野を研究重点分野における、社会的要請の高い研究課題において先進的な研究成果を学ぶ。とくに、世界トップレベルの外国人研究者による、本学教員との国際共同研究から、「農作物の生産力向上」や「環境汚染の実態解明」、「タンパク質科学」や「生命医科学」などをテーマとし、国際感覚に優れた、研究成果の実用化を担う理系グローバルイノベーション人材の基礎的素養を養成する。世界トップレベルの外国人研究者と共に”世界が直面する食料・エネルギーの課題を解決”をミッションとした研究の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全8回)</p> <p>(No.199 Aibing Yu/4回)</p> <p>化学プロセスの観点から、ナノ粒子、粉体科学に関する基礎知識および食料・エネルギー問題の解決に向けた最</p>	オムニバス方式

		<p>先端の研究に関する講義を行う。</p> <p>(No.200 Lee MacDonald/4回)</p> <p>流域の水や土砂動態に関する基礎的な知識から、水資源や森林の管理、土砂災害対策など課題解決に向けた応用的な知見および先端研究成果などの講義を行う。</p>	
共通基礎科目	Arts of Intercultural Communication	<p>(概要)</p> <p>タイトル: 「アジア・アフリカの諸地域の文化と社会」新興国や開発途上国において調査、開発援助その他の事業を行う際の現地でのコミュニケーションを念頭に置き、アジア・アフリカの諸地域の現状と言語、文化、慣習、宗教について概説を行う。さらに、現地において英語で議論することを通じて相手の文化を理解し、相互理解を深めるために必要な知識とノウハウを習得することを目指す。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(No.201 青木 雅浩/第1回～第3回)</p> <p>モンゴルの遊牧社会と市場経済</p> <p>(No.202 坂井 真紀子/第4回～第6回)</p> <p>サブサハラ・アフリカにおける言語の多様性</p> <p>(No.203 土佐 桂子/第7回～第9回)</p> <p>フィールド調査と調査者のジレンマ: ミャンマーの多宗教社会研究から</p> <p>(No.204 宮城 徹/第10回～第12回)</p> <p>日本文化は教えられるか。日本文化として何を教えるか、いかに教えるか。</p> <p>(No.205 藤縄 康弘/第13回～第15回)</p> <p>海外から見た日本</p>	オムニバス方式 東京外国語大学教員
共通基礎科目	農学特論 I	<p>(概要)</p> <p>農学領域に関する基礎的な知識の習得目標とした講義科目であり、農学並びに関連する科学分野の研究について学習する。このため、必要に応じてゲストスピーカーを迎え、最新のトピックスを講義する。</p>	
共通基礎科目	農学特論 II	<p>(概要)</p> <p>農学領域に関する視野の拡大を目標とした講義科目であり、広く農学並びに関連する科学分野の研究について学習する。このため、必要に応じてゲストスピーカーを迎え、最新のトピックスを講義することで、最新の幅広い研究知識を修得し、大学院生として必要な素養を身に付ける。</p>	
共通	日本語 I	<p>(概要)</p> <p>留学生のみ対象とし、農学と関連分野の学習や研究、</p>	

基礎科目		実験や実習などを実施する上で、必要となる基礎的な日本語能力の獲得を目指す。	
共通基礎科目	日本語Ⅱ	(概要) 留学生のみ対象とし、農学と関連分野の学習や研究、実験や実習などを実施する上で、必要となる基礎的な日本語能力の獲得を目指す。	
共通演習科目	農学実験計画法および統計解析演習Ⅰ	(概要) 農学・生物学に関する実験や現地調査、関連の論文を読む際に必要となる統計処理の基礎的な知識を習得する。とくに、農学、生命化学、生態学などを分野毎に異なる、実験や現地調査における比較対象の取り方、必要なサンプルなどを学びながら、数具体的数値による演習を行い、実験や観測の計画立案から必要最小限の統計処理ができるようにする。各自の研究においても、統計ソフトなどを利用する場合でも、その処理方法が理解できるようにする。 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学 (No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動	日本語開講
共通演習科目	農学実験計画法および統計解析演習Ⅱ	(概要) 英語にて、農学と関連分野に関する研究において必要とされる実験計画法にもとづいて、統計的方法とその解析法の基礎から応用を説明し、データの取り方とデータの解析法を具体的に解説する。さらに、パソコンを利用し、農学と関連分野の実際のデータを活用した統計処理方法を習得する。基礎力から応用力までの実践的な解析技術が養われる。研究論文におけるデータ解析はもちろんのこと、企業における製品管理や市場等の情報解析に応用できる知見を習得する。 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・	英語開講

		<p>全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p>	
共通演習科目	フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>研究倫理を学ぶための基礎知識や基礎概念について概観した上で、研究倫理がどのようなものであるかを理解し、農学や関連分野における研究倫理の課題を考え、各トピックにおける論点を整理し説明できる素養を習得する。これらをもとに、研究倫理にかかわる問題について倫理学に分析し、自分の考えや解決手法を説明できる。</p> <p>後半では、実験の原理と操作を理解し、実際に実験器具や分析機器の取り扱い、器機の安全な取り扱いと実験環境について学ぶとともに、フィールドでの安全管理、危険な事象や生物などの理解と対象方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.14 千葉 一裕／第1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理とは <p>(No.208 調 麻佐志／第2回～第4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者や技術者の社会的責任 ・研究計画から遂行までの研究倫理 ・研究倫理と不正行為 <p>(No.73 芳賀 尚樹／第5回～第6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や試薬の管理と運用 ・実験室の環境整備と安全管理 <p>(No.124 松本 武／第7回～第8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外における危険な事象や生物 ・フィールドで安全管理 	オムニバス方式
共通演習科目	フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>英語において、国内外の研究やプロジェクトで重要となる、研究倫理と安全管理を学ぶ。研究倫理では、基礎知識や基礎概念について概観した上で、研究倫理がどのようなものであるかの理解を深める。とくに、農学や関連分野における研究倫理の課題を考え、各トピックにおける論点を整理し説明できる素養を習得する。これらをもとに、研究倫理にかかわる問題について倫理学に分析し、自分の考えや解決手法を説明できる。</p> <p>後半では、実験の原理と操作を理解し、実際に実験器具や分析機器の取り扱い、器機の安全な取り扱いと実験環境について学ぶとともに、フィールドでの安全管理、危険な事象や生物などの理解と対象方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p>	オムニバス方式・英語開講

		<p>(No.14 千葉 一裕/第1回) 研究倫理とは</p> <p>(No.7 有江 力/第2回～第4回) ・研究者や技術者の社会的責任 ・研究計画から遂行までの研究倫理 ・研究倫理と不正行為</p> <p>(No.67 北野 克和/第5回～第6回) ・実験や試薬の管理と運用 ・実験室の環境整備と安全管理</p> <p>(No.124 松本 武/第7回～第8回) ・野外における危険な事象や生物 ・フィールドで安全管理</p>	
共通演習科目	知財の管理と運用	<p>(概要) 農学と関連分野の技術者や研究者に求められる、知的財産の基礎知識を理解し、農学分野の発展やイノベーションにおける知的財産が重要であること、その保護とは何かを学ぶ。特許権の取得手続を俯瞰し、特許や実用新案といった技術的創作の保護について検討するとともに、特許申請の手順や取り扱い、特許侵害などのリスク管理などを学ぶ。</p>	
共通演習科目	空間情報解析演習	<p>(概要) 農業や環境分野の研究などで重要となる空間情報を効果的に処理・表示・解析することができる、リモートセンシングや GIS を用いた手法を理解し、その基礎的技術を習得する。具体的には、空間情報解析技術の意義と役割、基本原理、地図投影法や座標系、数値地形モデル、空間情報の分析手法とシミュレーション手法の理解を深める。また、航空機や地上からレーザ計測やドローンなどの最新技術も紹介する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(No.44 五味 高志/4回) 空間情報解析のうち地理情報システム (GIS) を用いた基礎的な手法および、実際のデータを用いた解析を実践する。</p> <p>(No.126 山下 恵/4回) 空間情報解析のうちリモートセンシングによる基礎的な手法や原理の解説および、実際のデータを用いた解析を実践する。</p>	オムニバス方式/
共通演習科目	農学課題別演習	<p>(概要) 農学と関連分野における国内外の最新研究を事例として、環境・食料・ライフサイエンス・農村社会などの問題に関して、緊急に解決を要する課題やトピック、地域などを特定した具体的な技術的・社会的な課題の解決手法、解決に向けての計画立案などの応用能力を養成す</p>	

		<p>る。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、 プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環 境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動 物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細 胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、 周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成 分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解 析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素 固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態シス ク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根 菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティ クス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土 壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発 生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、 バイオインフォマクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺</p>	
--	--	--	--

		<p>伝子組換え (No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏)</p>	
--	--	---	--

		<p>細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也)</p> <p>植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和)</p> <p>有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正)</p> <p>食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦)</p> <p>分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光)</p> <p>植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫)</p> <p>生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸)</p> <p>セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良)</p> <p>木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠)</p> <p>木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリアイナリー (No.23 高柳 正夫)</p> <p>分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一)</p> <p>木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD (No.73 芳賀 尚樹)</p> <p>有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー (No.74 粕谷 夏基)</p> <p>多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用 (No.75 近江 正陽)</p> <p>木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工 (No.76 半 智史)</p> <p>細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死 (No.77 堀川 祥生)</p> <p>バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡 (No.24 楊 宗興)</p>	
--	--	--	--

		<p>生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟 (No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染 (No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化 (No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析 (No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性 (No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化 (No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支 (No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物 (No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ (No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の</p>	
--	--	---	--

		<p>教育、食育、食農教育 (No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析 (No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業 (No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学 (No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成 (No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用ミクロ計量経済学、農業経済史、制度 (No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策 (No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮)</p>	
--	--	---	--

		<p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬 (No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
<p>共通演習科目</p>	<p>国内外特別演習</p>	<p>(概要) ローカルからグローバルの視点での、農学と関連分野に関連する諸分野の見識を実践的に習得すべく、現状把握や対策手法の検討、製品開発などの新事業の立案、政府や関連機関における計画や政策の立案に関連した国内外における実習を行う。とくに、国内外の企業やNPO、研究機関等のインターンシップ、海外留学などに対応し、事前の学習、派遣期間の設定、研究計画書作成、実施報告書作成と発表などを行う。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム (No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性 (No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝 (No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞 (No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p>	

		<p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマイクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性</p> <p>(No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ</p> <p>(No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析</p> <p>(No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p> <p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p> <p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカ、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有)</p>	
--	--	---	--

		<p>生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか)</p> <p>人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘)</p> <p>大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠)</p> <p>樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸)</p> <p>森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延)</p> <p>植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性 (No.31 戸田 浩人)</p> <p>森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化 (No.83 岩岡 正博)</p> <p>林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支 (No.84 金子 弥生)</p> <p>野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物 (No.85 下田 政博)</p> <p>健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ (No.86 吉川 正人)</p> <p>植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全 (No.87 白木 克繁)</p> <p>水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境 (No.88 崔 東寿)</p> <p>樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退 (No.89 赤坂 宗光)</p> <p>生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学 (No.90 小池 伸介)</p> <p>生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学 (No.91 加用 千裕)</p> <p>木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA (No.92 鈴木 馨)</p> <p>動物、保護、救護、科学教育、教育実践 (No.93 岩井 紀子)</p>	
--	--	---	--

		<p>両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態 (No.124 松本 武)</p> <p>労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術 (No.32 酒井 憲司)</p> <p>システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御 (No.33 東城 清秀)</p> <p>自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理 (No.34 斎藤 広隆)</p> <p>不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性 (No.94 帖佐 直)</p> <p>制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式 (No.95 中島 正裕)</p> <p>内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ (No.96 辰己 賢一)</p> <p>地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ (No.126 山下 恵)</p> <p>地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング (No.35 野見山 敏雄)</p> <p>農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営 (No.36 山崎 亮一)</p> <p>農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム (No.37 朝岡 幸彦)</p> <p>環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育 (No.38 千年 篤)</p> <p>農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析 (No.39 高橋 美貴)</p> <p>自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業 (No.97 武田 庄平)</p> <p>比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学 (No.98 渡邊 司)</p> <p>国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央)</p> <p>経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行)</p> <p>環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子)</p>	
--	--	---	--

		<p>人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成 (No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度 (No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策 (No.42 渡邊 裕純) 農業動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登)</p>	
--	--	--	--

		<p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾)</p> <p>医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希)</p> <p>運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎)</p> <p>ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦)</p> <p>病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉)</p> <p>感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史)</p> <p>動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子)</p> <p>食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織)</p> <p>画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p>	
--	--	---	--

		<p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
共通演習科目	国際研究プレゼンテーション演習 I	<p>(概要) 修士論文などの研究を中心として、各自の研究な内容について、専門分野内外にかかわらず、わかりやすく、かつ理解が得られるプレゼンテーションの手法を学ぶ。プレゼンテーションソフトなどを使いこなし、効果的なプレゼンテーション、コンテンツの作成などを実践する。また、実際のポスター発表などの現場を通して、発表における聞き手とのコミュニケーションを通して、プレゼンテーション能力の基礎と応用学ぶ。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p>	

		<p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壤環境学、持続可能性、物質循環、土壤資源管理、土壤劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活</p>	
--	--	--	--

		<p>性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性</p> <p>(No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ</p> <p>(No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析</p> <p>(No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p> <p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p> <p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹)</p>	
--	--	--	--

		<p>有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー (No.74 粕谷 夏基)</p> <p>多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用 (No.75 近江 正陽)</p> <p>木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工 (No.76 半 智史)</p> <p>細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死 (No.77 堀川 祥生)</p> <p>バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡 (No.24 楊 宗興)</p> <p>生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟 (No.25 高田 秀重)</p> <p>人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染 (No.26 伊豆田 猛)</p> <p>植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化 (No.27 渡邊 泉)</p> <p>重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析 (No.28 松田 和秀)</p> <p>大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳)</p> <p>微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有)</p> <p>生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか)</p> <p>人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘)</p> <p>大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠)</p> <p>樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸)</p> <p>森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延)</p> <p>植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p>	
--	--	---	--

	<p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p>	
--	---	--

		<p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純)</p>	
--	--	---	--

		<p>農業動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登) 不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也) 家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子</p>	
--	--	---	--

		<p>生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾)</p> <p>医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希)</p> <p>運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎)</p> <p>ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦)</p> <p>病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉)</p> <p>感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史)</p> <p>動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子)</p> <p>食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織)</p> <p>画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎)</p> <p>免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬 (No.134 井手 香織)</p> <p>血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
--	--	---	--

<p>共通演習科目</p>	<p>国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ</p>	<p>(概要) 英語での発表を通して、効果的な発表手法等を学ぶ。とくに、修士論文などの研究を中心として、各自の研究内容について、専門分野内外にかかわらず、わかりやすく、かつ理解が得られるプレゼンテーションの手法を学ぶ。プレゼンテーションソフトなどを使いこなし、効果的なプレゼンテーション、コンテンツの作成などを実践する。また、実際のポスター発表などの現場を通して、発表における聞き手とのコミュニケーションを通して、プレゼンテーション能力の基礎と応用学ぶ。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土</p>	<p>英語開講</p>
---------------	-------------------------	--	-------------

		<p> 壤劣化 (No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生 (No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、 バイオインフォマクス (No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺 伝子組換え (No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化 学、形態分化 (No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除シ ステム (No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレ ス、RNAサイレンシング (No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的 防除 (No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化 (No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構 (No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、 (No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環 境・薬剤ストレス (No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生 性病原体 (No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学 (No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞 輸送 (No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学 (No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活 性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、 機能改変 (No.16 山形 洋平) </p>	
--	--	---	--

		<p>応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー (No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD (No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー (No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p>	
--	--	---	--

		<p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p> <p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリン</p>	
--	--	---	--

		<p>グ、モデリング (No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志)</p>	
--	--	---	--

		<p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p> <p>(No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p> <p>(No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析</p> <p>(No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国</p> <p>(No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学</p> <p>(No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断</p> <p>(No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御</p> <p>(No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血</p> <p>(No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療</p> <p>(No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p> <p>(No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p> <p>(No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p> <p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
共通演習科目	農学演習 I	<p>(概要) 食料、環境、健康、バイオなどの視点を柱とする農学とその関連分野における基礎的かつ応用的な研究課題を学ぶ。とくに、生物生産科学分野や共生社会分野における、食料生産、育種、土壌、圃場整備、農業政策や振興などについて、ラボやフィールドでの実験や実習などを通して先端的技術を習得する。</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p>	ダブルディグリー対応科目
共通	農学演習 II	<p>(概要) 食料、環境、健康、バイオなどの視点を柱とする農学</p>	ダブルディグリー対応科目

演習科目		とその関連分野における基礎的かつ応用的な研究課題を学ぶ。とくに、生命科学分野における、人間の健康とアメニティ、生物の新機能、微生物や病原菌の生理・生態、応用動物学分野などについて、ラボやフィールドでの実験や実習などを通して先端的技術を習得する。	
共通演習科目	農学演習Ⅲ	(概要) 食料、環境、健康、バイオなどの視点を柱とする農学とその関連分野における基礎的かつ応用的な研究課題を学ぶ。とくに、農業工学分野における、農村地域における流域から圃場までの生産及び環境の整備およびそれらに必要となる農業機械の利活用、農村社会計画などについて、ラボやフィールドでの実験や実習などを通して先端的技術を習得する。 (No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田	ダブルディグリー対応科目
共通演習科目	農学演習Ⅳ	(概要) 食料、環境、健康、バイオなどの視点を柱とする農学とその関連分野における基礎的かつ応用的な研究課題を学ぶ。とくに、自然資源管理に関する研究分野における、大気・水・土壌などの物質循環系、森林や生態系の保全と管理、木材などの自然資源の適切な利用と循環などについて、ラボやフィールドでの実験や実習などを通して先端的技術を習得する。	ダブルディグリー対応科目
共通演習科目	農学演習Ⅴ	(概要) 食料、環境、健康、バイオなどの視点を柱とする農学とその関連分野における基礎的かつ応用的な研究課題を学ぶ。とくに、自然資源管理に関する研究分野における、大気・水・土壌などの物質循環系、森林や生態系の保全と管理、木材などの自然資源の適切な利用と循環などについて、ラボやフィールドでの実験や実習などを通して先端的技術を習得する。	ダブルディグリー対応科目
専門科目	生物生産科学 I 生産環境科学 I	(概要) 本講義では農業における植物および動物生産を支える環境を扱う学問として、植物栄養学、昆虫管理学、家畜繁殖学について詳細に解説する。特に、作物に養分を供給する土壌環境及び作物による養分吸収利用機構、農業生産環境における害虫管理、哺乳動物の人為的繁殖制御に関する理論、実践について講義する。 (オムニバス方式／全 15 回) (No.57 大津 直子／5回) 現代の農業は化学肥料に支えられているが、原料の枯渇や製造過程でのエネルギー消費、さらには農地から流出した肥料成分による環境負荷が問題となっている。現在の植物栄養学分野ではこのような問題を踏まえ、土壌中	オムニバス方式

			<p>の養分を効率的に利用する方法の開発につなげるために、その植物の養分吸収、輸送、代謝機構が分子レベルで研究されている。本講義ではこれらの内容について最新の研究内容を含めながら講義し、検討を加える。</p> <p>(No.58 本林 隆／5回)</p> <p>現在、作物生産の現場では、化学合成農薬による害虫管理が一般的であるが、農薬の過剰使用による、薬剤抵抗性の発達や誘導多発生といった農業生産上重大な問題が起こっている。また、新たに開発された薬剤による野生生物への影響も懸念されている。本講義では、こうした問題に関する最新のトピックを紹介するとともに、これらの問題に対する対応策について議論する。</p> <p>(No.62 杉村 智史／5回)</p> <p>家畜化とは動物の生殖に対する人為的管理の強化過程である。すなわち、いかに高度に生殖を制御するかがその鍵となる。本講義では、家畜繁殖学、とくに、発生工学に関する最新の研究論文を紹介すると共に、それら研究成果をいかに農業現場へフィードバックさせるかについて議論する。</p>	
<p>専門科目</p>	<p>生物生産科学コース</p>	<p>生産環境科学Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>生物生産の場としての土壌がどのように生成・構成され、どのような機能を有するのか、土壌中における物質循環の特性とその管理方策について講義するほか、栽培環境要因が園芸作物、特に果樹の成長におよぼす影響について講義をおこなう。講義中に適宜グループディスカッションを実施することで、持続可能な生物生産環境および栽培管理技術の将来像について議論を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.61 杉原 創／5回)</p> <p>生物生産の基盤である土壌環境の理解に基づき土地管理を実施する事は、食料増産と持続可能な農業との両立を目指すうえで必要不可欠である。本講義では、乾燥地から湿潤地まで、様々な気候条件下で成立する農業活動に付随した物質循環に関して、土壌中での反応解析を中心に抗議し、増産と保全の両立に必要な課題について議論する。また、講義中に輪読を含めたグループディスカッションを設け、持続可能な土壌管理の将来像について議論を行う。</p> <p>(No.55 田中 治夫／5回)</p> <p>土壌は、植物の生産、養分・水分の保持、分解・浄化などの機能を持つ。土壌が持つそれらの機能について、公務員試験や技術士などの試験に対応できるよう、土壌化学・土壌生物学・土壌物理学の基礎を学ぶ。また、土壌調査は、土壌断面の形態を観察することにより、農業利</p>	<p>オムニバス方式</p>

			<p>用上の土壌管理・改良、土壌図作成、環境アセスメント、土壌生成過程の解明等のための基礎資料を得ることができる。そのため、アクティブラーニングで土壌調査を行う。</p> <p>(No.59 伴 琢也／5回)</p> <p>本講義では栽培環境要因が園芸作物、特に果樹の成長におよぼす影響について概説する。具体的には園芸作物の原産地と栽培適地、各種気象要因（気温、降水量他）・気象災害（凍害、霜害他）が園芸作物の成長に及ぼす影響、地球温暖化が園芸作物の栽培と品質に及ぼす影響について概説する。</p>	
専門科目	生物生産科学コース	植物生産科学Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>農学における植物の生産科学の基盤となる植物の生理学、生化学、細胞生物学、分子生物学、遺伝学、分子育種学に関わる高度な専門知識を習得することを目指して、優れた先行研究や最新の研究事例を紹介しながら講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.1 金勝 一樹／8回)</p> <p>植物は動くことができないので、外界の変化を受け入れて生長している。光、植物ホルモン、環境ストレス等の外界からのシグナルが伝達されるときに機能している受容体、Gタンパク質、プロテインキナーゼ、転写因子等の植物細胞内の様々な因子について論ずる。また、分子生物学や生化学の分野で用いられている解析手法の原理も概説し、これらの手法で得られたデータを解釈できるようにすることも目的とする。</p> <p>(No.56 山田 哲也／7回)</p> <p>植物の分子育種に関わる高度な専門知識を習得することを目的とした講義を行う。具体的には、マーカー利用選抜や遺伝子組換え技術に加え、人工ヌクレアーゼを利用したゲノム編集やRNA依存性DNAメチル化を利用したエピゲノム編集など、植物の分子育種への応用が急速に進展している新しい植物育種技術(NBTs)を概説する。</p>	オムニバス方式
専門科目	生物生産科学コース	植物生産科学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>植物生産に関する科学、特にⅡでは食料・作物生産に関わる高度な専門知識を習得するため、食料、作物生産向上のための作物の収量、バイオマス生産、環境ストレス耐性に関わる生理機構の解明と作物品種の改良に関わる基礎から応用研究を概説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.2 大川 泰一郎／7回)</p> <p>植物の光合成と物質生産研究、植物における光合成の進</p>	オムニバス方式

			<p>化とそのメカニズム、作物の光合成、バイオマス生産に及ぼす環境の影響、作物の環境ストレスと環境応答、さらに作物の品種改良について解説する。</p> <p>(No.121 鈴木 栄／8回)</p> <p>植物組織培養技術、植物の遺伝子組換え技術、これらを用いた園芸作物の改良、植物色素を利用した園芸作物の高付加価値化、さらに園芸作物の生産や品種改良における今後の展望について解説する。</p>	
専 門 科 目	生 物 生 産 科 学 コ ー ス	動物生産科学 I	<p>(概要)</p> <p>動物生産に関する基礎知識と最近の研究を理解する。家畜は人の生活に役立たせるために改良が重ねられ、飼育されてきた動物である。家畜によって生産される食品（乳、肉、卵など）は、日本人の食生活に対し、カロリーやタンパク質の供給の面から重要な貢献を果たしているとともに、豊かな食生活を支える基盤となっている。本講義では、動物性食品を生産する家畜の特徴と畜産産業を支える技術の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(No.3 佐藤 幹／5回)</p> <p>家畜の生産は、その遺伝的能力をいかに発揮することができるかに依存している。すなわち、遺伝子・細胞レベルの応答から個体全体の代謝までを幅広く理解する必要がある。本講義では、動物による生産が化学反応の結果生じる代謝によるものであることを解説し、エネルギー、蛋白、脂質の代謝を司る生体反応を説明するとともに、栄養素を分子として捉えた時にどのように生産性と動物の健康を両立するかを講義する。</p> <p>(No.4 新井 克彦／5回)</p> <p>まず、哺乳動物の胚性幹細胞の特徴と iPS 細胞の初期化に関わる遺伝子群の機能等について、方法論を含めて解説する。続いて、胚性幹細胞から誘導される間葉系幹細胞などの体性幹細胞の種類やその特徴を紹介する。最後に、神経細胞など代表的な細胞の分化誘導法や動物組織を解析するための方法論について講義する。</p> <p>(No.60 新村 毅／5回)</p> <p>卵肉生産や行動を含め動物の生命現象は、生まれながらに持つ遺伝要因とその後の環境要因によって支配されている。近年、福祉的飼育システムなど物理的環境要因が大きな変革をしていることから、本講義では、まず動物福祉を概説すると共に、行動学的評価に基づく物理的環境の修正、さらに行動の遺伝的改良を講義する。</p>	オムニバス方式

専門科目	生物生産科学コース	動物生産科学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>昆虫を題材として、個体発生から生理、生態、集団、食性、行動、分子的領域、さらには、育種、害虫防除、医薬分野への応用に至るまで、可能な限り実物を示しながら現在まで明らかとなっている事象を紹介する。また、昆虫の生化学および分子遺伝学的特性について詳細に解説し、それぞれの事象について未解明な点を明らかにし、今後行うべき研究について議論する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.54 横山 岳／5回)</p> <p>現在生息している動物種の多くを占める昆虫は80万種以上あり、我々ヒトとは大きく異なった多種多様な生殖と形態形成を行っている。これら昆虫の発生に関して、配偶子形成（精子形成および卵形成）、受精と胚発生、性決定について他の動物と比較して解説し、発生生理学のおよび遺伝学的考察を試みる。</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子／5回)</p> <p>昆虫は環境変化に素早く適応できる能力をその体構造や生理代謝機構において進化させた結果、地球上で大繁栄できたと考えられている。一方で、これまで昆虫とヒトは進化的には全く違う生物として捉えられてきたが、昆虫にはヒトとよく似た遺伝子が多数存在し、加えてヒトと共通する生理代謝機構があることが明らかとなってきた。本講義では昆虫の特性をこれまでとは異なる視点で研究した最新の事例を紹介し、これらの昆虫の特性を医・農・薬学研究にどのように活用できるのかについて議論する。</p> <p>(No.135 伊藤 克彦／5回)</p> <p>カイコは長い年月をかけて人間の手によって家畜化された、特異な昆虫である。その過程で、数百もの様々な表現型を示す突然変異体が発見されている。本講義では、これらの中から食性、変態、罹病性などに関わる変異体についてこれまでに得られている研究成果を紹介しながら、昆虫の生命現象について学ぶ。また、最新の実験手法も紹介し、昆虫研究の現状についても解説する。</p>	オムニバス方式
専門科目	生物生産科学コース	生物制御科学Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>植物および微生物由来の天然有機化合物、昆虫を中心とした小動物、ウイルスに関する基礎的知識を教授し、環境応答・環境適応、植物-微生物間・植物-ウイルス間の相互作用、有用物質生産に関する最新の知見やトピックスを、ゲノムレベル、分子レベルおよび細胞レベルの農学・理学上のさまざまな視点から講義する。化学や生物学をそれぞれ専門とする第一線で活躍する教員3名がオムニバス形式で実施する。</p>	オムニバス方式

			<p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(No.10 川出 洋／5 回) 天然有機化合物の生合成に関する過去の優れた研究論文と最新の知見を紹介しながら、独創的研究が行われた背景やセレンディピティな研究の可能性について議論をする。Proc. Natl. Acad. Sci. 誌に掲載されたテルペノイド生合成におけるメバロン酸を経ない経路の分子解析を教科書にして、新しい生合成経路発見の研究手法や方法論などを教授する。また、陸上植物の成長制御機構の進化をホルモンの視点から議論する。</p> <p>(No.63 平岡 毅／5 回) 昆虫は他の動物には見られない多様性に富んだ生活様式をもつ動物群であるほか、生物を解明する上で優れた動物モデルである。最近では、有用昆虫の生産、昆虫による有用物質の生産など、昆虫利用の動きが活発化している。本講義では、これらの基礎となる昆虫の生理的現象を細胞、組織、個体の各レベルの各面から説明、解説する。また、農学への応用面について新規トピックスを交え、新しい技術の紹介やその応用面、問題点等について講義する。</p> <p>(No.65 小松 健／5 回) 植物病は、植物に感染する菌類・細菌類・ウイルスなどの植物病原体と、それらへの防御機構を備える植物との相互作用により引き起こされる。本講義ではこの相互作用について、(1) 植物病原体のゲノム解析と病原性因子「エフェクター」の作用、(2) 植物の防御機構に必須の物質・病原体の毒素としての二次代謝産物、(3) ウイルス・ファイトプラズマなどの絶対寄生性の病原体の巧みな感染戦略、といった近年研究の進展が著しいトピックを中心に論じる。</p>	
専門科目	生物生産科学コース	生物制御科学Ⅱ	<p>(概要) 安全な食料の安定な生産を行っていくには、農業植物に対して植物病害、虫害・線虫害、雑草害、高温や塩などの環境ストレスなどによる障害を与える生物的、物理的、化学的因子等がある。これらの因子について、分子生物学、ゲノム科学、植物生化学、植物生理学、生態学、進化学等、農学上のさまざまな視点から講義する。化学や生物学をそれぞれ専門とする第一線で活躍する教員 3 名がオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(No.7 有江 力／5 回) 植物病害は、安全な食料の安定な生産において、量的・質的なダメージを及ぼす生産阻害要因である。こ</p>	オムニバス方式

			<p>の原因である微生物（以下、植物病原）の理解は、病害の安全・確実な制御に繋がる。本講義では、植物病原について、生理、生態、進化、分子生物学、ゲノム科学、植物との相互作用等の視点から、研究の目的、最近の動向、研究計画の立て方、比較的新しい技術、病害制御技術のメカニズムや長所・短所、等について研究事例と世界的研究動向を紹介する。</p> <p>第1回：食料生産における植物病害の制御 第2回：植物病原性微生物の生態 第3回：植物病原の進化と分化 第4回：植物病原と植物の相互作用 第5回：植物病原の制御</p> <p>(No.122 井上 真紀／5回)</p> <p>自然界においては、いかなる生物も他の生物となんらかの形で関わり合いをもっている。共生には寄生や被食-捕食の関係も含まれており、こうした相互関係は不変ではなくダイナミックに変化する。本講義では、昆虫を中心とした多様な相互作用について、生態学、生物地理学、保全学、環境経済学など多面的な視点から論ずる。</p> <p>(No.11 笠原 博幸／5回)</p> <p>胚発生を含む植物の様々な形態形成や環境応答は、多様な植物ホルモンの協働作用により制御されている。本講義では、植物の発生や成長、分化、あるいは、低温や高温といった非生物学的なストレスに対する環境応答の仕組み、病原菌など生物学的ストレスに対する防御応答など、世代の継続に貢献する種々の仕組みを理解するため、これまでに解明されてきた植物ホルモンの生合成、不活化の過程、輸送、情報伝達の分子機構を中心に講義する</p>	
専門科目	生物生産科学コース	生物制御科学Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>植物および微生物由来の生理活性物質、植物の防御応答に関わる遺伝子発現抑制機構（RNAサイレンシング）に関する基礎的知識のほかに、生物を利用した昆虫成長制御技術（生物学的防除）を介した植物保護学を教授する。植物や昆虫などが備える環境応答・環境適応のメカニズム、植物-ウイルス間、昆虫-微生物間の相互作用等に関する最新の知見やトピックスを、遺伝子レベル、分子レベル、および個体レベルの農学・理学上のさまざまな視点から講義する。化学や生物学をそれぞれ専門とする第一線で活躍する教員3名がオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.8 福原 敏行／5回)</p> <p>動くことのできない植物は、乾燥・塩・低温などの環境ストレスや、病原菌・ウイルスなどの感染や害虫の食害による生</p>	オムニバス方式

			<p>物ストレスに対する防御機構を備えている。本講義では、植物の環境および生物ストレスに対する生体防御機構について遺伝子発現制御機構を中心に分子・細胞レベルでの応答機構について講義する。特に小分子RNAを介した遺伝子発現制御機構（RNAサイレンシング）による植物の生体防御機構について、最新のトピックスを交えて講義する。</p> <p>(No.6 夏目 雅裕 / 5回)</p> <p>植物病原微生物が植物に病害を起こすには、遺伝子やタンパク質・酵素などの高分子化合物とともに、種々の生理作用を示す低分子の制御物質（生理活性物質）が関与している。本講義では植物病原微生物の宿主認識に関わる化合物、植物による病原菌の侵入や害虫による食害の感知・抵抗性発現に関わる化合物、植物細胞に対する毒性化合物や病原菌の付着器や孢子形成などの分化を制御する化合物などについて、生物有機化学的な視点から論ずる。</p> <p>(No. 153 中村 達 / 5回)</p> <p>安定的な食料生産のためには病害虫などによる損失を避ける必要がある。これは、特に発展途上地域において、農業生産上、最重要課題のひとつである。害虫防除法の中には積極的に天敵を利用する方法があり、19世紀後半から本格的に実践されてきた。本講義では、開発途上地域で国際共同研究として行ってきた天敵利用による害虫防除を中心に、これらの天敵をより効果的に利用するための基礎研究の重要性について述べるとともに、近年世界的に注目されつつある昆虫を食料や飼料として利用することとあわせ、「昆虫利用」について論議する。</p>	
専門科目	生物生産科学コース	生物制御科学IV	<p>(概要)</p> <p>食料生産の安定的な確保を目指す上で、農業上重要な植物に対する保護技術の発展や植物の成長制御の仕組みを理解することで新たな技術革新を目指すことは今後の研究や人材養成として重要な課題となる。植物が備える環境応答・環境適応のメカニズム、微生物-ウイルス間、昆虫-ウイルス間の相互作用等に関する最新の知見やトピックスを、生理活性物質を介した制御機構、遺伝子レベル、分子レベル、および個体レベルの視点で講義をする。化学や生物学をそれぞれ専門とする第一線で活躍する教員3名がオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(No.9 仲井 まどか / 5回)</p> <p>安全で安定的な食料生産には、病害虫や雑草などの有害生物による損失を避ける必要がある。一方、国内外の食料生産の現場では、持続的かつ環境保全な病害虫</p>	オムニバス方式

			<p>防除技術が求められている。本講義は、応用昆虫学および植物保護について議論し学生が能動的に学ぶことを目的としている。昆虫の農林害虫の防除、天敵微生物や農業有用昆虫の利用、天敵や昆虫の生物間相互作用に関する理解を深め、環境保全型農業の推進や生物的防除に関する国内外の最新のトピックに触れる機会を作る。</p> <p>(No.64 森山 裕充／5回)</p> <p>菌類に感染するマイコウイルス研究は、新規なゲノム構造やタンパク質機能の発見に繋がる。本講義では植物病原菌や酵母菌に感染するウイルスの分子構造や、その維持・増殖に関与する宿主遺伝子の研究により明らかにされた細胞分子生物学上の基礎的知見を学ぶ。更にウイルスの遺伝子発現が宿主菌の生育・病原性・薬剤感受性などを制御する機構を考察することで、農業の営みとマイコウイルスとの関係、及びその応用展開について論ずる。</p> <p>(No. 154 中嶋 正敏／5回)</p> <p>主に低分子として知られる植物成長調節物質は、互いに関連し制御しあうことにより、他の場所への移動ができない植物たちの周囲環境への適応を巧妙に図っており、それに拠って自身の生存を可能にしている。本講義では、植物が体内で作るこれら成長調節物質からの情報が伝わる仕組みに着目して、外部投与の化合物をその仕組みに作用させ農作物の生産課題の解決に活用する研究アプローチについて、主に植物生化学の観点から議論する。</p>	
専門科目	生物生産科学コース	生物生産科学特論 I	<p>(概要)</p> <p>生産環境科学の第一線で活躍する研究者を非常勤講師として招き、この分野における諸課題とトピックスについて論ずる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(No.155 三浦 英樹／4回)</p> <p>土壌学、肥科学、植物栄養学、および関連する分野における最新のトピックスについて論ずる。</p> <p>(No.209 川口 美喜子／4回)</p> <p>作物栽培学、植物保護学、および関連する分野における最新のトピックスについて論ずる。</p>	オムニバス方式
専門科目	生物生産科学	生物生産科学特論 II	<p>(概要)</p> <p>植物生産科学の第一線で活躍する研究者を非常勤講師として招き、この分野における諸課題とトピックスについて論ずる。1単位でお願いします</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p>	オムニバス方式

	コース		<p>(No.156 渋谷 健市/4回) 植物生理学、植物遺伝学、植物育種学、および関連する分野における最新のトピックスについて論ずる。</p> <p>(No.210 加藤 洋一郎/4回) 作物学、園芸学、および関連する分野における最新のトピックスについて論ずる。</p>	
専門科目	生物生産科学コース	生物生産科学特論Ⅲ	<p>(概要) 動物生産科学の第一線で活躍する研究者を非常勤講師として招き、この分野における諸課題とトピックスについて論ずる。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(No.157 大津 晴彦/4回) 畜産学、動物生理・生化学、および関連する分野における最新のトピックスについて論ずる。</p> <p>(No.211 勝間 進/4回) 養蚕学、応用昆虫学、および関連する分野における最新のトピックスについて論ずる。</p>	オムニバス方式
専門科目	生物生産科学コース	生物生産科学特論Ⅳ	<p>(概要) 生物制御科学とその関連する分野の第一線で活躍する研究者を非常勤講師として招き、この分野における諸課題とトピックスについて論ずる。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(No.212 鎌倉 高志/4回) 植物病理学や植物病原学に関連した分野の最新のトピックスについて論じる。</p> <p>(No.213 野村 港二/4回) 植物分子生物学や細胞生物学等に関連した分野の最新のトピックスについて論じる。</p>	オムニバス方式
専門科目	応用生命化学コース	生体分子化学 I	<p>(概要) 応用生命化学及び生体分子化学の学問領域の研究において、生体分子と関連分子の各種解析法の原理と利用法を研究事例とともに理解するため、低分子有機化合物の構造解析法に関する基礎を学ぶ。また、遺伝子の発現および機能の解析に関する研究手法を概観し、研究事例の中で各研究手法がどのように利用されているか講義する。さらに、細胞内分子の細胞内動態の解析に関する研究手法、研究事例および最新の知見を解説する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(No.14 千葉 一裕/4回) 低分子有機化合物の構造解析法に関する基礎について解説する。有機化合物の化学構造とはどのような情報に基づき決定できるのか、その概要を明らかにした後、赤外分光分析法による分子を構成する官能基の推定法、質量</p>	オムニバス方式

			<p>分析法による分子量、フラグメント解析による構造特性解析、ならびに精密質量分析法による分子式の決定の原理を説明する。さらに、核磁気共鳴法による分子内の水素原子、炭素原子の相対的な位置関係の解析を行う。</p> <p>(No.67 北野 克和/4回)</p> <p>低分子有機化合物の構造解析を理解するために、¹H NMR、¹³C NMR、IR、およびMS スペクトルの読み方、解析法について解説する。そして、実際の各種スペクトルを用いて、まずは比較的単純な低分子有機化合物の構造解析法について演習問題を実施しながら説明する。さらには、二次元 NMR のデータの読み方、利用方法についても解説し、実際の研究の現場で複雑な有機化合物の構造決定へも応用できるような内容の講義を実施する。</p> <p>(No.69 松下 保彦/4回)</p> <p>遺伝子の発現および機能の解析法について解説する。次世代シーケンサーを用いた RNA 解析法、質量分析装置を用いたタンパク質解析法、人工変異タンパク質利用法、クロマチン免疫沈降法、酵母ハイブリッド法などの核酸・タンパク質に関する各種研究手法について概観し、遺伝子発現・機能の解析法の根底にある基本的な考え方について講義する。また、研究事例の中で各研究手法がどのように利用されているか解説する。</p> <p>(No.70 佐々木 信光/3回)</p> <p>細胞内分子の細胞内での局在と動態に関するトピックを解説する。タンパク質や RNA などの細胞内分子の多くは、それらの機能に応じて細胞内での局在を変化させる分子メカニズムが存在することが知られている。そのような細胞内分子を可視化し検出する分子標識技術および顕微鏡観察技術の原理について実際の研究事例を交えて講義する。また、植物ウイルスを含む種々の細胞内分子の挙動についての最新の知見を紹介する。</p>	
専門科目	応用生命化学コース	生体分子化学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>生体分子の構造と機能に関する知見を深めるため、様々な手法による生体分子の構造と機能解析、生体分子の物理化学的分析・化学反応について論ずる。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(No.68 好田 正/5回)</p> <p>初回は食品の生体調節機能に関する実験法についての紹介をする。2 回目は食品の生体調節機能に関する実際の研究例について最新の知見を紹介する。3 回目は食品の生体調節機能に関する研究例を引用したグループワークを実施する。4 回目は 3 回目に実施した食品の生体調節機能に関するグループワークの成果についてプレゼンテーションをする。最終回は食品の生体調節機能に</p>	オムニバス方式

			<p>関して総括と今後の展望について議論する。</p> <p>(No.15 服部 誠／5回) 初回は食品タンパク質の単離の方法、クロマトグラフィーによる食品タンパク質の精製について解説する。2回目は、食品タンパク質の構造変化に関する研究手法について、蛍光スペクトル、CD スペクトル、酵素プローブ法、熱分析 (DSC) を取り上げる。3回目は、食品タンパク質の機能に関する研究手法について解説する。4回目は、食品タンパク質の構造・機能に関する研究手法について、乳タンパク質を用いた実際の研究例を詳細に紹介する。5回目は、食品に含まれる様々な機能性成分についての実際の研究例を詳細に紹介する。</p> <p>(No.19 野村 義宏／5回) 細胞外マトリックスの構造ならびに機能を概説し、その調製方法、分析方法について講義する。1回目に細胞外マトリックスの主要構成成分であるコラーゲンを題材に、分子量の測定方法、一次・二次・三次構造の解析法、電子顕微鏡での観察を解説する。2回目は、コラーゲンの利用法について解説する。3回目は、ヒアルロン酸の構造、機能特性、その利用法について、4回目はプロテオグリカンの構造と機能を、5回目は、細胞外マトリックス全般について解説する。</p>	
専門科目	応用生命化学コース	生理生化学 I	<p>(概要) 生理生化学分野における基礎から最新の知見までを学習し理解するため、4名の教員がそれぞれの専門領域に関する基礎的内容から応用に至るまでの範囲を講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.17 三浦 豊／5回) 第1回目に生理生化学 I の概要を説明し、講義全体のイントロダクションを行った後、4回にわたり栄養生理学に関する基礎から応用の範囲の講義を行う。具体的には食品成分の消化・吸収および体内での代謝について学部で講義した部分をさらに詳細に解説し、食品がどのようにして体内に取り込まれ、その後代謝されていくかについての理解を深める。その後、食品による疾病の予防ならびに症状の改善について、代謝性疾患（糖尿病・メタボリックシンドローム）および癌との関連を中心に、最新の知見を交えながら講義する。</p> <p>(No.13 蓮見 恵司／4回) 抗生物質の発見以来、微生物の二次代謝は多様な化合物の宝箱と認識され、膨大な数の化合物がそこから単離されてきた。これらの化合物は進化の過程で何らかの役割をもって誕生し、その多様性を増してきたものと推測さ</p>	オムニバス方式

		<p>れる。地球上の生命のルーツは一つで、大まかにいえば基本的な代謝はバクテリアからヒトに至るまで共有されている。それゆえ、生物によって作られる化合物は他の多くの生物にとって本質的に受容される性質のものであり、また、特定の生物にとっては選択的な生理活性物質として機能する。本講義ではこのような生理活性物質の医薬利用について解説する。</p> <p>(No.136 鈴木 絵里子 / 3回)</p> <p>癌と炎症は密接に関与し、全身あるいは局所の炎症状態は癌の病態を左右する。本講義では、癌と炎症をキーワードに、最新の画像診断技術や癌治療薬、治療戦略に関する総論から、シグナル伝達や癌細胞の糖・脂質代謝、薬剤の分布や排出といった薬理学的観点からの各論に至るまで詳しく解説する。さらに、癌の再発の原因となる癌幹細胞に関する担当教員の研究結果や最新の知見について紹介する。</p> <p>(No.71 木村 郁夫 / 3回)</p> <p>近年の食品科学は単なる現象論の追及からその機能性食品の生理作用を分子レベルで明らかにする方向に進んでいる。食事の結果、腸管内で消化や代謝で生じた産物や、腸内細菌による代謝過程で生じた新たな産物が、宿主エネルギー源としてだけでなく、栄養認識受容体を介してシグナル伝達分子としても働き、様々な生理機能に関わっていることが明らかになりつつある。本講義では腸内環境の基礎知識の学習と本領域の最新の知見について概説する。</p>	
専門科目	応用生命化学コース	<p>生理生化学Ⅱ</p> <p>(概要)</p> <p>タンパク質の構造解析及びいくつかの酵素の構造、糖鎖生物学、遺伝子組換え生物及び糸状菌の研究とその応用に関する最新の知見を論じる。</p> <p>(オムニバス方式 / 全 15 回)</p> <p>(No.18 殿塚 隆史 / 4 回)</p> <p>タンパク質の構造解析は、今や生化学の数ある手法の一つとなった。ここでは、まず X 線結晶構造解析の概要を説明する。タンパク質の立体構造解析が普及したおかげで、さまざまな酵素の立体構造が明らかになった。多糖やオリゴ糖は、その糖を構成する単糖やグリコシド結合の種類によって大変異なるため、糖に作用する酵素も多様である。ここでは、農学・食品分野で重要な糖に作用するいくつかの酵素について、性質および立体構造を紹介する。</p> <p>(No.12 西河 淳 / 3 回)</p> <p>生体内にあるタンパク質には何種類かの糖が幾つかつながった「糖鎖」の結合している糖タンパク質が数多く</p>	オムニバス方式

		<p>存在している。糖鎖は、タンパク質、核酸に次ぐ第三の鎖として近年その構造や機能の解明が進み、これまでに発生、分化、増殖、がん化など様々な段階においてその機能が明らかになりつつある。本講義では、最近「薬」として用いられている糖タンパク質製剤における糖鎖の役割をはじめ、生体内における糖鎖の生理的な機能のあらましを講じる。</p> <p>(No.66 川合 伸也/4回)</p> <p>現在様々な遺伝子組換え作物が作成され、栽培・市販されている。これらの原理と最新の動向について紹介するとともに、植物のゲノム編集、転写活性化因子を抑制因子に変換する Chimeric REpressor Gene Silencing Technology (CRES-T)法による遺伝子発現抑制、リンゴ小球形潜在ウイルス(ASLV)と FT と TFL を用いた開花促進などに代表される New Plant Biotechnology について紹介する。</p> <p>(No.16 山形 洋平/4回)</p> <p>糸状菌は、地球上の陸圏の様々な場所で生育可能な真核生物である。古くから人類は、糸状菌を世界の各地で醗酵や醸造に用いている。また、20世紀以降、その二次代謝産物は、医薬、農薬、化学工業などにも利用されてきている。本講義では、糸状菌の生理・生化学的性質について講義するとともに、最新の分子生物学的な知見についても講義する。また、糸状菌やその酵素を用いた様々な分野での応用についても講義を行う。応用微生物学的観点から見た糸状菌についての理解を深める。</p>		
専門科目	応用生命化学コース	健康長寿科学 I	<p>(概要)</p> <p>老化は、遺伝子により付与される要因に加え、外部の要因によって大きく影響を受ける。外的要因がいかん生体に影響を与えるかに関して、その諸相を分子、細胞、生体システムについて解説する。特に外的要因に対する高齢者の生体反応に関して、分子レベルおよび生理学的立場から考察を加え、抗加齢や健康長寿の源を探る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(No.158 遠藤 昌吾 1回)</p> <p>加齢に伴い、認知機能は30歳代から徐々に低下する。記憶は、他の認知機能の基盤となっていることから、その維持や改善は極めて重要な課題である。記憶の生化学的や細胞科学的そして行動科学的側面について述べつつ、老化に伴う記憶障害や記憶に影響を与える認知症などについて述べる。さらに、高齢化社会での認知機能、特に記憶の社会的な重要性とその維持・改善戦略について述べる。</p> <p>(No.159 柳井 修一/2回)</p>	オムニバス方式

			<p>一般に「年を取ると耳が遠くなる」と言われる聴力の低下は、高音領域を端緒として20歳代から始まる。老化に伴う聴力低下（難聴）には有効な改善手法が存在しないため、難聴を未然に防ぐための努力が重要である。音が聞こえる仕組みと耳科学的疾患、難聴の種類を紹介し、高齢者の聴力特性の理解を目指す。さらに、聴力が低下した高齢者に対する家族等の関わりかたを含め、高齢化社会における「聞こえの問題」について考える。</p> <p>(No.160 堀田 晴美/2回)</p> <p>高齢者における高血圧と一過性低血圧は、ふらつきや転倒、それによる骨折、さらには認知症の発生など、重篤な疾患の一因となります。また高齢者では夜間頻尿や、腰痛などの痛みも増えてきます。これらの症状には自律神経が密接に関わります。この講義では、「痛み」と「自律神経」について、基本的な生理学的しくみを学びます。また、それらの問題に対処するための物理療法の作用メカニズムについて最新の知見を紹介します。</p> <p>(No.161 三浦 正巳/2回)</p> <p>中枢神経に不可逆的損傷を受ける機会は、長く生きていくほど増えるであろう。そのため、一度発達、成熟した神経機能にとって、加齢は危険因子といえる。特定の神経群が変性・脱落する神経変性疾患も、加齢により発症が増え、認知機能や運動機能に疾患特有の障害をもたらす。代表的な神経変性疾患であるパーキンソン病の病態生理や最近の進歩を取り上げ、環境要因や個人的要因も併せて、加齢と神経機能について考える。</p> <p>(No.162 石井 賢二/2回)</p> <p>脳は、生命維持の中枢であると同時に、人間の社会性や知的活動を生み出す重要な臓器である。健康な脳の加齢変化は、成熟と機能低下が混在する。近年話題となっている認知症の原因として、難溶性のタンパク蓄積が注目されている。この講義では、先進的脳画像診断技術（MRI や PET）を用いて、脳の加齢変化と、現在精力的に研究が進められている認知症の原因や根本治療薬（疾患修飾薬）開発について、最新の研究成果を概説する。</p> <p>(No.163 村山 繁雄/2回)</p> <p>神経細胞は原則として再生せず、発生の時期からの寿命を有する。老化により蛋白分解酵素サーベイランスが破綻し、異常蛋白蓄積が起きやすくなる。現在分かっているだけで、アミロイドβ蛋白、タウ蛋白、αシヌクレイン、TDP43 等が知られており、異常立体構造をとり不溶化を獲得するプロセスが細胞障害を起こすこと、異常蛋白が神経回路網を通じ伝播する仮説が唱えられている。これらのプロセスは、合成化学創薬の対象となる。</p>
--	--	--	---

			<p>(No.164 伊藤 雅史/2回)</p> <p>「野菜や果物を多く摂取する」ことが老化関連疾患の予防に効果があることはよく知られている。野菜や果物には二次代謝産物であるファイトケミカルが含まれており、多くが試験管内で抗酸化能を有することから、その効果には酸化ストレスの抑制が関与しているものと考えられてきたが、生体内でそのまま抗酸化物質として機能している可能性は低い。本講義では、ファイトケミカルの機能性を説明する分子メカニズムを概説する。</p> <p>(No.165 新開 省二/2回)</p> <p>疫学とは集団医学とも呼ばれ、大勢の人を対象にして様々な健康現象に関わる要因を探索する学問である。元気で長生きすることを健康長寿と呼ぶが、その健康長寿に係わる要因を解明することも疫学研究の重要な課題である。本項では、わが国における健康長寿の疫学研究から生まれた『健康長寿新ガイドライン』の重要なポイントを学ぶ。</p>	
専門科目	応用生命科学コース	健康長寿科学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>健康長寿に迫る科学には多面的なアプローチが必要である。本講義では、疫学の基礎的概念や加齢に伴う神経細胞変性、サルコペニア、フレイルについて述べる。また、抗老化の観点からファイトケミカルや老化のバイオマーカーについて、さらに、幹細胞を基礎とした再生医療を概観する。社会への還元の大い健康長寿研究のフロントランナーたちが詳述する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(No.166 重本 和宏/2回)</p> <p>2010年にサルコペニアの定義と診断基準が欧州で提唱され、それを土台にして米国に続き2014年にはわが国でもアジア人を基準とする指標が発表された。さらに2017年には、サルコペニアがICD10(国際疾病分類)に登録されるに至り疾病としての概念が確立された。本講ではサルコペニアとフレイルの関係と病態メカニズムに関わる基礎研究の最前線を紹介する。</p> <p>(No.167 上住 聡芳/2回)</p> <p>骨格筋の老化(サルコペニア)は、健康を脅かす深刻な問題である。細胞の入れ替わり率(ターンオーバー)の高い組織では、幹細胞から断続的に子孫細胞が産生され組織が維持されるが、骨格筋はターンオーバーが極めて低い。骨格筋には筋衛星細胞と呼ばれる幹細胞が存在するが、幹細胞は筋の維持・老化に関係するのだろうか?本講義では、筋の幹細胞システム、そして、幹細胞と筋組織の老化についての研究の最前線を紹介する。</p>	オムニバス方式

		<p>(No.168 豊田 雅士／2回)</p> <p>ヒトは約 37 兆個、200 種類余りの細胞から構成されています。これらの細胞が各々の機能を果たすことで「生きている」こととなりますが、加齢とともにその機能は低下、すなわち老化し、病態発症へとつながっていきます。生体の恒常的機能を維持するのを支えているのが「幹細胞」です。幹細胞の果たす役割とは何かを考え、また期待される幹細胞を使った再生医療とはどのようなものかについて講義します。</p> <p>(No.169 井上 聡／2回)</p> <p>性ホルモンを含むステロイドホルモン、甲状腺ホルモン、ビタミンDやレチノイン酸などは細胞の増殖や分化、細胞・生体機能の調節ばかりでなく、様々な疾患やがん・老化に関与している。これら脂溶性小分子はそれぞれに特異的な核内受容体を介して働く。ヒトには 48 種類の核内受容体が存在し、老化と加齢性疾患の制御に深く関わっている。本項目では、核内受容体の構造と機能、老化や各種病態における役割について概説する。</p> <p>(No.170 近藤 嘉高／2回)</p> <p>初めに、老化の基本概念として、加齢や老化の違い、寿命、老化バイオマーカーの要件について説明する。次に、私たちの研究を例にして、老化マーカー候補としての加齢指標タンパク質 30 (SMP30) の発見から、ビタミン C 合成を担う酵素としての機能同定、ビタミン C を合成できない SMP30 ノックアウトマウスを用いたビタミン C の機能解明や老化関連疾患との関わりまで、栄養と老化の関わりについて講義する。</p> <p>(No.171 大澤 郁朗／2回)</p> <p>酸化ストレス防御系の破綻が老化と関連疾患の主要なエンハンサーであると考えられ、その効果的抑制法が探索されてきた。いわゆる健康食品の開発もその延長線上にあるが、作用機序と効果の両面で十分な研究成果が挙げられているとは言えない。そこで、近年、大きく着目されている水素分子について、疾患モデル動物を用いた研究から人での臨床研究及びその作用機序について概説し、その問題点と今後の展開を議論する。</p> <p>(No.172 三浦 ゆり／2回)</p> <p>生体を構成する様々な分子の中で、実際の生命活動に携わっているのはタンパク質である。酵素反応、細胞内外への物質の輸送、分子の認識など、生命を維持するうえで重要な機能を担っているため、タンパク質を網羅的に調べることにより、老化や疾患の分子機構に迫ることができる。本講義では、オミクス研究のひとつである「プロテオーム解析」を用いた、バイオマーカー探索や病態</p>	
--	--	---	--

			<p>メカニズムの解明をめざした研究について紹介する。</p> <p>(No.173 萬谷 博/1回)</p> <p>遺伝的要因を決定しているものはゲノムの塩基配列情報だが、実際に機能している分子は翻訳産物のタンパク質である。多くのタンパク質はさらに翻訳後修飾を受け本来の機能を獲得するため、翻訳後修飾に異常が起きると様々な疾患の原因となる。本項では翻訳後修飾の一つである糖鎖がどのように老化や疾患に関わるかを紹介する。</p>	
専 門 科 目	応 用 生 命 化 学 コ ー ス	応用生命化学特論 I	<p>(概要)</p> <p>生活環境、生活習慣、食生活や加齢など様々な因子の影響を受けやすく、遺伝子により直接支配を受けていない糖鎖の合成と極めて可塑性に富む脳機能に焦点を当てる。糖鎖が関わる疾患や脳が関わる疾患について、それらの基礎的な知見から、現在社会的な問題となった認知症まで幅広くとらえて詳述する。</p> <p>(オムニバス形式、全8回)</p> <p>(No.173 萬谷 博/4回)</p> <p>生体で作られるタンパク質の多くは糖鎖が修飾されている。糖鎖はタンパク質の性質や機能に影響し、細胞や分子間の認識において重要な役割を果たしており、糖鎖の変化は細胞の生理状態を反映する。糖鎖の生合成はゲノムに直接支配されず、複数の酵素による逐次的反応であることから、環境や加齢など様々な因子の影響を受けやすい。本講義では、糖鎖および老化に関する研究や知見を紹介し、糖鎖異常と疾患について概説する。</p> <p>(No.158 遠藤 昌吾/4回)</p> <p>社会活動を支える人の行動は、“脳”により支えられている。脳機能、神経機能を理解することは人を理解すること、ひいては社会や生産活動を支える人の行動を理解することである。本講義では、脳機能の中でも各種の高次機能の基礎となっている“記憶”に焦点を当て、はじめに記憶を支える脳や神経について述べ、そして、記憶がいかに我々の行動そして社会を動かしているかについて、また、認知症などの記憶関連疾患が社会に及ぼす影響について述べる。高齢化社会に必要な脳や神経系の基礎知識と、老化への対処方法についても述べたい。</p>	オムニバス方式 隔年 H31 年度開講
専 門 科 目	応 用 生 命 化 学 コ	応用生命化学特論 II	<p>(概要)</p> <p>サルコペニア（加齢性筋肉減少症）は高齢者のADL(activity of daily living)とQOL(quality of life)を損なう主要な原因である。サルコペニアは遺伝因子と環境要因など多様な老化促進因子が長時間重なっておきる。本講では、サルコペニアを理解するために必要な基礎知識から最新の研究について理解した上</p>	隔年 H32 年度開講

	一 ス		で、問題点を議論できるようになることを目的とする。	
専 門 科 目	応 用 生 命 化 学 コ ー ス	応用生命化学特論Ⅲ	(概要) 生活習慣病である糖尿病について、その発症の分子機構を基礎的および臨床的側面から講義する。特に膵臓からのインスリン分泌の調節機構とその破綻について最新の分子機構を詳細に解説する。また実際の臨床例を元に動物モデルとヒト疾患との違いを解説し、糖尿病治療の基礎から応用までの理解を深める。さらに糖尿病の発症や進展に係る食習慣、予防の可能性のある食品成分、食習慣などについても実験例や臨床例を取り上げながら解説する。	隔年 H31 年度開講
専 門 科 目	応 用 生 命 化 学 コ ー ス	応用生命化学特論Ⅳ	(概要) ヒトの病気は、遺伝的要因ならびに環境的要因により起こる。本講義では、各種遺伝子解析技術の特徴と医科学への応用について、ヒト大腸癌および胃癌を中心に遺伝性及び孤発性癌の発生機構を genetics ならびに epigenetics の側面から解説する。また、超高速 DNA シークエンシング技術の現状、更には遺伝子医療、バイオ産業、遺伝子リテラシー教育など生命科学を取り巻く状況についても概説し、医科学研究における遺伝子解析技術の方向性について展望する。	隔年 H32 年度開講
専 門 科 目	応 用 生 命 化 学 コ ー ス	応用生命化学特論Ⅴ	(概要) 分子生物学は生命現象を分子レベルで理解することを目的とする。本講義では、生態的および応用の観点で重要な糸状菌を対象とし、糸状菌の遺伝学から工業利用まで解説する。内容としては、糸状菌の培養・真核微生物の多様性と分類・真菌類の生活環・糸状菌を用いた発酵食品と飲料・麹菌のベクターとゲノム解析と転写因子と発現制御・バイオ燃料と生物材料・遺伝子組換え技術の応用・遺伝子組換えと社会であり、さらに、麹菌の細胞表面タンパク質ハイドロフォーピン研究を例にとって麹菌の分子生物学研究を概観する。	隔年 H31 年度開講
専 門 科 目	応 用 生 命 化 学 コ ー ス	応用生命化学特論Ⅵ	(概要) 生物は膜を巧みに利用して生命を維持していて、細胞は外界と細胞膜によって仕切られ、オルガネラはオルガネラ膜によって囲われている。これら生体膜は、それぞれ特徴的な形態や、適切な大きさになるように形成されており、膜の形態形成異常は、高等動物では疾患の原因にもなる。本講義では、生体膜の形態形成の分子機構について解説する。また、酵母遺伝学の研究が、生体膜形成を含めた様々な生命現象の解明に役立ってきているので、それについても説明する。 (No.177 舘川 宏之 4回) (概要) 「酵素」は、常温常圧で反応が行われる「環境に低負荷な生体触媒」として、様々な分野で産業利用されてい	オムニバス方式 隔年 H32 年度開講

			<p>る。産業用の酵素は主に微生物によって生産されており、その開発には新規有用微生物の探索、酵素の生化学的性状解析や立体構造解析、酵素の活性、基質特異性、安定性などの機能改変、微生物による酵素の大量生産技術、など様々な技術が必要である。本講義では、これらの各技術開発の概要や、実際の研究事例の紹介などを行う。</p> <p>(No.178 矢追 克郎 4回)</p>	
専門科目	自然環境資源コース	環境資源材料学 I	<p>(概要)</p> <p>バイオマスを含む様々な物質(低分子量物質から生体高分子化合物まで含めた多様な分子)の分子運動を理解するための研究法として、誘電緩和法と粘弾性測定法の基礎理論、測定法、さらに解析法を習得する。</p> <p>環境中における様々な有機化合物の光化学反応、および生物による光化学反応の詳細な機構を講義する。</p> <p>(No.20 四方 俊幸)</p> <p>セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹)</p> <p>有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p>	隔年
専門科目	自然環境資源コース	環境資源材料学 II	<p>(概要)</p> <p>材料研究に用いられる計測技術の測定原理と応用、さらにケモメトリックスによる解析技術を習得する。また、分子間相互作用が物質の性質を支配する事実も講義する。</p> <p>木質材料の製造に使われる工作機械について、種類、機構、特徴、使用法を習得し、ものづくりに必要な基本的な製図法も合わせて解説する。</p> <p>(No.23 高柳 正夫)</p> <p>分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.123 安藤 恵介)</p> <p>木材・木質材料、機械加工、木材乾燥、レーザー加工、作業環境</p>	隔年
専門科目	自然環境資源コース	資源機能制御学 I	<p>(概要)</p> <p>植物細胞壁の主体であるセルロースやヘミセルロースなどの構造多糖類の構造や化学的性質、利用事例等を習得し、天然高分子である多糖類のさらなる有効利用法を解説する。</p> <p>木質資源の基本的性質、高機能化、高度利用のための接着加工、複合化加工、化学修飾加工等の利用について習得し、バイオマスとしての利用法をバイオリファイナリーの観点から解説する。</p> <p>植物細胞壁を構成する高分子類の構造とその機能なら</p>	隔年

			<p>びに生合成・生分解機構等について習得し、細胞壁特有のバイオマスの構造多様性やその解析方法についても解説する。</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p>	
専門科目	自然環境資源コース	資源機能制御学Ⅱ	<p>(概要) 樹木が形成する木材の形成機構に関する基礎的な知見を最新の研究成果を含めて修得し、植物細胞から得られる生体情報の可視化方法についても解説する。 微生物による植物細胞壁などの生分解機構と制御法を基礎から応用まで総合的に習得し、生分解性が生態系の物質循環に果たす意義と、人間生活への有用性について解説する。</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオファイナリー</p>	隔年
専門科目	自然環境資源コース	環境生物学Ⅰ	<p>(概要) 都市や地球環境における微生物・植物および動物を通じた物質循環と、様々な環境ストレスが生物へ及ぼす影響の解明や生態系の保全・修復に必要な手法の開発などに関して講義する。本講義（環境生物学Ⅰ）では、基礎的な知見の体系的な提供に主眼を置く。</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p>	

			(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動	
専門科目	自然環境資源コース	環境生物学Ⅱ	(概要) 都市や地球環境における微生物・植物および動物を通じた物質循環と、様々な環境ストレスが生物へ及ぼす影響の解明や生態系の保全・修復に必要な手法の開発などに関して講義する。本講義（環境生物学Ⅱ）では、応用的な側面を中心に最新の知見の紹介に主眼を置く。 (No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化 (No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動	
専門科目	自然環境資源コース	環境化学Ⅰ	(概要) 水、大気、土壌など様々な環境における生元素の分布と、生物圏における循環、人間活動による物質循環の攪乱を、主として化学的視点から講義を行う。対象域は大気、河川、湖沼、汽水域、沿岸域から外洋までを扱う。 (No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟 (No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染	
専門科目	自然環境資源	環境化学Ⅱ	(概要) 微量元素・無機物質および有機化合物の水、大気、土壌など様々な環境における分布と生物圏における循環を、人間活動による攪乱を軸に解説・講義する。対象域は熱帯地域から、南北両極域まで地球的な規模をカバーする。	

	コース		<p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染、</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p>	
専門科目	自然環境資源コース	生態系保全学Ⅰ	<p>(概要) 本講義では、環境問題の観点から野生動物の生態を学び、保全策について考察を行う。また中大型野生動物の被害発生機構と対策の取組みについて自ら考える力を養う。さらに、人間と野生動物の関わり、野生動物への福祉的配慮、動物園学、絶滅の危機と保護増殖、野生動物医学の概要について理解し、議論できる能力を養う。</p> <p>(No.84 金子 弥生) 本講義では、環境問題の観点から野生動物の生態を学び、保全策について考察を行う。また中大型野生動物の被害発生機構と対策の取組みについて自ら考える力を養う。</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 人間と野生動物の関わり、野生動物への福祉的配慮、動物園学、絶滅の危機と保護増殖、野生動物医学の概要について理解し、議論できる能力を養う。</p>	
専門科目	自然環境資源コース	生態系保全学Ⅱ	<p>(概要) 持続的な自然資源の獲得と生物多様性や生息環境の保全を両立させるための理論と具体的手法について理解するため、雑木林の植生管理と自然資源管理・生物多様性の関わり及び空間情報の活用を取り上げて、具体的な自然資源管理の手法を学ぶ。</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p>	

			<p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p>	
専門科目	自然環境資源コース	生態系保全学Ⅲ	<p>(概要) 人間の生活環境を構築する際に重要となる「アメニティ」「快適性」の考え方に着目し、快適性を感じずる主体（ヒト）とその生理・心理・行動指標を理解するとともに、自然環境を活用した快適性デザインの方法（含実践）について学ぶ。</p>	
専門科目	自然環境資源コース	森林環境保全学Ⅰ	<p>(概要) 森林生態学、森林土壌学および森林水文学に関する基礎と応用を学習するとともに、最新トピックスについて講義や受講生の調査・発表を通して、森林環境保全と管理の実践的な理論や調査研究手法への理解を深める。本講義によって、森林の生態、土壌および水文学における最新の知見を学び、これらの調査研究やデータ解析方法などを修得し、森林環境の保全と管理の知識と技術に関する修士論文研究に応用できることが到達目標である。</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p>	
専門科目	自然環境資源コース	森林環境保全学Ⅱ	<p>(概要) 森林・農地・河川・都市の自然資源管理および市民参加・住民参加のあり方、自然環境保全の住民運動・市民運動や思想を学ぶ。木材資源、エネルギー資源、森林を環境として持続的に利用するための考え方と技術を学ぶ。森林計画学における理論と方法について概観し、地域の森林計画を調査して現況や課題等を発表・討論する。木材生産および森づくりのための知識・技術を学び、森林施業プランナーとしての基礎的素養を身につける。</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p>	

			<p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p>	
専門科目	自然環境資源コース	森林環境保全学Ⅲ	<p>(概要) 森林における鳥獣、昆虫、植物など様々な生物の役割を学ぶことによって森林生態系の複雑な仕組みを理解するとともに、森林の健全性を維持するために、生物によってもたらされる森林被害やその予防・対策の手法について学ぶ。</p> <p>(No.90 小池 伸介) 上記内容について、おもに鳥獣を対象に学ぶ。</p> <p>(No.125 吉田 智弘) 上記内容について、おもに昆虫、土壌生物を対象に学ぶ。</p>	
専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論Ⅰ	<p>(オムニバス方式／全15回) (概要) 「バイオ錬金術」という基本コンセプトに立脚し、有機溶剤を一切使わない生物機能と水のみからなる生物材料のボトムアップ的三次元構造体の構築と、生物素材(バイオマス)のトップダウン的ナノ微細化という両面から成る循環型社会の概念を習得し、木質バイオマスなどの再生可能資源の機能解析や利用技術に関する最新情報を講義する。</p> <p>(No.179 近藤 哲男 (8回／全15回))</p> <p>(概要) 木材由来のセルロースナノファイバーは、鋼鉄の5分の1の重さで、5倍の強度があるとも言われる将来有望な新素材である。現在約180社の国内企業が参画した経済産業省主導のセルロースナノファイバーを基軸としたフォーラムが展開され、新産業が興りつつある。このセルロースナノファイバーの基礎と応用に関して詳細に解説する。</p> <p>(No.180 齋藤 継之 (7回／全15回))</p>	オムニバス方式 集中
専門科目	自然環境資源	自然環境資源学特論Ⅱ	<p>(オムニバス方式／全15回) (概要) 土壌・食品・微生物・紙パルプ・印刷技術・水環境などで扱う問題の多くがコロイド界面科学と密接に関わっていることを学び、学術的にも、技術的にも共通性の</p>	オムニバス方式 集中

	源 コ ー ス		ある展望を習得する。さらに、モデルコロイドの凝集現象に着目したデータ解析法の有効性とその展開について解説する。 (No.181 足立 泰久 (7回/全15回)) (概要) 日常生活に活用される様々な電磁波(γ線、X線、紫外光、可視光、近赤外光、赤外線光、テラヘルツ光など)について、その性質や有効に活用するための基礎原理について習得し、実際に応用されている現場についての現状と展望を講義する。 (No.182 宮澤 光博 (8回/全15回))	
専 門 科 目	自然 環 境 資 源 コ ー ス	自然環境資源学特論Ⅲ	(オムニバス方式/全15回) (概要) 木材の樹種を識別することは、木材を適材適所で利用する上で非常に重要であることを習得する。例えば、違法伐採により生産される木材や木材製品の流通対策においては必須であり、様々な樹種識別手法が特徴を生かしながらどのように使い分けられているかについて解説する。 (No.183 安部 久 (8回/全15回)) (概要) 生物が作り出す、地球上で最も豊富な有機物資源であるセルロースを含む結晶性多糖類を議論の対象として取り扱い、その構造、物理的性質、化学反応、さらに特異な現象等を習得し、それらの知識を高機能性材料の創製に活かす手法についても最新の知見を交えながら解説する。 (No.184 和田 昌久 (7回/全15回))	オムニバス方 式 集 中
専 門 科 目	自然 環 境 資 源 コ ー ス	自然環境資源学特論Ⅳ	(オムニバス方式/全15回) (概要) 木質ボードの製造方法を理解することでボードの特徴や問題点を把握し、製造方法や性能を改良するための方法についての知見を習得する。さらに、木質ボードの劣化プロセスについて理解し、環境条件による劣化過程・材料としての寿命を予測するための統計的手法について解説する。 (No.185 高麗 秀昭 (8回/全15回)) (概要) バイオエコノミー社会の到来を見据え、持続的かつ再生可能な資源の有効利用について、特に、リグノセルロース系バイオマス利用の可能性について習得する。本講義はマクロスケールの話題のみにとどまらず、ミクロスケールでのバイオマス糖化メカニズムに関する話題までを広く解説する。 (No.186 五十嵐 圭日子 (7回/全15回))	オムニバス方 式 集 中

専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論V	物質循環に関わる生物学に関する最新トピックスを解説する。 (No.187 堅田 元喜) 講義キーワード：大気陸面相互作用，陸面モデル，大気沈着，窒素循環，森林生態系	隔年 31年度開講
専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論VI	物質循環に関わる生物学に関する最新トピックスを解説する。 (No.188 張野 宏也) 講義キーワード：生態影響、リスク評価、バイオレメディエーション、有機金属化合物、環境挙動	隔年 32年度開講
専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論VII	物質循環に関わる化学に関する最新トピックスを解説する。 (No.189 熊田 英峰) 講義キーワード：分子マーカー、化合物レベル安定同位体解析、道路排水、多環芳香族炭化水素、モニタリング	隔年 31年度開講
専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論VIII	物質循環に関わる化学に関する最新トピックスを解説する。 (No.190 岩田 智也) 講義キーワード：河川生態系 栄養塩動態 栄養塩スパイラル 水系ネットワーク 好氣的メタン生成	隔年 32年度開講
専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論IX	(概要) 自然資源の保全のためには、その源となる生物多様性の成り立ちについて十分な理解が不可欠となる。本科目では他の科目では扱いが限られるものの、重要となる草地生態系と樹冠生態系に特に注目し、これらの生態系を対象とした画期的な研究を展開する新進気鋭の研究者から、その生物多様性の成り立ちや維持機構および望まれる保全策について最新の知見を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (No.191 中村 彰宏／8回)	オムニバス方式

			<p>海外で実施されている大規模研究の事例を中心に、気候変動が生物群集に及ぼす影響や林冠の生物多様性について学ぶ。</p> <p>(No.192 内田 圭／7回)</p> <p>自然資源管理（特に保全生態学）における、基礎的および応用的な研究から知識を得る。特に自然と半自然という概念について、日本ならびに世界各地の研究から理解を深める。</p>	
専門科目	自然環境資源コース	自然環境資源学特論X	<p>(概要)</p> <p>森林を中心とした自然資源管理のあり方について、これまで実態調査を積み重ねてきた2人の新進気鋭の研究者から直接、研究内容を提示していただき、議論することから実践的に学ぶ。1人は、最も現代的な自然資源利用の形の1つとしての保護地域が対象であり、もう1人は最も原初的な利用の形としての入会利用を対象とする。しかし、方向性は2人とも同じかも知れない。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.193 柴崎 茂光／8回)</p> <p>自然遺産および近代産業遺産も含めた文化遺産の保全と管理のあり方等について実態に基づいて学ぶ。</p> <p>(No.194 山下 詠子／7回)</p> <p>入会林野の変容過程と生産森林組合、財団法人等の現在の法制度下の実態、今後の地域における貢献のあり方等について実態に基づいて学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門科目	食農情報工学コース	地域環境工学Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>不飽和帯における水文学的・物理的・化学的・生物学的な各過程について、特に多孔質体中の水・化学物質・熱の移動の理解を深め、その知識を環境政策や環境修復などの意思決定過程に取り入れる方法を学ぶ。また、上記物質移動に関する数値シミュレーション技法について、その基礎と応用について学ぶ。</p>	
専門科目	食農情報工学コース	地域環境工学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>学際研究の実践を主たるテーマとして、異分野間でのディスカッションの困難さ(用語や空間の定義についての齟齬など)を体感しながら、各人研究の“立ち位置”を再確認し、最終的には農業農村政策の動向を踏まえた共同研究案を提案する。また、農村計画学が、農村振興、東日本大震災の復興支援に果たす役割と課題について話題提供しながら、大学の地域貢献のあり方について考える機会とする。</p>	
専門科目	食農情報	地域環境工学Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>農業水利ストックの性能設計に必要な、目的・機能の決定、モデリング、シミュレーション、最適化手法、具象</p>	

目	報 工 学 コ ー ス		化設計、運用というシステム工学における一連のプロセスについて、応用例を交えて学ぶ。また、社会資本として膨大な農業水利ストックの維持管理はどうあるべきか、資産管理面、地域共同、水環境保全の新たな取り組みも含め、農業水利システムにおけるマネジメント工学について解説する。	
専 門 科 目	食 農 情 報 工 学 コ ー ス	生物生産工学 I	<p>(概要)</p> <p>前半は、情報技術に関連するスキルを身につけ、いろいろな専門分野の人と協力して研究を遂行する上で必要な技術を習得するため、方程式を数値計算法により解く手法を中心に学ぶ。</p> <p>後半は、地域環境を時間的・空間的・定量的に捉えるべく、さまざまな問題の解決や対策に必要な各種空間情報の収集・解析手法を既往研究等のレビューにより理解を深める。その上で、受講生各々が地域環境問題とその対策においてテーマを絞りながら、空間情報技術の応用可能性について、受講生たちとの論議を通じて考える。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(No.96 辰己 賢一)</p> <p>第 1 回：計算と誤差 第 2 回：関数の近似 第 3 回：数値積分 第 4 回：非線形方程式 第 5 回：連立 1 次方程式 第 6 回：常微分方程式 I 第 7 回：常微分方程式 II 第 8 回：偏微分方程式</p> <p>(No.126 山下 恵)</p> <p>第 9-11 回：地域環境問題や地域環境計画における空間情報技術の応用例や既往研究に関するレビュー 第 12-14 回：レビューした既往研究を参考に各自テーマ（仮題）を設定し、背景、問題提議、目的、計画・手法（空間情報の収集/計測、空間データ/画像データの解析手法案）をまとめながら議論 第 15 回：プレゼンテーション・総まとめ</p>	オムニバス方式
専 門 科 目	食 農 情 報 工 学 コ ー ス	生物生産工学 II	<p>(概要)</p> <p>農業における環境や生物の計測とその制御についての知識を習得し、実用場面での課題を理解するとともに問題点を解決する能力を養うため、計測制御に関する基礎的な事項について講ずる。</p> <p>前半は、ゼミ形式での議論を通じて、計測システムの構築や制御対象のモデル化について理解を深める。</p> <p>後半は、農業・農村におけるエネルギーと環境問題の解決に向けて、バイオマス利用に関する計測手法と制御技術を講述し、討議する。</p>	オムニバス方式

			<p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(No.94 帖佐 直)</p> <p>第 1 回：農業、環境を対象としたシステムのモデル化 第 2 回：モデルの数学的な記述 第 3 回：数学的モデルの基礎 第 4 回：数学的モデルの解析 (1) 第 5 回：数学的モデルの解析 (2) 第 6 回：システム制御の理解 第 7 回：制御シミュレーション 第 8 回：実際の適用事例と最近の研究について</p> <p>(No.33 東城 清秀)</p> <p>第 9 回：太陽光熱の計測技術 第 10 回：太陽光熱のエネルギー利用システムの制御と課題 第 11 回：バイオマスの特性計測技術 第 12 回：バイオマスのエネルギー利用技術と課題 第 13 回：バイオマスのエネルギー利用システムの制御と課題 第 14, 15 回「わたしの自然エネルギー利用論」の紹介と討議</p>	
専 門 科 目	食 農 情 報 工 学 コ ー ス	生物生産工学Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>自然現象のダイナミクスのモデリングについて、常微分方程式のオイラー法、ルンゲ・クッタ法の数値解法を学び、プログラミングを演習として行う。</p> <p>また、農学、生態学においてみられるカオス（一見ランダムな変動が単純なメカニズムによって生み出される現象）について、その原理と実データ解析手法について講じる。</p>	
専 門 科 目	食 農 情 報 工 学 コ ー ス	食農情報工学特論Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>食と農に関する情報工学の最新の技術動向、研究手法、研究成果について、以下のキーワードやトピックに基づき解説する。</p> <p>オムニバス方式／全 15 回</p> <p>(No.214 増富 祐司／4 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動、極端気象、収量予測、予測モデル <p>(No.215 張 銘／4 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染、環境工学 <p>(No.216 荒木 徹也／4 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工、農産物流通 <p>(No.217 丸田 洋／3 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新技術導入、情報戦略、農業経営 	オムニバス方式

<p>専 門 科 目</p>	<p>地 球 社 会 学 コ ー ス</p>	<p>共生人間学 I</p>	<p>(概要) 人の動物や自然との関係は多岐に渡り、その研究方法にも様々な切り口がある。この授業では、人の動物や自然との関係を心理学や哲学などの人文社会科学を中心に、その近接領域の知見にも触れながら学び、人の動物や自然との共生について考察する。国内外の学術書も読み、人の動物や自然との共生関係についての研究の概観を理解する。</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p>	
<p>専 門 科 目</p>	<p>地 球 社 会 学 コ ー ス</p>	<p>共生人間学 II</p>	<p>(概要) 歴史学は、「過去」を復元し、その「過去」と対話することで、自分たちの生きる時代や社会・文明を見つめなおそうとする学問的な方法論である。それは従来、人間や人間社会の歴史として語られてきたが、社会や文明の持続性に対する懐疑の高まりを前に、私たちの歴史認識も揺らいでいる。このなかで、「環境」や人びとが地域の自然に働きかけるなかで継承されてきた「生業」「文化」などをキーワードにして、歴史を捉えなおそうとする研究が蓄積されてきている。この授業では、それらの研究動向を概観・体感する。</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.128 竹本 太郎) 近代化、農山村、森林史、村落、入会</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p>	<p>地 球 社 会 学 コ ー ス</p>	<p>環境社会関係学 I</p>	<p>(概要) 環境問題をより大きな社会の状況や社会制度と関連付けて理解するため、最初に教員が社会制度に関する基本的な内容を説明し、その後具体的な事例に基づき、参加者の議論により理解を深める。</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発、</p>	

<p>専 門 科 目</p>	<p>地 球 社 会 学 コ ー ス</p>	<p>環境社会関係学Ⅱ</p>	<p>(概要) 理論と体系の大枠を理解すると共に初歩的な法的思考方法又は教育手法を身につけるため、環境法の基本原則・環境保全の手法・環境紛争とその解決方法の他に教育実践手法等に関する、環境法又は教育実践に関わる一又二冊の本を、学生に分担して報告してもらい、それについて議論を行う。その中で、適宜そのテーマに合わせた講義も行う。</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p>	
<p>専 門 科 目</p>	<p>地 球 社 会 学 コ ー ス</p>	<p>食料環境経済学Ⅰ</p>	<p>(概要) 農業と関連産業にまつわる論点を整理し、受講生各自の考えを確立し、それを表現することができるよう、農業構造と農産物食品流通構造・消費構造とを、地域経済、国民経済、世界システムの視点から捉え、その現状と問題点を把握するとともに、今後の展望について検討する。</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業政策, 農業生産法人, 家族経営, 国民経済, 世界システム</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造, 生産力構造, 地域労働市場, 地域農業システム, 集落営農</p>	
<p>専 門 科 目</p>	<p>地 球 社 会 学 コ ー ス</p>	<p>食料環境経済学Ⅱ</p>	<p>(概要) 経済発展過程における農業資源流動性を経済学的視点から分析できる能力を身につけさせるため、農業生産構造の変化に関する文献の講読を通して、農業生産の経済学視点からみた特徴および経済発展過程の農業資源流動性、特に農業要素(資本、労働力)移動や市場取引・貿易の変容について理解する講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(No.38 千年 篤/8回) 文献の購読を通して、農業生産を行う経済主体の特徴と経済主体の行動を記述する経済モデルの基礎理論を習得する。特に、農業生産技術の発展・選択及び農業生産要素の利用効率性と農業生産要素市場の関連性に着目し、現実の農業・農村に関わる事象を経済学的に説明する力を身につける。</p> <p>(No.130 草処 基/7回)</p>	<p>オムニバス方式</p>

			文献で取り上げられている農業・農村を対象とした実証研究を紹介し、実証分析の基礎理論と応用例を学ぶ。特に、農業生産技術及びその発展における地域間の差異が経済学においてどのように把握されてきたかに着目する。また、課題報告とその議論を通して、学生の興味に応じた仮説検証型の分析アプローチを紹介する。	
専 門 科 目	地 球 社 会 学 コ ー ス	食料環境経済学Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>食料の生産から消費までの流れであるフードシステムをローカルとグローバルの両方の視点から捉え、その現状と問題点を把握するとともに、今後の展望について検討する。関連する書籍の輪読、学生による発表、教員による解説と補足的な講義を実施する。具体的には、アグリビジネス、フードマーケティングや関連する農業政策などについての文献を取り扱う。発表や議論を通じて学術的なコミュニケーションの基礎を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.35 野見山 敏雄／7回)</p> <p>マーケティングの基礎と応用について学び、現実社会の問題点を考察する。マーケティング論の教科書を1冊選定して、輪読形式で報告と議論を行う。ケーススタディとして、食料農業関連企業の映像を視聴し、議論する。また、必要に応じて関連する項目について講義と解説をおこなう。</p> <p>(No.139 観山 恵理子／8回)</p> <p>日本の農業政策とフードシステムに関する書籍を輪読することを通じて、日常的な食料消費と食料生産、日本の食料安全保障との関連を学ぶ。輪読形式で関連する書籍を読み、知識を習得するとともに、発表や議論を通じて理解を深める。</p>	オムニバス方式
専 門 科 目	地 球 社 会 学 コ ー ス	地球社会学特論Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>環境共生型の社会の構築に関する理論の基礎及び研究手法についての基本を学ぶ。あわせて発表の仕方や討論の仕方などを修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.195 濱野 佐代子／5回)</p> <p>人と動物の関係を、心理学や教育学、動物学に関連づけて学習する。具体的には、人と伴侶動物の関係や歴史、伴侶動物飼育の効用、動物介在介入の実践などを取り上げ、解説する。これにより、人と動物の共生社会を考えるための知識を養うことを目的とする。現代社会における人と動物の関係を考え、生じる諸問題を解決する知識を身につける。また、受講者間で意見交換することによって、知識をさらに深めていく。</p> <p>(No.196 奥田 喜道／5回)</p>	オムニバス方式

			<p>この講義では主に個人尊重を究極の原理とする憲法学的な観点から、環境政策、エネルギー政策、原発事故対策、土地利用政策、交通政策、農林水産業政策について、民主的な参加制度や制度運用のあり方の現状の解説と外国（主にスイス）との比較を行う。</p> <p>(No.197 友田 滋夫／5回)</p> <p>共生社会の基礎である労働力基盤について、日本資本主義の展開と農村の包摂に注目しながら、その変遷と現在生じつつある再編を整理する。農村から都市への労働力移動の歴史、その限界と新たな労働力基盤の形成（労働力を海外に求める動きほか、多様な形態での不安定雇用の増加）、食料基盤を持たざる人々の失業＝食の貧困化、農業農村回帰の動きについて理解する。</p>	
専門科目	国際イノベーションシヨン農学コース	国際環境修復保全学 I	<p>(概要)</p> <p>流域で発生する水や土砂の諸課題を理解し、持続的資源管理に重要となる環境修復と保全技術を理解するとともに応用できる能力を習得するため、主に流域スケールでの、物質循環、水資源管理、流域管理と関連する、土壌侵食、地すべり、土石流に焦点を当て、災害などの攪乱に対する回復、保全、修復技術を学ぶ。特に、急峻な山地における水文学及び地形学プロセスに重点をおき、流域の資源管理について、個別課題を設定しながら学習する。</p>	
専門科目	国際イノベーションシヨン農学コース	国際環境修復保全学 II	<p>(概要)</p> <p>流域から圃場や水田までの水資源、水環境の国際的な議論について理解する。特に、水田における水利用および水田を含む流域の水循環について、水文学、水理学、灌漑排水学からのアプローチに基づき、農業と水資源についての概要を理解するため、近年の課題を把握するとともに、それらのとりまとめや、プレゼンテーション及び各トピックにおける議論を行う。</p> <p>(No.42 渡邊 裕純)</p> <p>農業動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p>	
専門科目	国際イノベーション	国際生物生産資源学 I	<p>(概要)</p> <p>生物機能、特に植物と微生物の機能について分子生物学、遺伝子工学的視点から概説し、さらに生物機能を向上させるための新機能開発及び利用について理解するため、分子生物学や微生物学に関する内容を取りまとめた教材に基づいて講義を行い、生物機能や遺伝子工学の</p>	

	シ ョ ン 農 学 コ ー ス		利点、問題点などをグループで議論し、意見をまとめて発表する。	
専 門 科 目	国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 コ ー ス	国際生物生産資源学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>生物資源の有効的な利活用について作物生産の生態学的知見に基づいて考察し、個々の作物栽培体系での問題解決方を包括的な視点から考えられる力をつけるため、本講義では作物生産の生態学に関する個々のトピックについて学びながら、それらの知見を途上国の生物資源の有効利用にどのように活用していくべきかを包括的に考える視点を持つことを目的としている。参加者が興味を持ったテーマについて各自で調べ、随時発表を行う。</p>	
専 門 科 目	国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 コ ー ス	国際応用生命化学Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>応用生命化学分野における研究内容について、生理生化学および生体分子化学の見地から英語で講義する。具体的には微生物学、生化学、食品科学の分野に関する基礎的知見および研究内容を講義し、さらに最新のトピックスについても紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(No.17 三浦 豊/4回)</p> <p>食は健康と密接に関与しており、近年食品が有する第3の機能を利用して、健康増進・疾病予防を行うことが試みられている。ここでは食品による生活習慣病予防の可能性について詳しく論じると同時に、機能性食品の我が国における制度(特定保健用食品および機能性表示食品)について、その概要を英語で解説する。さらに他の国(米国、EUなど)における機能性食品の制度や取り組み状況を紹介することで機能性食品研究のトレンドを理解することを目的とする。</p> <p>(No.16 山形 洋平/4回)</p> <p>麹菌は、日本の醸造・発酵産業に古くから用いられてきた日本の「国菌」である。麹菌は味噌、醤油、食酢、日本酒などを通じて日本の伝統的な食文化の形成に大きな役割を担ってきた。しかし、麹菌の分子生物学的研究は非常に遅れていた。近年になりようやく様々な解析がなされてきた麹菌の利用の歴史的背景を概説し、なぜ</p>	オムニバス方式

		<p>麹菌が日本の伝統的食品・調味料などの発酵・醸造に用いられてきたのかなどについて最新の研究成果を踏まえて英語で分子生物学的に解説する。</p> <p>(No.68 好田 正/4回)</p> <p>食品は体を作るための栄養やエネルギー源として働くのみでなく、私たちの免疫系にも極めて大きな影響を与えている。しかしながらその詳しいメカニズムは未だによくわかっていない。食品と免疫系との相互作用を明らかにすることが出来れば、日々の食事を通して様々な疾病の予防や治療が可能になると期待される。本講義では、免疫系の仕組みや食品の免疫調節機能、特に、食品アレルギーの発症メカニズムや食品アレルギーを起こすアレルゲンについて最新の知見を英語で説明するとともに、食品成分を用いた種々の免疫疾患の予防や治療に向けた取り組みについても英語で解説する。</p> <p>(No.18 殿塚 隆史/3回)</p> <p>応用生命化学の分野において、酵素を用いた物質生産は重要な研究対象である。酵素の中でもアミラーゼおよびセルラーゼは、長い研究の歴史があり多糖の分解や各種糖の生産に使用されてきた。これらの酵素の基質である澱粉およびセルロースはどちらもグルコースで構成された多糖であるにもかかわらず、アミラーゼは澱粉のみを、セルラーゼはセルロースを分解する。本講義では、アミラーゼおよびセルラーゼを例として、酵素の研究法や立体構造を紹介し、基質特異性などの酵素に特徴的な性質がどのようにして発揮されるのか英語で概説する。</p>	
専門科目	国際イノベーション農学コース	<p>国際応用生命化学Ⅱ</p> <p>(概要)</p> <p>応用生命化学、生体分子化学、生理生化学の学問や技術領域における、遺伝子解析・生物新機能開発・医学分野への展開などにおける国際的な動向を理解し、明確な目的意識をもった基礎研究の手法、学術分野としての社会要請との密接な関連を把握する。イノベーション創出への新たな課題の発見への研究手法、解決方法、技術展開などの実践低名手法を学ぶとともに、新技術の社会実装への方法論を議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(No.13 蓮見 恵司/3回)</p> <p>生理活性天然物の医薬利用に関わる基礎から応用開発までを概説する。</p> <p>(No.66 川合 伸也/4回)</p> <p>遺伝子組換え作物の作成法と近年発達してきた New Plant Biotechnology について概説する。</p> <p>(No.70 佐々木 信光/4回)</p>	オムニバス方式

			<p>生体内分子の局在および動態に関わる解析技術の基礎と応用について概説する。</p> <p>(No.69 松下 保彦/4回)</p> <p>遺伝情報の発現に関わる核酸及びタンパク質の解析技術の基礎と応用について概説する。</p>	
専門科目	国際イノベーション農学コース	国際地域開発学 I	<p>(概要)</p> <p>持続可能な社会に向けての地球環境問題を克服するための必要な国際地域開発について習得するため、本講義では、持続可能な社会を構築するために必要な海外における地域開発について学ぶ。第一に持続可能な社会のために克服すべき地球環境問題の実態について学習する。そして、地球環境問題を克服するための国際地域開発について事例をもとに学習する。そして、国際地域開発を実施している専門家による特別授業を行う。これらの学習をもとにグループワークにより、国際地域開発の計画書を作成、プレゼンテーションを行う。</p>	
専門科目	国際イノベーション農学コース	国際地域開発学 II	<p>(概要)</p> <p>農村開発事業の企画と提案書の作成、事業評価について学ぶため、本講義では、環境に配慮した持続的農業開発のための技術移転のあり方について、具体的な農村・地域の場において理解することを目的としている。受講者は、グループプロジェクトや討論を通して知見を共有し深める。また、本学の国際技術協力事業に関係する専門家を招き、事例研究の特別講義を行う。最後に、持続的農業農村開発協力事業の提案書をグループごとに作成、発表しまとめとする。</p>	
専門科目	国際イノベーション農学コース	国際応用動物学 I	<p>(概要)</p> <p>世界規模での動物繁殖技術・動物飼養技術を確立するため、動物生体の構造、機能、行動、進化について、分子生物学や遺伝学的な知識をもとに概説し、さらに国際感染症対策など、動物疾病に関わる化学物質や病原性微生物について、疾病の予防や治療、さらに公衆衛生に関連する知見について講義や討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(No.45 柴田 秀史/第 1 回)</p> <p>記憶は動物にとってもヒトと同様に重要な高次神経機能で、動物が正常な行動を営むには不可欠である。記憶機能の主な構造的基盤は大脳皮質の神経回路である。今回は記憶機能の基盤となる Papez 回路すなわち海馬</p>	オムニバス方式

			<p>体、乳頭体、視床前核、帯状皮質の神経解剖学を概説する。</p> <p>(No.46 渡辺 元／第2回)</p> <p>世界に目を向ければ、多くの地域で食料が不足している。タンパク質食料の重要な供給源である家畜の生産性を上げるためには、生殖機能の調節機構を理解することが必須である。生殖機能には共通に存在するメカニズムがある一方で、種による違いも存在する。授業では、最近の知見を交えて生殖機能の調節機構について概説し、どうすれば家畜の生産性を上げることができるかを概説する。</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸／第3回)</p> <p>生存と繁殖に関わる動物の普遍的な行動原理を理解することは、動物の繁殖技術や飼養技術を確立するうえで重要な基礎となる。動物の行動原理、行動形質の適応的意義とその進化について解説し、さらには問題行動、動物福祉、人と動物の関係改善といった現実に行き起きている問題について、日本および海外における事例を紹介しながら討論を交え講義を行う。</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎／第4・5回)</p> <p>生物進化の過程で、我々哺乳類は乳腺組織を獲得し、母乳を作り子に与える「哺育」を繁殖戦略に取り入れ発展してきた。本講義では乳腺組織の進化発達の過程とその構造、子を健康に育てる母乳の役割、乳がんや乳房炎などの疾病について実験動物やヒトの知見に加え、他の動物種との比較を交えながら概説する。</p> <p>(No.119 小山 哲史／第6回)</p> <p>動物の繁殖法や飼養法、効率的な疾病予防法や治療法を確立するためには、動物や病原体を含めた全ての生物の形質がどのような要因で進化するのかに関する理解が重要となることがある。そこで本講義では、生物における形質の進化に関する基本原理について解説する。講義においては、これらの基本原理に関する研究例を紹介しながら討論を交えて講義を進める。</p> <p>(No.52 渋谷 淳／第7回)</p> <p>食品中に含まれる化学物質のヒトへのリスクとして、アレルギーのみならず、内分泌かく乱性、あるいは最も深刻な発がん性等が懸念される。本講義では、有害性の程度やその起きる可能性を科学的に予測する動物を用いた「リスク評価」手法を概説し、膨大な費用や時間を要する点で課題の多い「発がん性」と「発達神経毒性」に関して、分子指標を導入した短期予測系の開発に関する我々の取り組みについて概説する。</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.111 吉田 敏則／第 8 回)</p> <p>世界各国で様々な動物の疾病が発生しており、感染症や公衆衛生面からの疾病予防の取り組みが行われている。本稿では代表的な動物の疾病の病理学的特徴を紹介するとともに、ヒトの疾病との共通性や相違点、疾病予防のヒントとなる病理発生機序を最近の研究成果を含めて概説し、疾病予防のためにどのような病理学的なアプローチが必要か討論する。</p> <p>(No.47 竹原 一明／第 9・15 回)</p> <p>21 世紀は、食料の安全・安定的な確保が必須である。アジアでの動物性タンパク質資源を効率的に生産するため、畜産農場の飼養衛生管理は重要であり、特に、農場での病原体の侵入防止、排除のためのバイオセキュリティ強化法について概説する。日本のみならず、世界各国での畜産農場の実情に合わせた手法について、討論を交え、講義する。</p> <p>(No.49 水谷 哲也／第 10 回)</p> <p>この 10 年間で病原体の迅速診断にもイノベーションが起こっている。次世代シーケンサーの登場により、数日でヒトのゲノムを解読できるようになった。国内に未知の感染症が発生した場合にも、このような機器を用いれば迅速に原因病原体を特定することが可能である。講義では最新の迅速診断法を紹介する。</p> <p>(No.107 谷口 隆秀／第 11 回)</p> <p>ウイルスはウイルスレセプターを介して宿主の標的細胞に侵入し、様々な病態を形成する。宿主は免疫応答によって侵入したウイルスを排除しようとするが、産生された抗体によって感染の進行が早まり、宿主の免疫反応が感染病態を悪化させるウイルスが存在する。このようなウイルスに対するワクチンの開発は非常に困難となる。本講義では、コロナウイルスを中心に宿主の免疫応答とウイルス感染病態悪化の機構について概説する。</p> <p>(No.118 大松 勉／第 12 回)</p> <p>口蹄疫や鳥インフルエンザ、狂犬病など、ヒトや動物において感染症は時に深刻な問題を引き起こす。多くの感染症は、その感染環に様々な動物種を介するという事が知られているが、いまだに感染環が不明な感染症も多い。本講義では野生動物を由来とする感染症について概説すると共に、それらを介した家畜感染症の予防法などについて最新の知見を紹介する。</p> <p>(No.108 林谷 秀樹／第 13 回)</p> <p>現在、人と動物の健康を 1 つの概念として捉えよう</p>	
--	--	--	--	--

			<p>する” One Health “の考え方が医学と獣医学領域において主流になってきているが、人と動物の共通感染症 (Zoonoses) は、その主要なテーマとなっている。本講義では、我が国において代表的な人と動物の共通感染症について、その病原体、疫学、予防法等を概説するとともに、” One Health “の考え方を学ぶ。</p> <p>(No.131 石原 加奈子／第14回)</p> <p>国際的な感染症の拡大や、特定の地域や集団における、爆発的な感染者の増加 (アウトブレイク) を抑えるためには、感染症の原因の微生物がどのように伝播したのか、どのような人または動物が感染しやすいのかを理解する必要がある。感染した人や動物の要因を解析する「疫学解析」および感染症の原因微生物 (病原体) の遺伝子型を調べ、地域や集団内で単一の病原体が感染症の原因となっているのかを調べる「分子疫学」について講義する。</p>	
<p>専 門 科 目</p>	<p>国 際 イ ノ ベ ー シ ョ ン 農 学 コ ー ス</p>	<p>国際応用動物学Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>動物の健康、ヒトの医学、生物学の進歩への世界規模の貢献のため、主に伴侶動物における疾患メカニズムと最新の診断・治療法について概説し、ヒト医学や生物学への応用について、個々の事例をもとに、講義や討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(No.50 田中 知己／第1回)</p> <p>獣医療における生殖技術は食料動物の生産技術として研究と普及が進み、畜産現場では雌雄鑑別精液による人工授精や胚移植がルーチンに実施されている。人医療でも生殖補助医療としてこれらの技術を応用した不妊治療が提供されており、また、胚操作技術を駆使した再生医学の研究が進められている。本講義では、動物における最新の生殖技術の概要を解説し、動物の不妊症を予防する取り組みについて紹介する。</p> <p>(No.48 町田 登／第2回)</p> <p>伴侶動物の高齢化が急速に進むのに呼応して、日常診療に占める腫瘍性疾患の割合が着実に増加してきている。またそのような状況の中で、担癌動物に対して先端的な医療技術の提供を求める飼い主も増えている。この講義では、伴侶動物 (犬および猫) に好発する各種腫瘍性疾患の診断法ならびに治療法について最新の知見もまじえて概説する。</p> <p>(No.53 打出 毅／第3回)</p> <p>腫瘍性疾患は人と同様に伴侶動物においても死因の上位を占める。近年、日本を含め欧米では、腫瘍性疾患の診断精度や治療成績の向上を図るため、人医領域より</p>	<p>オムニバス方式</p>

			<p>最新の画像診断装置（超音波診断装置、CT、MRI）の導入、新規腫瘍マーカーや新しい概念に基づく治療法の検討が進められている。伴侶動物分野で臨床的に問題となる腫瘍性疾患について概説し、最近の臨床研究について紹介する。</p> <p>(No.51 福島 隆治／第4回)</p> <p>不整脈とは、心拍数やリズムが一定でない状態の事を言う。また心拍や脈拍が整であっても、心電図異常がある場合は臨床的には不整脈と表現する。不整脈は徐脈性と頻脈性に大きく分類され、それぞれ治療法が異なる。本講義では人と動物の不整脈に関して、動物種による治療法の違いや新規の治療法についていくつかの例を挙げながら解説していく。</p> <p>(No.113 西藤 公司／第5回)</p> <p>表皮は生体の最外層に位置し、生体の恒常性維持に必要な体液の漏出を防ぐとともに、微生物や異物などの侵入から生体を防御するバリアとしての役割を有する。本講義では表皮バリア機構の維持に重要となる構成成分、ならびに同機構の異常によって発症する哺乳動物の皮膚疾患を題材とし、討論を交えた講義を行う。</p> <p>(No.114 田中 綾／第6回)</p> <p>心不全を評価する際には、心筋の機能、血管抵抗、血液の性状など、複合的な要素を踏まえて評価する必要がある。近年、心機能を評価する際に、入れ物である心臓（心筋）の拡張や収縮ではなく、心臓内の血流に着目した評価法が実施されるようになってきた。適切な治療法を選択するためにも心不全のより深い理解が必要である。</p> <p>(No.115 清水 美希／第7回)</p> <p>近年、人医療と同様に動物医療においてもX線、CT、関節鏡検査だけでなく超音波検査やMRIなどの画像診断装置を用いた診断法や病態評価が注目されている。例えば超音波検査による腱、靭帯、筋肉の評価やMRIによる関節軟骨の評価などである。本講義では伴侶動物の運動器疾患についての理解と各種画像診断法の適応、およびその所見について解説する。</p> <p>(No.132 岸本 海織／第8回)</p> <p>医療において診断・治療に貢献している放射線は、動物の医療においても同様に大きく貢献している。また実験動物分野でも、実験動物を減らすことができる手段として非常に有用である。本講義では獣医療や実験動物分野で、どのように放射線が利用されているのか、について解説する。</p>	
--	--	--	--	--

		<p>(No.134 井手 香織／第9回)</p> <p>消化器系は、栄養を吸収する食物の「通り道」に留まらず、最大の免疫器官であり、生体の細胞数よりも多い数の腸内細菌叢を抱える器官でもありと、複数の重要な役割を担う。伴侶動物に多い消化器疾患に関しても、近年では医学同様、マイクロバイオームや免疫学の切り口からの病態解析も進みつつあり、新しい診断法や治療法への糸口になり得ると注目されている。本講義では伴侶動物に多い腸炎など消化器疾患について概説し、最近の研究について紹介する。</p> <p>(No.133 大森 啓太郎／第10回)</p> <p>犬や猫などの伴侶動物は、ヒトと同じ様々な疾患を自然発症することから、比較動物学的にも重要である。本講義では、伴侶動物において発生する疾患、特に免疫介在性疾患およびアレルギー疾患について、その成り立ちおよび臨床的特性を概説するとともに、ヒトの疾患の病態解明および新規治療法開発にどのような点で有用であるのかについて、実際の事例を交えながら解説する。</p> <p>(No.112 佐々木 一昭／第11回)</p> <p>人と同じように動物の薬物治療においても複数の薬を同時に使用することがある。ある種の薬は、薬物代謝酵素に対して阻害あるいは誘導の作用を有し、その阻害あるいは誘導された酵素で代謝を受ける別の薬のクリアランスを増減させるという薬物間相互作用のリスクを持つ。酵素阻害は、薬の蓄積による副作用の発現につながり、酵素誘導は薬物の治療効果の減弱につながるが、獣医領域での研究例が少ない。本講義では、我々が行ってきた犬や猫における代謝に起因する薬物間相互作用の研究結果を紹介する。</p> <p>(No.117 鈴木 和彦／第12回)</p> <p>慢性腎不全は各種腎疾患に共通して認められる病態で、獣医学領域においても高齢猫での高頻度の発症が問題となっている。慢性腎不全においては尿細管傷害とそれに続く間質の線維化が共通して認められ、特に線維化は進行の度合いが腎機能低下の程度と密接に関わっている。本講義では、疾患モデルを用いた腎間質繊維化の発現・進展機序およびその治療法の探索に関する我々の研究について概説する。</p> <p>(No.110 古谷 哲也／第13～15回)</p> <p>モルビリウイルスは牛痘ウイルス、イヌジステンパーウイルス、麻疹ウイルス等の、非常に高い病原性と感染性を持ったウイルスを含むが、その中には腫瘍細胞を特異的に攻撃する抗腫瘍作用を持つウイルスも知られており、新たな抗がん治療として注目されている。本講義</p>	
--	--	---	--

			では、野生動物を含む幅広い宿主に感染し、強い病原性を持つイヌジステンパーウイルスの抗腫瘍作用について、その機構と、ヒトと動物両方における、新たながん治療への応用について概説する。
専門科目	国際イノベーション農学コース	国際イノベーション農学特論 I	<p>(概要)</p> <p>アジア、アフリカ、中南米地域を中心とした、農学と関連分野における、生物生産科学、応用生命化学、自然資源管理、共生社会学などの最新の課題を学びながら、それらの課題を解決する手法、現場における研究事例、政策的な解決手法などについて、学ぶ。個別やグループによる課題設定などにより、ディスカッションなどを通して、課題解決手法を議論していく。</p>
論文関連科目	特別研究	A 農学特別研究 I	<p>(概要)</p> <p>主指導教員が履修者の研究内容について指導を行い、期間内に修士論文が完成できるように研究指導を行う。履修者各自の研究課題に対して、講義で培った理解、スキルを基に研究の理論的枠組みや仮説設定、実施、データ管理、解析、考察、先行研究との比較、研究の新規性と限定性、成果発表法、学術論文作成法について学ぶ。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解</p>

			<p>析、ゲノム編集 (No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定 (No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬 (No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析 (No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム (No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化 (No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生 (No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス (No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え (No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化 (No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム (No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング (No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除 (No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化 (No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構 (No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、 (No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス (No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生</p>	
--	--	--	---	--

			<p>性病原体 (No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学 (No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送 (No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学 (No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変 (No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生</p>	
--	--	--	---	--

			<p>物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオ リファイナリー (No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教 育、森林ESD (No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミ ストリー (No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分 解生成物利用 (No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工 (No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞 死 (No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕 微鏡 (No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟 (No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚 染モニタリング、海洋プラスチック汚染 (No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、 地球温暖化 (No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環 境動態解析 (No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境 大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指 標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生 物地球化学 (No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解 析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成</p>	
--	--	--	---	--

			<p>物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理 (No.34 斎藤 広隆)</p> <p>不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性 (No.94 帖佐 直)</p> <p>制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式 (No.95 中島 正裕)</p> <p>内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ (No.96 辰己 賢一)</p> <p>地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ (No.126 山下 恵)</p> <p>地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング (No.35 野見山 敏雄)</p> <p>農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営 (No.36 山崎 亮一)</p> <p>農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム (No.37 朝岡 幸彦)</p> <p>環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGsの教育、食育、食農教育 (No.38 千年 篤)</p> <p>農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析 (No.39 高橋 美貴)</p> <p>自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業 (No.97 武田 庄平)</p> <p>比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学 (No.98 渡邊 司)</p> <p>国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央)</p> <p>経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行)</p> <p>環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子)</p> <p>人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂)</p> <p>農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成)</p> <p>環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.130 草処 基) 農家経済、開発経済、応用ミクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐章) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p> <p>(No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p> <p>(No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析</p> <p>(No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国</p> <p>(No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学</p> <p>(No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登) 不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也) 家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬 (No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
--	--	--	---	--

論文関連科目	特別研究	A	農学特別研究Ⅱ	<p>(概要)</p> <p> 主旨指導教員が履修者の研究課題に対して、論文作成上に必要とする実験的な手法について指導し、履修者がそれら実験的手法の理論などを理解し、手技を学ぶ。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、</p>	
--------	------	---	---------	--	--

			<p>バイオインフォマクス (No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリアファイナリー (No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD (No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー (No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用 (No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工 (No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死 (No.77 堀川 祥生)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興)</p> <p>生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重)</p> <p>人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛)</p> <p>植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉)</p> <p>重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀)</p> <p>大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳)</p> <p>微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有)</p> <p>生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p> <p>(No.80 大地 まどか)</p> <p>人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘)</p> <p>大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠)</p> <p>樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸)</p> <p>森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延)</p> <p>植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人)</p> <p>森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博)</p> <p>林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生)</p> <p>野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博)</p> <p>健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多 様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、 森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・ 全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全 生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロ ー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技 術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工 学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微 分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニ ティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグ データ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリン グ、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経 営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世</p>	
--	--	--	---	--

			<p>界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGsの教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用ミクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登) 不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也) 家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p> <p>(No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p> <p>(No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p> <p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文関連科目	特別研究	A	<p>農学展開研究 I</p> <p>(概要) 副指導教員が、履修者の研究課題に対して応用展開的な視点での助言、多面的なデータ解析手法と評価能力を教授するとともに、修士論文の作成を支援する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p>	

			<p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性</p> <p>(No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ</p> <p>(No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析</p> <p>(No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p> <p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術 (No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御 (No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理 (No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性 (No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式 (No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ (No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ (No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング (No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営 (No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム (No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGsの教育、食育、食農教育 (No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析 (No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業 (No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学 (No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成)</p> <p>環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成 (No.130 草処 基)</p> <p>農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度 (No.40 藤井 義晴)</p> <p>農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二)</p> <p>地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策 (No.42 渡邊 裕純)</p> <p>農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰)</p> <p>アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志)</p> <p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、</p>	
--	--	--	---	--

			分子標的治療薬 (No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境	
論文関連科目	特別研究	A	<p>農学展開研究Ⅱ</p> <p>(概要) 副指導教員が、履修者の研究課題に対して応用展開的な実験上の知識と技法を助言し、実験データ取得を補助し、諸問題を分析、評価能力を教授するとともに、修士論文の作成を支援する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p>	

			<p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸</p>	
--	--	--	---	--

			<p>造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性</p> <p>(No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ</p> <p>(No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析</p> <p>(No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p> <p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p> <p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工 (No.76 半 智史)</p> <p>細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死 (No.77 堀川 祥生)</p> <p>バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡 (No.24 楊 宗興)</p> <p>生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟 (No.25 高田 秀重)</p> <p>人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染 (No.26 伊豆田 猛)</p> <p>植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化 (No.27 渡邊 泉)</p> <p>重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析 (No.28 松田 和秀)</p> <p>大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳)</p> <p>微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有)</p> <p>生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか)</p> <p>人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘)</p> <p>大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠)</p> <p>樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸)</p> <p>森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延)</p> <p>植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性 (No.31 戸田 浩人)</p> <p>森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化 (No.83 岩岡 正博)</p> <p>林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支 (No.84 金子 弥生)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物 (No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ (No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全 (No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境 (No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退 (No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学 (No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学 (No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA (No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践 (No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態 (No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術 (No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御 (No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理 (No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性 (No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式 (No.95 中島 正裕) 内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ (No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ (No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGsの教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用ミクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフ</p>	
--	--	--	---	--

			<p>ラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p> <p>(No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p> <p>(No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析</p> <p>(No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国</p> <p>(No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学</p> <p>(No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登) 不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也) 家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断</p> <p>(No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p> <p>(No.110 古谷 哲也)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾)</p> <p>医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希)</p> <p>運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎)</p> <p>ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦)</p> <p>病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉)</p> <p>感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史)</p> <p>動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子)</p> <p>食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織)</p> <p>画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎)</p> <p>免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬 (No.134 井手 香織)</p> <p>血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文 関連 科目	特別 研究	B	<p>農学特別研究Ⅲ</p> <p>(概要)</p> <p>主指導教員が履修者の研究内容について指導を行い、期間内に修士論文が完成できるように研究指導を行う。履修者各自の研究課題に対して、講義で培った理解、スキルを基に研究の理論的枠組みや仮説設定、実施、データ管理、解析、考察、先行研究との比較、研究の新規性と限定性、成果発表法、学術論文作成法について学ぶ。</p> <p>(No.1 金勝 一樹)</p> <p>植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎)</p> <p>作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹)</p> <p>畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p>	

			<p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除 (No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化 (No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構 (No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、 (No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス (No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体 (No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学 (No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送 (No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学 (No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変 (No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p> <p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳)</p> <p>微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有)</p> <p>生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか)</p> <p>人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘)</p> <p>大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠)</p> <p>樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸)</p> <p>森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延)</p> <p>植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性 (No.31 戸田 浩人)</p> <p>森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化 (No.83 岩岡 正博)</p> <p>林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支 (No.84 金子 弥生)</p> <p>野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物 (No.85 下田 政博)</p> <p>健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ (No.86 吉川 正人)</p> <p>植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全 (No.87 白木 克繁)</p> <p>水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境 (No.88 崔 東寿)</p> <p>樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退 (No.89 赤坂 宗光)</p> <p>生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学 (No.90 小池 伸介)</p> <p>生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央)</p> <p>経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行)</p> <p>環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子)</p> <p>人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂)</p> <p>農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力 構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成)</p> <p>環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意 形成 (No.130 草刈 基)</p> <p>農家経済、開発経済、応用ミクロ計量経済学、農業経済 史、制度 (No.40 藤井 義晴)</p> <p>農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物 質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二)</p> <p>地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害 対策 (No.42 渡邊 裕純)</p> <p>農業動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰)</p> <p>アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、 薬用植物 (No.44 五味 高志)</p> <p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフ ラ (No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制 分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、 農業地理 (No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オ ミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上 国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解 剖学 (No.46 渡辺 元)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断</p> <p>(No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p> <p>(No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御</p> <p>(No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血</p> <p>(No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療</p> <p>(No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p> <p>(No.114 田中 綾)</p> <p>医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希)</p> <p>運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎)</p> <p>ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p> <p>(No.117 鈴木 和彦)</p> <p>病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉)</p> <p>感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文 関連 科目	特別 研究	B	<p>農学特別研究Ⅳ</p> <p>(概要) 主指導教員が履修者の研究課題に対して、論文作成上に必要とする実験的な手法について指導し、履修者がそれら実験的手法の理論などを理解し、手技を学ぶ。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根</p>	

			<p>菌、画像解析 (No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム (No.61 杉原 創) 土壤環境学、持続可能性、物質循環、土壤資源管理、土壤劣化 (No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生 (No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス (No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え (No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化 (No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム (No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング (No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除 (No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化 (No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構 (No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、 (No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス (No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体 (No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学 (No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送 (No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学 (No.14 千葉 一裕)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変 (No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー (No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカ、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p> <p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、</p>	
--	--	--	---	--

			<p>植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人)</p> <p>森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博)</p> <p>林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生)</p> <p>野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博)</p> <p>健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人)</p> <p>植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁)</p> <p>水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿)</p> <p>樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光)</p> <p>生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介)</p> <p>生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕)</p> <p>木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨)</p> <p>動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子)</p> <p>両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武)</p> <p>労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司)</p> <p>システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀)</p> <p>自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆)</p> <p>不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直)</p> <p>制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕)</p> <p>内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニ</p>	
--	--	--	--	--

			<p>ティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草処 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p> <p>(No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p> <p>(No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析</p> <p>(No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国</p> <p>(No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学</p> <p>(No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登) 不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也) 家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾)</p> <p>医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希)</p> <p>運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎)</p> <p>ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦)</p> <p>病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉)</p> <p>感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史)</p> <p>動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子)</p> <p>食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織)</p> <p>画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎)</p> <p>免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬 (No.134 井手 香織)</p> <p>血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文 関連 科目	特別 研究	B	<p>農学展開研究Ⅲ</p> <p>(概要)</p> <p>副指導教員が、履修者の研究課題に対して応用展開的な視点での助言、多面的なデータ解析手法と評価能力を教授するとともに、修士論文の作成を支援する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹)</p> <p>植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎)</p> <p>作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環</p>	

			<p>境ストレス耐性 (No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマックス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性</p> <p>(No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ</p> <p>(No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、</p>	
--	--	--	---	--

			<p>構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p> <p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p> <p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p> <p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・</p>	
--	--	--	---	--

			<p>全国・全球スケール、保全科学 (No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学 (No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA (No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践 (No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態 (No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術 (No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御 (No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理 (No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性 (No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式 (No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ (No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ (No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング (No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営 (No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム (No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育 (No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析 (No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p> <p>(No.104 加藤 亮) 流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p> <p>(No.105 岡崎 伸) 植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析</p> <p>(No.106 桂 圭佑) 作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.45 柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学</p> <p>(No.46 渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明) バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登) 不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也) 家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断</p> <p>(No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p> <p>(No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御</p> <p>(No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血</p> <p>(No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療</p> <p>(No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p> <p>(No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p> <p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文 関連 連 科 目	特 別 研 究	B	<p>農学展開研究Ⅳ</p> <p>(概要) 副指導教員が、履修者の研究課題に対して応用展開的な実験上の知識と技法を助言し、実験データ取得を補助し、諸問題を分析、評価能力を教授するとともに、修士論文の作成を支援する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p>	

			<p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態シスク 評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根 菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティ クス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土 壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発 生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、 バイオインフォマクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺 伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化 学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除シ ステム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレ ス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的 防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環 境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生 性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送 (No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学 (No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変 (No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p> <p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p>	
--	--	--	---	--

			<p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草処 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴)</p>	
--	--	--	---	--

			<p>農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二)</p> <p>地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策 (No.42 渡邊 裕純)</p> <p>農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰)</p> <p>アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志)</p> <p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実</p>	
--	--	--	---	--

			<p>験モデル (No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬 (No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文関連科	特別演習	農学特別演習 I	<p>(概要) 主指導教員が、農学と関連分野に関するセミナーや最新トピックスについての精査・討論を行うことで、あらたな視点や研究手法、取りまとめ方法を修得への指導を行い、プレゼンテーションや質疑応答の能力を養成す</p>	

目			<p>る。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、 プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環 境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動 物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細 胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、 周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成 分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解 析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素 固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態シス ク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根 菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティ クス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土 壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発 生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、 バイオインフォマクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺</p>	
---	--	--	--	--

		<p>伝子組換え (No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏)</p>	
--	--	---	--

			<p>細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也)</p> <p>植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和)</p> <p>有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正)</p> <p>食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦)</p> <p>分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光)</p> <p>植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫)</p> <p>生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸)</p> <p>セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良)</p> <p>木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠)</p> <p>木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリアファイナリー (No.23 高柳 正夫)</p> <p>分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一)</p> <p>木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD (No.73 芳賀 尚樹)</p> <p>有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー (No.74 粕谷 夏基)</p> <p>多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用 (No.75 近江 正陽)</p> <p>木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工 (No.76 半 智史)</p> <p>細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死 (No.77 堀川 祥生)</p> <p>バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡 (No.24 楊 宗興)</p>	
--	--	--	--	--

			<p>生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟 (No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染 (No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化 (No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析 (No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性 (No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化 (No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支 (No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物 (No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ (No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p>	
--	--	--	--	--

		<p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の</p>	
--	--	---	--

			<p>教育、食育、食農教育 (No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析 (No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業 (No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学 (No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成 (No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用ミクロ計量経済学、農業経済史、制度 (No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策 (No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志) 土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄) 国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子) 乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮)</p>	
--	--	--	---	--

		<p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p>	
--	--	--	--

			<p>(No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p> <p>(No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p> <p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文 関連 科目	特別演習	農学特別演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>主指導教員が、農学と関連分野に関するセミナーや最新トピックスについての精査・討論を行うことで、あらたな視点や研究手法、取りまとめ方法を修得への指導を行い、プレゼンテーションや質疑応答の能力を養成する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p>	

		<p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか) 害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造</p> <p>(No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質</p> <p>(No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学</p> <p>(No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性</p> <p>(No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ</p> <p>(No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析</p> <p>(No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p> <p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p>	
--	--	---	--

		<p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p>	
--	--	---	--

		<p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p> <p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武)</p>	
--	--	--	--

			<p>労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司)</p> <p>システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀)</p> <p>自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆)</p> <p>不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直)</p> <p>制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕)</p> <p>内発的發展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一)</p> <p>地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵)</p> <p>地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄)</p> <p>農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一)</p> <p>農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦)</p> <p>環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGsの教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤)</p> <p>農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴)</p> <p>自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平)</p> <p>比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司)</p> <p>国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央)</p> <p>経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行)</p> <p>環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子)</p> <p>人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂)</p>	
--	--	--	---	--

		<p>農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成)</p> <p>環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成 (No.130 草処 基)</p> <p>農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度 (No.40 藤井 義晴)</p> <p>農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二)</p> <p>地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策 (No.42 渡邊 裕純)</p> <p>農業動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰)</p> <p>アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物 (No.44 五味 高志)</p> <p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ (No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理 (No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス (No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場 (No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化 (No.49 水谷 哲也)</p>	
--	--	---	--

		<p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症 (No.50 田中 知己) 繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜 (No.51 福島 隆治) 心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物 (No.52 渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (No.53 打出 毅) 呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン (No.107 谷口 隆秀) 発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断 (No.108 林谷 秀樹) 集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態 (No.109 佐藤 俊幸) 至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御 (No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血 (No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素 (No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術 (No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物 (No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫 (No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 (No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析 (No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤 (No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、</p>	
--	--	---	--

			<p>分子標的治療薬 (No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文 関 連 科 目	特別演 習	論文レビュー特別演習 I	<p>(概要) 主指導教員が、農学と関連分野における、国内外の最新の研究論文や報告などを購読し、各論文の構成、解析手法、結果とその解釈の妥当性などを精査・検討することで、各自がおこなっている研究の位置づけや新規性を明確化できる指導を行い、論理的な思考を養成する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p> <p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土</p>	

			<p>壤劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史)</p> <p>家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子)</p> <p>昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄)</p> <p>園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕)</p> <p>生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力)</p> <p>植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行)</p> <p>生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか)</p> <p>害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除</p> <p>(No.10 川出 洋)</p> <p>天然物化学、生理活性物質、生合成、進化</p> <p>(No.11 笠原 博幸)</p> <p>植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構</p> <p>(No.63 平岡 毅)</p> <p>応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、</p> <p>(No.64 森山 裕充)</p> <p>マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス</p> <p>(No.65 小松 健)</p> <p>微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体</p> <p>(No.122 井上 真紀)</p> <p>生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学</p> <p>(No.12 西河 淳)</p> <p>生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送</p> <p>(No.13 蓮見 恵司)</p> <p>生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学</p> <p>(No.14 千葉 一裕)</p> <p>有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構</p> <p>(No.15 服部 誠)</p> <p>食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変</p> <p>(No.16 山形 洋平)</p>	
--	--	--	---	--

		<p>応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品 (No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス (No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用 (No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学 (No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動 (No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養 (No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー (No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学 (No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD (No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー (No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p>	
--	--	---	--

		<p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀) 大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染</p> <p>(No.78 多羅尾 光徳) 微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用</p> <p>(No.79 梅澤 有) 生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学</p> <p>(No.80 大地 まどか) 人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全</p> <p>(No.81 中嶋 吉弘) 大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程</p> <p>(No.82 渡辺 誠) 樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動</p> <p>(No.29 土屋 俊幸) 森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興</p> <p>(No.30 星野 義延) 植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性</p> <p>(No.31 戸田 浩人) 森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化</p> <p>(No.83 岩岡 正博) 林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.84 金子 弥生) 野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物</p> <p>(No.85 下田 政博) 健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ</p> <p>(No.86 吉川 正人) 植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全</p> <p>(No.87 白木 克繁) 水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境</p> <p>(No.88 崔 東寿) 樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退</p> <p>(No.89 赤坂 宗光) 生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学</p> <p>(No.90 小池 伸介) 生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p> <p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリン</p>	
--	--	---	--

		<p>グ、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司) 国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題</p> <p>(No.99 吉田 央) 経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発</p> <p>(No.100 榎本 弘行) 環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法</p> <p>(No.101 甲田 菜穂子) 人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉</p> <p>(No.127 新井 祥穂) 農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力構造論、東南アジア農業</p> <p>(No.129 澤 佳成) 環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意形成</p> <p>(No.130 草刈 基) 農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済史、制度</p> <p>(No.40 藤井 義晴) 農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物質、未利用有用資源</p> <p>(No.41 向後 雄二) 地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害対策</p> <p>(No.42 渡邊 裕純) 農薬動態、水田、圃場、モデル化、水質管理</p> <p>(No.43 山田 祐彰) アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、薬用植物</p> <p>(No.44 五味 高志)</p>	
--	--	--	--

		<p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフラ</p> <p>(No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制分析、ベトナム経済社会</p> <p>(No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、農業地理</p> <p>(No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田</p> <p>(No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オミクス解析</p> <p>(No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上国</p> <p>(No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学</p> <p>(No.46 渡辺 元)</p> <p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断</p> <p>(No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p>	
--	--	--	--

			<p>(No.110 古谷 哲也) 動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御</p> <p>(No.111 吉田 敏則) 脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血</p> <p>(No.112 佐々木 一昭) 薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療</p> <p>(No.113 西藤 公司) 皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p> <p>(No.114 田中 綾) 医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希) 運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎) ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p> <p>(No.117 鈴木 和彦) 病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉) 感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p> <p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
論文関連科目	特別演習	論文レビュー特別演習Ⅱ	<p>(概要) 主指導教員が、農学と関連分野における、国内外の最新の研究論文や報告などを購読し、各論文の構成、解析手法、結果とその解釈の妥当性などを精査・検討することで、各自がおこなっている研究の位置づけや新規性を明確化できる指導を行い、論理的な思考を養成する。</p> <p>(No.1 金勝 一樹) 植物育種学、植物生理学、植物ホルモン、種子生理化学、プロテオーム</p> <p>(No.2 大川 泰一郎) 作物学、多収性、作物生産生理学、バイオマス生産、環境ストレス耐性</p> <p>(No.3 佐藤 幹) 畜産学、家畜栄養学、家畜管理学、動物分子栄養学、動物の代謝</p>	

		<p>(No.4 新井 克彦) 細胞外マトリックス、細胞骨格、細胞接着、間葉系幹細胞、動物 iPS 細胞</p> <p>(No.5 荻原 勲) 園芸学、植物生理生態学、生産環境制御学、植物工場、周年生産</p> <p>(No.54 横山 岳) 蚕糸学、昆虫発生学、絹糸昆虫、単為発生、倍数体</p> <p>(No.55 田中 治夫) 土壌学、土壌生化学、土壌酵素、土壌有機物、土壌生成分類</p> <p>(No.56 山田 哲也) 植物遺伝育種学、花持ち性、生殖的隔離、オミックス解析、ゲノム編集</p> <p>(No.57 大津 直子) 植物栄養学、植物の代謝、植物の養分吸収、肥料、窒素固定</p> <p>(No.58 本林 隆) 応用昆虫学、農業生態学、総合的害虫管理、生態リスク評価、化学合成農薬</p> <p>(No.59 伴 琢也) 果樹園芸学、成熟生理、植物ホルモン、エリコイド菌根菌、画像解析</p> <p>(No.60 新村 毅) 動物行動学、動物生理学、動物遺伝学、インフォマティクス、機能ゲノム</p> <p>(No.61 杉原 創) 土壌環境学、持続可能性、物質循環、土壌資源管理、土壌劣化</p> <p>(No.62 杉村 智史) 家畜繁殖学、発生工学、生殖内分泌学、生殖細胞、胚発生</p> <p>(No.120 天竺桂 弘子) 昆虫生化学、昆虫分子生物学、昆虫機能利用、環境適応、バイオインフォマティクス</p> <p>(No.121 鈴木 栄) 園芸学、観賞用園芸作物、品種改良、植物組織培養、遺伝子組換え</p> <p>(No.6 夏目 雅裕) 生物間相互作用、生理活性物質、制御物質、生物有機化学、形態分化</p> <p>(No.7 有江 力) 植物病理学、病害制御技術、病原性進化、総合的防除システム</p> <p>(No.8 福原 敏行) 生体防御、遺伝子発現制御、環境ストレス、生物ストレス、RNAサイレンシング</p> <p>(No.9 仲井 まどか)</p>	
--	--	--	--

			<p>害虫、天敵微生物、天敵昆虫、生物間相互作用、生物的防除 (No.10 川出 洋) 天然物化学、生理活性物質、生合成、進化 (No.11 笠原 博幸) 植物ホルモン、生理作用、植物生理学、作用機構 (No.63 平岡 毅) 応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生化学、 (No.64 森山 裕充) マイコウイルス、菌類分子遺伝学、細胞分子生物学、環境・薬剤ストレス (No.65 小松 健) 微生物ゲノム、エフェクター、二次代謝産物、絶対寄生性病原体 (No.122 井上 真紀) 生物間相互作用、共進化、応用昆虫学、昆虫病理学 (No.12 西河 淳) 生化学、糖鎖生物学、糖タンパク質、オルガネラ、小胞輸送 (No.13 蓮見 恵司) 生理活性物質、医薬、天然物、応用微生物学、生化学 (No.14 千葉 一裕) 有機合成化学、生物有機化学、天然物有機化学、生物活性物質、反応機構 (No.15 服部 誠) 食品化学、食品機能化学、食品生化学、食品タンパク質、機能改変 (No.16 山形 洋平) 応用微生物学、分子生物学、酵素、発現制御、醗酵・醸造 (No.17 三浦 豊) 栄養化学、栄養生理学、生活習慣病、癌細胞悪性化、細胞膜脂質 (No.18 殿塚 隆史) 酵素化学、構造生物化学、糖質関連酵素、グリコシダーゼ、生化学 (No.19 野村 義宏) 細胞外マトリックス、コラーゲン、プロテオグリカン、生体試料処理方法、力学特性 (No.66 川合 伸也) 植物遺伝子工学、代謝産物合成制御、リグニン、オリゴ糖、ペルオキシダーゼ (No.67 北野 克和) 有機化学、生物有機化学、有機合成化学、生物活性物質、構造解析 (No.68 好田 正) 食品化学、食品機能学、食品免疫学、細胞生物学、機能性食品</p>	
--	--	--	---	--

		<p>(No.69 松下 保彦) 分子生物学、遺伝子工学、植物免疫、植物細胞死、植物ウイルス</p> <p>(No.70 佐々木 信光) 植物ウイルス、抵抗性誘導、病原性、遺伝子発現制御、分子間相互作用</p> <p>(No.71 木村 郁夫) 生理学、分子代謝学、内分泌学、分子栄養学、生化学</p> <p>(No.20 四方 俊幸) セルロース、高分子物性、レオロジー、誘電緩和、分子運動</p> <p>(No.21 船田 良) 木質バイオマス、木材生物学、樹木生理学、植物細胞生物学、植物組織培養</p> <p>(No.22 吉田 誠) 木材腐朽、木材保存、木質バイオマス、担子菌、バイオリファイナリー</p> <p>(No.23 高柳 正夫) 分光分析、多変量解析、材料分析、溶液化学、分子科学</p> <p>(No.72 佐藤 敬一) 木材物理学、木質材料物性、森林資源利用、森林環境教育、森林ESD</p> <p>(No.73 芳賀 尚樹) 有機化学、反応機構、光化学、光生物学、グリーンケミストリー</p> <p>(No.74 粕谷 夏基) 多糖類、化学修飾、機能性化、高分子1次構造解析、分解生成物利用</p> <p>(No.75 近江 正陽) 木材、木質材料、接着、耐久性、化学加工</p> <p>(No.76 半 智史) 細胞生物学、樹木生理学、木材解剖学、木部形成、細胞死</p> <p>(No.77 堀川 祥生) バイオマス、細胞壁、セルロース、構造多様性、電子顕微鏡</p> <p>(No.24 楊 宗興) 生物圏、生元素、生物地球化学、湿地、干潟</p> <p>(No.25 高田 秀重) 人工化学物質、人為起源有機化合物、分子マーカー、汚染モニタリング、海洋プラスチック汚染</p> <p>(No.26 伊豆田 猛) 植物、光化学オキシダント、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化</p> <p>(No.27 渡邊 泉) 重金属汚染、微量元素、放射性元素、生態影響評価、環境動態解析</p> <p>(No.28 松田 和秀)</p>	
--	--	--	--

			<p>大気沈着、反応性窒素、PM2.5、フラックス観測、越境大気汚染 (No.78 多羅尾 光徳)</p> <p>微生物食物連鎖、微生物による環境浄化、ふん便汚染指標微生物、亜酸化窒素、微生物相互作用 (No.79 梅澤 有)</p> <p>生元素循環、食性解析、水圏生態系、安定同位体比、生物地球化学 (No.80 大地 まどか)</p> <p>人工化学物質、海洋生態系、生物影響評価、環境動態解析、海洋環境保全 (No.81 中嶋 吉弘)</p> <p>大気汚染、光化学オキシダント、窒素酸化物、二次生成物、排出係数と生成過程 (No.82 渡辺 誠)</p> <p>樹木生理生態学、光合成、養分利用特性、大気汚染、気候変動 (No.29 土屋 俊幸)</p> <p>森林政策、自然資源管理、観光レクリエーション、自然保護地域、山村振興 (No.30 星野 義延)</p> <p>植生管理、二次的自然、植生地理、シカによる植生影響、植生多様性 (No.31 戸田 浩人)</p> <p>森林土壌、森林立地、森林生態、造林、緑化 (No.83 岩岡 正博)</p> <p>林業機械、林業作業システム、木質バイオエネルギー、森林認証、エネルギー収支 (No.84 金子 弥生)</p> <p>野生動物、絶滅防止、都市と動物、テレメトリー、外来生物 (No.85 下田 政博)</p> <p>健康増進、快適性、自律神経、人間の緑地利用、スポーツ (No.86 吉川 正人)</p> <p>植生管理、群落生態学、植生地理学、緑地保全、生物多様性保全 (No.87 白木 克繁)</p> <p>水文学、砂防工学、自然災害、水循環、都市環境 (No.88 崔 東寿)</p> <p>樹木生理生態、共生微生物、環境変動、森林環境復元、森林衰退 (No.89 赤坂 宗光)</p> <p>生物多様性保全、絶滅危惧植物、外来種、景観・地域・全国・全球スケール、保全科学 (No.90 小池 伸介)</p> <p>生物多様性、森林生態系、野生動物管理、生態学、保全生物学</p>	
--	--	--	---	--

		<p>(No.91 加用 千裕) 木材資源、地球温暖化緩和、炭素循環、マテリアルフロー、LCA</p> <p>(No.92 鈴木 馨) 動物、保護、救護、科学教育、教育実践</p> <p>(No.93 岩井 紀子) 両生類、生活史、森林動物、エコトーン、保全生態</p> <p>(No.124 松本 武) 労働安全、基盤整備、作業システム、森林文化、林業技術</p> <p>(No.32 酒井 憲司) システム論、モデリング、微分方程式、予測、制御</p> <p>(No.33 東城 清秀) 自然エネルギー、バイオマス、農産物品質、プロセス工学、廃棄物管理</p> <p>(No.34 斎藤 広隆) 不飽和帯、物質移動、数値解析、空間分布、不確実性</p> <p>(No.94 帖佐 直) 制御、シミュレーション、生産技術、数学的モデル、微分方程式</p> <p>(No.95 中島 正裕) 内発的発展、学際研究、震災復興、合意形成、コミュニティ</p> <p>(No.96 辰己 賢一) 地球環境、気候変動、作物生産性、モデリング、ビッグデータ</p> <p>(No.126 山下 恵) 地域環境、空間情報技術、時空間スケール、モニタリング、モデリング</p> <p>(No.35 野見山 敏雄) 農産物流通、産直、地産地消、マーケティング、農業経営</p> <p>(No.36 山崎 亮一) 農業構造動態変動、農業政策、地域経済、国民経済、世界システム</p> <p>(No.37 朝岡 幸彦) 環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs の教育、食育、食農教育</p> <p>(No.38 千年 篤) 農業関連主体の行動分析、複合農業経営、所得格差、国際農業開発、農産物価格分析</p> <p>(No.39 高橋 美貴) 自然資源の利用と管理の歴史、環境文化史、地域史、文化史、生業</p> <p>(No.97 武田 庄平) 比較心理学、比較行動学、動物福祉論(アニマルウェルフェア)、霊長類学、比較認知科学</p> <p>(No.98 渡邊 司)</p>	
--	--	--	--

		<p>国際機関、民族、宗教、南北問題、資源問題 (No.99 吉田 央)</p> <p>経済成長、産業構造変化、都市化、公害、地域開発 (No.100 榎本 弘行)</p> <p>環境法、土地利用法、農業法、憲法、行政法 (No.101 甲田 菜穂子)</p> <p>人と動物の関係、心理、行動、伴侶動物、福祉 (No.127 新井 祥穂)</p> <p>農業構造論、地域農業システム、地域労働市場、生産力 構造論、東南アジア農業 (No.129 澤 佳成)</p> <p>環境哲学、環境共生思想、農の哲学、ガバナンス、合意 形成 (No.130 草处 基)</p> <p>農家経済、開発経済、応用マイクロ計量経済学、農業経済 史、制度 (No.40 藤井 義晴)</p> <p>農業植物生態学、アレロパシー、雑草、植物生理活性物 質、未利用有用資源 (No.41 向後 雄二)</p> <p>地盤工学、土壌物理、ため池、飽和不飽和浸透流、災害 対策 (No.42 渡邊 裕純)</p> <p>農業動態、水田、圃場、モデル化、水質管理 (No.43 山田 祐彰)</p> <p>アグロフォレストリー、移住移民、技術移転、森林生態、 薬用植物 (No.44 五味 高志)</p> <p>土砂災害、森林管理、水流出、上流域、グリーンインフ ラ (No.102 竹内 郁雄)</p> <p>国際開発協力、比較経済学、農業・農村開発、経済体制 分析、ベトナム経済社会 (No.103 川端 良子)</p> <p>乾燥地農業、国際技術協力、水環境、エンパワーメント、 農業地理 (No.104 加藤 亮)</p> <p>流域水動態、灌漑、土地利用、シミュレーション、水田 (No.105 岡崎 伸)</p> <p>植物共生微生物、バイオ肥料、微生物生態、ゲノム、オ ミクス解析 (No.106 桂 圭佑)</p> <p>作物生産、栽培学、作物生理学、持続可能性、開発途上 国 (No.45 柴田 秀史)</p> <p>中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解 剖学 (No.46 渡辺 元)</p>	
--	--	---	--

		<p>ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス</p> <p>(No.47 竹原 一明)</p> <p>バイオセキュリティ、飼養衛生管理基準、病原体、畜産農場</p> <p>(No.48 町田 登)</p> <p>不整脈、心臓腫瘍、心筋症、心筋炎、動脈硬化</p> <p>(No.49 水谷 哲也)</p> <p>家畜感染症、伴侶動物感染症、エキゾチックアニマル感染症、人獣共通感染症</p> <p>(No.50 田中 知己)</p> <p>繁殖調節、内分泌制御、繁殖障害、飼養管理、反芻家畜</p> <p>(No.51 福島 隆治)</p> <p>心電図記録、血圧測定、超音波検査、病態制御、伴侶動物</p> <p>(No.52 渋谷 淳)</p> <p>発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル</p> <p>(No.53 打出 毅)</p> <p>呼吸循環器疾患、腫瘍性疾患、診断マーカー、治療標的分子、エンドセリン</p> <p>(No.107 谷口 隆秀)</p> <p>発生工学、疾患モデル動物、感染病態形成、病原体分子生物学、感染症診断</p> <p>(No.108 林谷 秀樹)</p> <p>集団、人獣共通感染症、食中毒、分子疫学、微生物生態</p> <p>(No.109 佐藤 俊幸)</p> <p>至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動</p> <p>(No.110 古谷 哲也)</p> <p>動物感染症、ウイルス、原虫寄生虫、病原性、感染防御</p> <p>(No.111 吉田 敏則)</p> <p>脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血</p> <p>(No.112 佐々木 一昭)</p> <p>薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療</p> <p>(No.113 西藤 公司)</p> <p>皮膚バリア、細胞間接着因子、皮膚細菌感染症、スフィンゴ脂質、外毒素</p> <p>(No.114 田中 綾)</p> <p>医用材料、循環動態、心機能、画像診断、低侵襲手術</p> <p>(No.115 清水 美希)</p> <p>運動器疾患、画像診断、疼痛管理、神経疾患、小動物</p> <p>(No.116 永岡 謙太郎)</p> <p>ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化</p> <p>(No.117 鈴木 和彦)</p> <p>病理、疾患モデル、線維化、腎臓</p> <p>(No.118 大松 勉)</p> <p>感染症、家畜、エキゾチックアニマル、防疫</p>	
--	--	--	--

		<p>(No.119 小山 哲史) 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度</p> <p>(No.131 石原 加奈子) 食中毒、薬剤耐性菌、疫学解析、分子疫学解析</p> <p>(No.132 岸本 海織) 画像診断、画像処理、エックス線、断層画像、造影剤</p> <p>(No.133 大森 啓太郎) 免疫介在性疾患、アレルギー、慢性腸症、免疫抑制薬、分子標的治療薬</p> <p>(No.134 井手 香織) 血液造血器系、造血幹細胞、慢性腸症、炎症性腸疾患、腸内環境</p>	
--	--	---	--

教 員 の 氏 名 等

(大学院農学府農学専攻)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平 均日数
1	専	教授	カネツ ムトキ 金勝 一樹 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 植物生産科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 1.1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平11.4	5日
2	専	教授	オホカワ タイチロウ 大川 泰一郎 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 植物生産科学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.9 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平1.4	5日
3	専	教授	サトウ カ 佐藤 幹 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 動物生産科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平18.12	5日
4	専	教授	アライ カツヒコ 新井 克彦 <平成31年4月>		医学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 動物生産科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.6 1 1 1 1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭60.4	5日
5	専	教授	サキハラ イチ 荻原 勲 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭63.4	5日
							生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅲ※	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2①	0.1 1 1 1 1 0.6	1 1 1 1 1 1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日数
6	専	教授	ナツメ マサヒロ 夏目 雅裕 <平成31年4月>		農学博士		農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平3.4	5日
7	専	教授	アリエ ツトム 有江 力 <平成31年4月>		農学博士		生物生産科学概論Ⅰ フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1	0.1 0.7 1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平12.4	5日
8	専	教授	フkah トシユキ 福原 敏行 <平成31年4月>		理学博士		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅲ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1	0.1 1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平2.2	5日
9	専	教授	カイ マドカ 仲井 まどか <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅳ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1	0.1 1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平10.3	5日
10	専	教授	カイヤ ヒロシ 川出 洋 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1	0.1 1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平13.3	5日
11	専	教授	カハラ ヒロユキ 笠原 博幸 <平成31年4月>		博士(工学)		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ	1・2② 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	0.1 1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平9.9	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 数
							農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1		
12	専	教授	ニシカワ アツシ 西河 淳 <平成31年4月>		博士(医学)		応用生命化学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生理生化学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.4 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平13.4	5日
13	専	教授	ハシミ ケイジ 蓮見 恵司 <平成31年4月>		農学博士		応用生命化学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生理生化学Ⅰ※ 国際応用生命化学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.5 0.4 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭63.6	5日
14	専	教授 (学府長)	チハカス ヒロ 千葉 一裕 <平成31年4月>		農学博士		応用生命化学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅰ※ フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅱ※ 生体分子化学Ⅰ※ 国際イノベーション農学概論Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2① 1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.3 0.3 0.6 0.1 4 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平2.4	5日
15	専	教授	ハツトリ マコト 服部 誠 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生体分子化学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.4 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平1.9	5日
16	専	教授	ヤマガタ ヨウヘイ 山形 洋平 <平成31年4月>		農学博士		応用生命化学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生理生化学Ⅱ※ 国際応用生命化学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	0.1 1 1 1 1 0.5 0.5 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平21.10	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 数
							農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1		
17	専	教授	ミヅ ユカ 三浦 豊 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学概論Ⅱ※ 農学実験計画法および統計解析演習Ⅰ 農学実験計画法および統計解析演習Ⅱ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生理生化学Ⅰ※ 国際応用生命化学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.3 1 1 1 1 1 1 0.7 0.6 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1	東京農工大学 教授 平3.11	5日
18	専	教授	トツカカシ 殿塚 隆史 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学概論Ⅱ※ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生理生化学Ⅱ※ 国際応用生命化学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 0.1 1 1 1 1 0.6 0.4 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1	東京農工大学 教授 平9.8	5日
19	専	教授	ノノ ヨシヒ 野村 義宏 <平成31年4月>		農学博士		応用生命化学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生体分子化学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平3.4	5日
20	専	教授	シカ トシユキ 四方 俊幸 <平成31年4月>		理学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境資源材料学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平24.10	5日
21	専	教授	フナダ リョウ 船田 良 <平成31年4月>		農学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 資源機能制御学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平15.8	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 数
							農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 4 4 2 2	1 1 1 1 1		
22	専	教授	ヨシダ マコト 吉田 誠 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 資源機能制御学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平18.11	5日
23	専	教授	タカヤキ マサオ 高柳 正夫 <平成31年4月>		理学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境資源材料学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平7.4	5日
24	専	教授	ヨシノリ 宗興 楊 宗興 <平成31年4月>		理学博士		自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境化学Ⅰ 環境化学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 2 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平5.10	5日
25	専	教授	タカハシ ヒデシゲ 高田 秀重 <平成31年4月>		理学博士		自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境化学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭61.4	5日
26	専	教授	イヌタケシ 伊豆田 猛 <平成31年4月>		農学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境生物学Ⅰ 環境生物学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 2 4 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平1.4	5日
							農学課題別演習	1・2通	1	1		

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学の職務に就任する平均数
							農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1		
33	専	教授	トウジヨウ セイシウ 東城 清秀 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物生産工学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.9 4 1 1 1 4 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭59.3	5日
34	専	教授	サイトウ ヒロカ 斎藤 広隆 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy in Environmen tal Engineerin g(米国)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 地域環境工学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平18.11	5日
35	専	教授	ノヤマ トシオ 野見山 敏雄 <平成31年4月>		博士(農学)		地球社会学概論Ⅱ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 食料環境経済学Ⅲ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 1 0.9 4 1 1 1 4 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平4.4	5日
36	専	教授	ヤマサキ リョウイチ 山崎 亮一 <平成31年4月>		博士(農学)		地球社会学概論Ⅱ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 食料環境経済学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平21.4	5日
37	専	教授	アサキ ユキヒコ 朝岡 幸彦 <平成31年4月>		博士(教育学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境社会関係学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 4 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平7.4	5日
							地球社会学概論Ⅱ	1・2④	1	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 日数
43	専	教授	山田 祐彰 <平成31年4月>		Philosophy (米国)		農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教授 平12.7	5日
44	専	教授	コミカシ 五味 高志 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy In Forestry(米 国)		国際イノベーション農学概論Ⅰ※ 21世紀農学特論※ 農学特論Ⅰ 空間情報解析演習※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学演習Ⅳ 農学演習Ⅴ 国際環境修復保全学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.4 0.1 1 0.5 1 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1	東京農工大学 教授 平19.10	5日
45	専	教授	シバタ ヒロシ 柴田 秀史 <平成31年4月>		医学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭57.4	5日
46	専	教授	ワナハ ゲン 渡辺 元 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 昭57.4	5日
47	専	教授	タケハシ カズアキ 竹原 一明 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		国際イノベーション農学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.7 4 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平22.6	5日
48	専	教授	マダノ ノボル 町田 登 <平成31年4月>		獣医学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平3.6	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日数
							農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1		
49	専	教授	ミヅノ テツヤ 水谷 哲也 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平23.11	5日
50	専	教授	タナ トモミ 田中 知己 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平7.4	5日
51	専	教授	フクシマ(ヤマギ) リュウジ 福島(山口) 隆治 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平19.10	5日
52	専	教授	ソノダ マコト 渋谷 淳 <平成31年4月>		医学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 教授 平19.4	5日
53	専	特任教授	ウチノ ヲシ 打出 毅 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 特任教授 平27.8	5日
							生物生産科学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習	1・2④ 1・2通 1・2通	0.1 1 1	1 1 1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日数
54	専	准教授	ヨヤマ タケ 横山 岳 <平成31年4月>		博士(農学)		国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 動物生産科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 0.8 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 昭63.4	5日
55	専	准教授	タケハルオ 田中 治夫 <平成31年4月>		農学博士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生産環境科学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 4 4 1 1	1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平3.7	5日
56	専	准教授	ヤマダ テツヤ 山田 哲也 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 植物生産科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 4 4 1 1	0.1 1 1 1 1 0.9 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平17.10	5日
57	専	准教授	オオツ ナコ 大津 直子 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生産環境科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 4 4 1 1	0.3 0.1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平21.10	5日
58	専	准教授	モトバヤシ タカシ 本林 隆 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生産環境科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 4 4 1 1	0.6 4 1 1 1 4 1 1 4 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平6.4	5日
59	専	准教授	バン タケヤ 伴 琢也		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生産環境科学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	1 1 1 1 0.6 4 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する平均数
			<平成31年4月>				農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	平21.10	
60	専	准教授	シムラ ヲシ 新村 毅 <平成31年4月>		博士(学術)		21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 動物生産科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平28.11	5日
61	専	特任准教授	スキハラ ヲシ 杉原 創 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生産環境科学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.8 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 特任准教授 平28.1	5日
62	専	特任准教授	スキムラ トシ 杉村 智史 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生産環境科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 特任准教授 平25.11	5日
63	専	准教授	ヒラカ ヲシ 平岡 毅 <平成31年4月>		理学博士		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平8.10	5日
64	専	准教授	モリヤマ ヒロミツ 森山 裕充 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅳ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通	0.1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平17.2	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 数 日
							農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1通 1通	4 2 2	1 1 1		
65	専	特任准教授	コマツ ケン 小松 健 <平成31年4月>		博士(生命 科学)		生物生産科学概論Ⅰ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物制御科学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 1 0.6 4 1 1 1 1 1 1 1 1 4 4 1 2 2	1 1	東京農工大学 特任准教授 平26.1	5日
66	専	准教授	カハ シンヤ 川合 伸也 <平成31年4月>		農学博士		応用生命化学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生理生化学Ⅱ※ 国際応用生命化学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.5 0.6 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 1 2 2	1 1	東京農工大学 准教授 平2.7	5日
67	専	准教授	キタノ ヨシカズ 北野 克和 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学概論Ⅰ※ フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生体分子化学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 0.7 1 1 1 1 0.5 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平10.4	5日
68	専	准教授	ヨシダ タカシ 好田 正 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生体分子化学Ⅱ※ 国際応用生命化学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.8 0.5 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平10.7	5日
69	専	准教授	マツタ ヤスヒコ 松下 保彦 <平成31年4月>		学術博士		応用生命化学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生体分子化学Ⅰ※ 国際応用生命化学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 0.5 0.5 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平8.4	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学の職務に就く平均日数
75	専	准教授	オノ マサル 江江 正陽 <平成31年4月>		農学博士		国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 資源機能制御学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 2 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平3.5	5日
76	専	准教授	カハベ サトシ 半 智史 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅰ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 0.1 1 1 1 1 4 1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平23.12	5日
77	専	特任准教授	オシカ ミキ 堀川 祥生 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 資源機能制御学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 4 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 特任准教授 平27.10	5日
78	専	准教授	タカミツリ 多羅尾 光徳 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境生物学Ⅰ 環境生物学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 2 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平8.4	5日
79	専	准教授	ウメヅリ ヨシ 梅澤 有 <平成31年4月>		博士(理学)		自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境化学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平29.9	5日
			オノ マサカ				自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境生物学Ⅰ 環境生物学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通	0.1 1 1 1 1 2 2 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 数 日
80	専	准教授	大地 まどか <平成31年4月>		博士(農学)		農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	准教授 平18.11	5日
81	専	准教授	ナカシマ ヨシヒロ 中嶋 吉弘 <平成31年4月>		博士(理学)		自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境化学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.3 1 1 1 1 2 4 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平24.10	5日
82	専	特任准教授	ワナハ マコト 渡辺 誠 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境生物学Ⅰ 環境生物学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 特任准教授 平25.11	5日
83	専	准教授	イワカ マサヒロ 岩岡 正博 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 森林環境保全学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 4 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平11.3	5日
84	専	准教授	カネコ ヤヨイ 金子 弥生 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生態系保全学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平21.9	5日
85	専	准教授	シモダ マサヒロ 下田 政博 <平成31年4月>		博士(理学)		自然環境資源学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生態系保全学Ⅲ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ	1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 4 4 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平10.4	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日数
							農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1通 1通	4 4 2 2	1 1 1 1		
86	専	准教授	ヨシカワ マサト 吉川 正人 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生態系保全学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平11.4	5日
87	専	准教授	シバキ カツシゲ 白木 克繁 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 森林環境保全学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 4 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平11.5	5日
88	専	准教授	チエドノス 崔 東寿 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 森林環境保全学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 4 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平18.12	5日
89	専	准教授	アカハシ ムネツ 赤坂 宗光 <平成31年4月>		博士(地球 環境科学)		自然環境資源学概論Ⅰ※ 農学実験計画および統計解析演習Ⅰ 農学実験計画および統計解析演習Ⅱ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生態系保全学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2① 1・2① 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平24.2	5日
90	専	准教授	コイケ シノブ 小池 伸介 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 森林環境保全学Ⅲ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平20.5	5日
							21世紀農学特論※	1・2③	0.1	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 数 日
96	専	准教授	タジ ケイイチ 辰己 賢一 <平成31年4月>		博士(工学)		農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平24.12	5日
97	専	准教授	タケノ シヨウヘイ 武田 庄平 <平成31年4月>		学術修士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 共生人間学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平5.4	5日
98	専	准教授	ワナハ ヲカサ 渡邊 司 <平成31年4月>		法学修士		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境社会関係学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 昭62.5	5日
99	専	准教授	ヨシダ ヒロシ 吉田 央 <平成31年4月>		博士(農学)		地球社会学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境社会関係学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平5.6	5日
100	専	准教授	エノモト ヒロユキ 榎本 弘行 <平成31年4月>		博士(法学)		地球社会学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 環境社会関係学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平22.4	5日
101	専	准教授	コウダ ナホ 甲田 菜穂子 <平成31年4月>		博士(人間 科学)		地球社会学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 共生人間学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平18.3	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する平均数
							農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1通 1通	4 4 2 2	1 1 1 1		
102	専	准教授	タケチ イノ 竹内 郁雄 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 1 1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平11.4	5日
103	専	准教授	カワバタ ヨシコ 川端 良子 <平成31年4月>		博士(農学)		国際イノベーション農学概論Ⅱ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学演習Ⅰ 国際地域開発学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 1 1 1 1 2 2 4 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平12.12	5日
104	専	准教授	カワ タスク 加藤 亮 <平成31年4月>		農学博士		国際イノベーション農学概論Ⅰ※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 国際環境修復保全学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.2 1 1 1 1 2 2 4 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平23.6	5日
105	専	准教授	オガサキ シ 岡崎 伸 <平成31年4月>		博士(農学)		国際イノベーション農学概論Ⅱ※ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 農学演習Ⅱ 国際生物生産資源学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.1 0.1 1 1 1 1 2 2 4 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平24.2	5日
106	専	准教授	カワ ケイタ 桂 圭佑 <平成31年4月>		博士(農学)		国際イノベーション農学概論Ⅰ※ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際生物生産資源学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.2 0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平28.4	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 数 日
112	専	准教授	ササキ カズアキ 佐々木 一昭 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 4 1 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平19.4	5日
113	専	准教授	ニシヅメ コウジ 西藤 公司 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平19.7	5日
114	専	准教授	タカシマ リョウ 田中(清水) 綾 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平13.4	5日
115	専	准教授	シズメ ミキ 清水 美希 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平21.11	5日
116	専	准教授	カガキ ケンタロウ 永岡 謙太郎 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅰ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 0.2 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平23.3	5日
117	専	准教授	スズキ カズヒコ 鈴木 和彦 <平成31年4月>		博士(獣医学)		農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 国際応用動物学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ	1・2通 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 0.1 4 1 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 准教授 平22.10	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 数 日
118	専	准教授	マツ ヲム 大松 勉 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1	東京農工大学 准教授 平24.9	5日
							農学課題別演習	1・2通	1	1		
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							国際応用動物学Ⅰ※	1・2①	0.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
119	専	准教授	ヤマ ナシ 小山 哲史 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		農学課題別演習	1・2通	1	1	東京農工大学 准教授 平24.1	5日
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							国際応用動物学Ⅰ※	1・2①	0.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
							論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1		
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
120	専	講師	タヅキ ヒロコ 天竺桂 弘子 <平成31年4月>		博士(農学)		農学課題別演習	1・2通	1	1	東京農工大学 講師 平25.5	5日
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							動物生産科学Ⅱ※	1・2①	0.6	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
							論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1		
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
121	専	講師	スズキ カキ 鈴木 栄 <平成31年4月>		博士(学術)		農学課題別演習	1・2通	1	1	東京農工大学 講師 平16.10	5日
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							植物生産科学Ⅱ※	1・2③	1.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
							論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1		
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
122	専	講師	イノエ(ワカバ) マキ 井上(渡邊) 真紀 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅰ	1・2②	0.1	1	東京農工大学 講師 平25.4	5日
							農学課題別演習	1・2通	1	1		
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							生物制御科学Ⅱ※	1・2③	0.8	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1									
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
123	専	講師	アノトウケイタ 安藤 恵介 <平成31年4月>		博士(農学)		環境資源材料学Ⅱ	1・2③	2	1	東京農工大学 講師 平6.4	5日
							自然環境資源学概論Ⅰ※	1・2①	0.1	1		
							フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅰ※	1・2①	0.7	1		
							フィールド・ラボ安全管理と研究倫理Ⅱ※	1・2③	0.7	1		
							農学課題別演習	1・2通	1	1		
							国内外特別演習	1・2通	1	1		

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日数
124	専	講師	マツモト タツシ 松本 武 <平成31年4月>		博士(農学)		国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 森林環境保全学Ⅱ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 講師 平22.4	5日
125	専	講師	ヨシダ トモヒロ 吉田 智弘 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅰ※ 森林環境保全学Ⅲ	1・2① 1・2②	0.1 2	1 1	東京農工大学 講師 平20.5	5日
126	専	講師	ヤマシタ メグミ 山下 恵 <平成31年4月>		博士(工学)		食農情報工学概論Ⅰ※ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 生物生産工学Ⅰ※ 空間情報解析演習※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.5 0.1 1 1 1 1 0.9 0.5 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 講師 平25.8	5日
127	専	講師	アライ(ワタナベ) サチホ 新井(渡部) 祥穂 <平成31年4月>		博士(学術)		地球社会学概論Ⅱ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 食料環境経済学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2④ 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	1 0.1 1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 1 4 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 講師 平21.12	5日
128	専	講師	タケモト タロウ 竹本 太郎 <平成31年4月>		博士(農学)		地球社会学概論Ⅰ※ 共生人間学Ⅱ	1・2② 1・2③	0.1 2	1 1	東京農工大学 講師 平28.4	5日
129	専	講師	サリ ヨシナリ 澤 佳成 <平成31年4月>		博士(学術)		地球社会学概論Ⅰ※ 21世紀農学特論※ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 共生人間学Ⅰ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ 論文レビュー特別演習Ⅱ	1・2② 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2① 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通 1通	0.5 0.1 1 1 1 1 2 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 講師 平25.4	5日
130	専	講師	クサトコロ モトイ 草処 基 <平成31年4月>		博士(農学)		地球社会学概論Ⅱ 農学課題別演習 国内外特別演習 国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ 国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ 食料環境経済学Ⅱ※ 農学特別研究Ⅰ 農学特別研究Ⅱ 農学展開研究Ⅰ 農学展開研究Ⅱ 農学特別研究Ⅲ 農学特別研究Ⅳ 農学展開研究Ⅲ 農学展開研究Ⅳ 農学特別演習Ⅰ 農学特別演習Ⅱ 論文レビュー特別演習Ⅰ	1・2④ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2③ 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1通	1 1 1 1 1 0.9 4 1 1 1 4 1 1 1 4 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農工大学 講師 平23.12	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日数
131	専	講師	イシハラ(加藤) 加子 石原(加藤) 加奈子 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1	東京農工大学 講師 平24.4	5日
							農学課題別演習	1・2通	1	1		
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							国際応用動物学Ⅰ※	1・2①	0.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1									
論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1									
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
132	専	講師	キシモト 海織 岸本 海織 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		農学課題別演習	1・2通	1	1	東京農工大学 講師 平22.8	5日
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							国際応用動物学Ⅱ※	1・2③	0.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1									
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
133	専	講師	オオモリ ケイタロウ 大森 啓太郎 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		農学課題別演習	1・2通	1	1	東京農工大学 講師 平19.10	5日
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							国際応用動物学Ⅱ※	1・2③	0.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1									
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
134	専	講師	イノ(加賀美) 加子 井手(片山) 香織 <平成31年4月>		博士(獣医 学)		農学課題別演習	1・2通	1	1	東京農工大学 講師 平21.4	5日
							国内外特別演習	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2通	1	1		
							国際研究プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2通	1	1		
							国際応用動物学Ⅱ※	1・2③	0.1	1		
							農学特別研究Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅰ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅱ	1・2通	1	1		
							農学特別研究Ⅲ	1・2通	4	1		
							農学特別研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅲ	1・2通	1	1		
							農学展開研究Ⅳ	1・2通	1	1		
							農学特別演習Ⅰ	1・2通	4	1		
							農学特別演習Ⅱ	1・2通	4	1		
論文レビュー特別演習Ⅰ	1通	2	1									
論文レビュー特別演習Ⅱ	1通	2	1									
135	専	助教	イトリ カサヒコ 伊藤 克彦 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学概論Ⅱ※	1・2④	0.1	1	東京農工大学 助教 平25.10	5日
動物生産科学Ⅱ※	1・2①	0.6	1									
136	専	助教	スズキ エリコ 鈴木 絵里子 <平成31年4月>		博士(理学)		応用生命化学概論Ⅱ※	1・2④	0.1	1	東京農工大学 助教 平22.4	5日
生理生化学Ⅰ※	1・2①	0.4	1									
137	専	助教	ミズカ カサノ 水川 薫子 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学概論Ⅱ※	1・2④	0.1	1	東京農工大学 助教 平25.10	5日
138	専	助教	フクダ シンジ 福田 信二 <平成31年4月>		博士(農学)		食農情報工学概論Ⅱ※	1・2④	0.5	1	東京農工大学 助教 平26.2	5日
地域環境工学Ⅲ	1・2①	2	1									
139	専	助教	ミヤマ エリコ 観山 恵理子 <平成31年4月>		博士(学術)		地球社会学概論Ⅱ	1・2④	1	1	東京農工大学 助教 平29.4	5日
食料環境経済学Ⅲ※	1・2③	1.1	1									
140	専	助教	オウチ ヨサエ 及川 洋征 <平成31年4月>		博士(農学)		国際イノベーション農学概論Ⅱ※	1・2④	0.1	1	東京農工大学 助教 平12.7	5日
141	専	助教	シノブ カサノ 轟 海松 <平成31年4月>		博士(農学)		国際イノベーション農学概論Ⅱ※	1・2④	0.1	1	東京農工大学 助教 平23.11	5日
142	兼任	教授	トヨダ コサキ 豊田 剛己 <平成31年4月>		博士(農学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.3	1	東京農工大学教授 平12.4	
143	兼任	教授	アキタ アツシ 秋澤 淳 <平成31年4月>		博士(工学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学教授 平7.4	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する平均日数
144	兼任	教授	イダ ヒロシ 石田 寛 <平成31年4月>		博士(工学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学教授 平16.4	
145	兼任	教授	カダタ シンヤ 梶田 真也 <平成31年4月>		博士(農学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学教授 平12.7	
146	兼任	教授	マサキ コウジ 榊田 晃司 <平成31年4月>		博士(工学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学教授 平15.4	
147	兼任	准教授	タケ アツコ 田崎 敦子 <平成31年4月>		博士(人文科学)		異文化コミュニケーション学	1・2③	2	1	東京農工大学 准教授 平6.10	
148	兼任	准教授	ホコウ トモ 本郷 智子 <平成31年4月>		修士(教育学)		日本語Ⅰ	1・2③	2	1	東京農工大学 准教授 平19.3	
149	兼任	准教授	イノハチリ ナツミ 伊藤(早狩) 夏実 <平成31年4月>		Master of Arts Linguistics(米国)		日本語Ⅱ	1・2①	2	1	東京農工大学 准教授 平29.4	
150	兼任	准教授	アカイ ノブキ 赤井 伸行 <平成31年4月>		博士(学術)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学准教授 平24.2	
151	兼任	准教授	トミカ マサトシ 富永 洋一 <平成31年4月>		博士(工学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学准教授 平19.9	
152	兼任	准教授	ワグト レンゴロ Wuled Lenggoro <平成31年4月>		博士(工学)		農と工の科学概論※	1・2①	0.1	1	東京農工大学准教授 平19.1	
153	兼任	講師	カミムラ ナリシ 中村 達 <平成31年4月>		農学博士		生物制御科学Ⅲ※	1・2①	0.6	1	国際農林水産業研究センター主任研究員 H2.4	
154	兼任	講師	カガマ マサトシ 中嶋 正敏 <平成31年4月>		博士(農学)		生物制御科学Ⅳ※	1・2③	0.6	1	東京大学准教授 平3.8	
155	兼任	講師	ミツウ ヒデキ 三浦 英樹 <平成31年4月>		博士(理学)		生物生産科学特論Ⅰ※	1・2②	0.5	1	国立極地研究所准教授 平6.10	
156	兼任	講師	シバケン 健 渋谷 健市 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学特論Ⅱ※	1・2②	0.5	1	農業・食品産業技術総合研究機構主任研究員 平22.4	
157	兼任	講師	オツノ ハルヒコ 大津 晴彦 <平成31年4月>		博士(農学)		生物生産科学特論Ⅲ※	1・2②	0.5	1	農業・食品産業技術総合研究機構科長 平30.4	
158	兼任	講師	エノキ ショウゴ 遠藤 昌吾 <平成31年4月>		薬学博士		健康長寿科学Ⅰ※ 応用生命化学特論Ⅰ※	1・2① 1・2①	0.6 0.5	1 1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平21.10	
159	兼任	講師	ヤイ ショウイチ 柳井 修一 <平成31年4月>		博士(心理学)		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究員 平22.4	
160	兼任	講師	ホウカ ルミ 堀田 晴美 <平成31年4月>		理学博士		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 昭61.4	
161	兼任	講師	ミツウ マサミ 三浦 正巳 <平成31年4月>		医学博士		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長 平11.4	
162	兼任	講師	イシケン 石井 賢二 <平成31年4月>		医学士		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平2.4	
163	兼任	講師	ムラヤマ シゲオ 村山 繁雄 <平成31年4月>		医学博士		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平11.6	
164	兼任	講師	イトウ マサフミ 伊藤 雅史 <平成31年4月>		医学博士		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平23.10	
165	兼任	講師	ニクイ ショウジ 新開 省二 <平成31年4月>		医学博士		健康長寿科学Ⅰ※	1・2①	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平10.4	
166	兼任	講師	シゲモト カズヒロ 重本 和宏 <平成31年4月>		医学博士		健康長寿科学Ⅱ※ 応用生命化学特論Ⅱ	1・2③ 1・2①	0.7 1	1 1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平19.10	
167	兼任	講師	ウエスミ アキヨシ 上住 聡芳 <平成31年4月>		博士(障害科学)		健康長寿科学Ⅱ※	1・2③	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所専門副部長 平29.1	
168	兼任	講師	トコタ マサシ 豊田 雅士 <平成31年4月>		博士(工学)		健康長寿科学Ⅱ※	1・2③	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長 平22.4	
169	兼任	講師	イノウエ サトシ 井上 聡 <平成31年4月>		博士(医学)		健康長寿科学Ⅱ※	1・2③	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究部長 平28.1	
170	兼任	講師	コトウ シカカ 近藤 嘉高 <平成31年4月>		博士(医学)		健康長寿科学Ⅱ※	1・2③	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究員 平28.4	
171	兼任	講師	オホシロウ ナホコ 大澤 郁朗 <平成31年4月>		工学博士		健康長寿科学Ⅱ※	1・2③	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長 平22.4	
172	兼任	講師	ミツウ ユリ 三浦 ゆり <平成31年4月>		薬学博士		健康長寿科学Ⅱ※	1・2③	0.2	1	東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長 平11.4	
173	兼任	講師	マンチ ヒロシ 萬谷 博 <平成31年4月>		薬学博士		健康長寿科学Ⅱ※ 応用生命化学特論Ⅰ※	1・2③ 1・2①	0.1 0.5	1 1	東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長 平10.10	
174	兼任	講師	オホカ トシオ 保坂 利男 <平成31年4月>		博士(医学)		応用生命化学特論Ⅲ	1・2③	1	1	杏林大学講師 平26.4	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する平均日
175	兼任	講師	マオウ シノエ 大藤 道衛 <平成31年4月>		博士(医学)		応用生命化学特論Ⅳ	1・2③	1	1	学校法人小山市学園講師 昭63.4	
176	兼任	講師	ナジマ ハルシ 中島 春紫 <平成31年4月>		農学博士		応用生命化学特論Ⅴ	1・2③	1	1	明治大学教授 平16.4	
177	兼任	講師	アサカ ヒロキ 館川 宏之 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学特論Ⅵ※	1・2②	0.5	1	東京大学准教授 平16.10	
178	兼任	講師	ヤイ カツウ 矢追 克郎 <平成31年4月>		博士(農学)		応用生命化学特論Ⅵ※	1・2②	0.5	1	産業技術総合研究所研究グループ長 平13.4	
179	兼任	講師	コンドリ テツオ 近藤 哲男 <平成31年4月>		博士(工学)		自然環境資源特論Ⅰ※	1・2②	1	1	九州大学教授 平15.4	
180	兼任	講師	サイトウ ツグエキ 齋藤 継之 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源特論Ⅰ※	1・2②	1	1	東京大学准教授 平21.4	
181	兼任	講師	アサチ ヤスヒ 足立 泰久 <平成31年4月>		農学博士		自然環境資源特論Ⅱ※	1・2④	1	1	筑波大学教授 昭63.4	
182	兼任	講師	ミヤウラ ミチロ 宮澤 光博 <平成31年4月>		理学博士		自然環境資源特論Ⅱ※	1・2④	1	1	農業・食品産業技術総合研究機構研究ユニット長 平28.4	
183	兼任	講師	アベ ヒロシ 安部 久 <平成31年4月>		農学博士		自然環境資源特論Ⅲ※	1・2②	1	1	森林研究・整備機構ダイバーシティ推進室長 平29.4	
184	兼任	講師	ワダ マチサ 和田 昌久 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源特論Ⅲ※	1・2②	1	1	京都大学准教授 平26.3	
185	兼任	講師	コウイ ヒデアキ 高麗 秀昭 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源特論Ⅳ※	1・2④	1	1	森林研究・整備機構チーム長 平25.4	
186	兼任	講師	イハラ シノブ 五十嵐 圭日子 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源特論Ⅳ※	1・2④	1	1	東京大学准教授 平14.4	
187	兼任	講師	カサダ ケンキ 堅田 元喜 <平成31年4月>		博士(理学)		自然環境資源特論Ⅴ	1・2①	2	1	茨城大学講師 平29.1	
188	兼任	講師	ハシ ヒロキ 張野 宏也 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源特論Ⅵ	1・2③	2	1	神戸女学院大学教授 平21.4	
189	兼任	講師	クマガイ ヒデトシ 熊田 英峰 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源特論Ⅶ	1・2①	2	1	東京薬科大学講師 平10.8	
190	兼任	講師	イワタ トモキ 岩田 智也 <平成31年4月>		博士(理学)		自然環境資源特論Ⅷ	1・2③	2	1	山梨大学准教授 平15.4	
191	兼任	講師	ナカムラ アキヒロ 中村 彰宏 <平成31年4月>		Doctor of philosophy in Ecology(豪州)		自然環境資源学特論Ⅸ※	1・2②	1	1	中国科学院 副教授 平25.9	
192	兼任	講師	ウチガキ ケイ 内田 圭 <平成31年4月>		博士(理学)		自然環境資源学特論Ⅸ※	1・2②	1	1	横浜国立大学 産学官連携研究員 平29.4	
193	兼任	講師	シバサキ シゲミツ 柴崎 茂光 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学特論Ⅹ※	1・2④	1	1	国立歴史民俗博物館 准教授 平22.10	
194	兼任	講師	ヤマシタ エロ 山下 詠子 <平成31年4月>		博士(農学)		自然環境資源学特論Ⅹ※	1・2④	1	1	東京農業大学 助教 平20.3	
195	兼任	講師	ハマノ サチコ 濱野 佐代子 <平成31年4月>		博士(心理学)		地球社会学特論Ⅰ※	1・2①	0.8	1	帝京科学大学准教授 平21.4	
196	兼任	講師	オカダ ヨシタ 奥田 喜道 <平成31年4月>		修士(法学)		地球社会学特論Ⅰ※	1・2①	0.6	1	東京農工大学非常勤講師 H18.10	
197	兼任	講師	トモキ シゲオ 友田 滋夫 <平成31年4月>		博士(農学)		地球社会学特論Ⅰ※	1・2①	0.6	1	日本大学准教授 平29.4	
198	兼任	講師	マツタケ フミオ 松下 文夫 <平成31年4月>		工学修士		21世紀農学特論※ 知財の管理と運用	1・2③ 1・2①	0.1 1	1 1	東京農工大学教授 平24.12	
199	兼任	講師	エイビング ユ Aibing Yu (平成31年4月)		Doctor of Philosophy(豪州)		Advanced lecture of Green, Food, and Life science※	1・2通	0.5	1	モナッシュ大学教授 平26.5	
200	兼任	講師	リー マクドナルド Lee MacDonald (平成31年4月)		Doctor of Philosophy(米国)		Advanced lecture of Green, Food, and Life science※	1・2通	0.5	1	コロラド州立大学教授 平24.9	
201	兼任	准教授	アサキ マチロ 青木 雅浩 (平成31年4月)		博士(文学)		Arts of Intercultural Communication※	1・2①	0.4	1	東京外国語大学准教授 平28.4	
202	兼任	准教授	サカイ マキコ 坂井 真紀子 (平成31年4月)		博士(社会学)		Arts of Intercultural Communication※	1・2①	0.4	1	東京外国語大学准教授 平23.10	
203	兼任	教授	トシケロ 土佐 桂子 (平成31年4月)		文学博士		Arts of Intercultural Communication※	1・2①	0.4	1	東京外国語大学教授 平14.10	
204	兼任	教授	ミヤギ トオル 宮城 徹 (平成31年4月)		Doctor of Philosophy(豪州)		Arts of Intercultural Communication※	1・2①	0.4	1	東京外国語大学教授 平12.10	
205	兼任	教授	フジナリ ヤヒロ 藤縄 康弘 (平成31年4月)		文学修士		Arts of Intercultural Communication※	1・2①	0.4	1	東京外国語大学教授 平21.4	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週あたり平均 日数
206	兼任	講師	サイトウ カズキ 齋藤 和樹 (平成31年4月)		博士(農学)		農学特論Ⅱ	1・2通	2	1	アフリカライセンセンター主 席研究員 平23.2	
207	兼任	講師	マキハラ タイゴ 楳原 大悟 (平成31年4月)		博士(農学)		国際イノベーション農学特論Ⅰ	1・2①	2	1	名古屋大学准教授 平12.6	
208	兼任	講師	シラヘ マサシ 調 麻佐志 (平成31年4月)		学術博士		フィールド・ラボ安全管理と研究管理Ⅰ※	1・2①	0.7	1	東京工業大学教授 平22.10	
209	兼任	講師	カクアチ ミキコ 川口 美喜子 (平成31年4月)		医学博士		生物生産科学特論Ⅰ※	1・2②	0.5	1	大妻女子大学教授 平25.4	
210	兼任	講師	カト ヨイチロウ 加藤 洋一郎 (平成31年4月)		博士(農学)		生物生産科学特論Ⅱ※	1・2②	0.5	1	東京大学准教授 平29.4	
211	兼任	講師	カツマ ススム 勝間 進 (平成31年4月)		博士(農学)		生物生産科学特論Ⅲ※	1・2②	0.5	1	東京大学准教授 平17.4	
212	兼任	講師	カマクラ カシ 鎌倉 高志 (平成31年4月)		農学博士		生物生産科学特論Ⅳ※	1・2②	0.5	1	東京理科大学教授 平15.4	
213	兼任	講師	ノムラ コウジ 野村 港二 (平成31年4月)		理学博士		生物生産科学特論Ⅳ※	1・2②	0.5	1	筑波大学教授 平3.12	
214	兼任	講師	マストニ ヨウジ 増富 祐司 (平成31年4月)		博士(地球 環境学)		食農情報工学特論Ⅰ※	1・2①	0.5	1	茨城大学准教授 平26.4	
215	兼任	講師	チョウ マイ 張 銘 (平成31年4月)		博士(工学)		食農情報工学特論Ⅰ※	1・2①	0.5	1	産業技術総合研究所研究グ ループ長 平13.4	
216	兼任	講師	アヲキ テツヤ 荒木 徹也 (平成31年4月)		博士(農学)		食農情報工学特論Ⅰ※	1・2①	0.5	1	東京大学准教授 平15.6	
217	兼任	講師	マルタ ヒロシ 丸田 洋 (平成31年4月)		工学士		食農情報工学特論Ⅰ※	1・2①	0.5	1	株式会社徳海、有限会社徳 海農耕代表取締役 平17.12	

国立大学法人東京農工大学 設置計画等に関する組織の移行表

平成30年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

平成31年度

入学 編入学 収容 変更の事由
定員 定員 定員

平成30年度	入学定員	編入学定員	収容定員
東京農工大学			
農学部			
生物生産学科	57	-	228
応用生物科学科	71	-	284
環境資源科学科	61	-	244
地域生態システム学科	76	-	304
共同獣医学科(6年制)	35	-	210
工学部			
	3年次		
生命工学科	77	11	330
応用分子化学科	46	5	194
有機材料化学科	41	5	174
化学システム工学科	35	5	150
機械システム工学科	116	16	496
物理システム工学科	56	-	224
電気電子工学科	88	20	392
情報工学科	62	8	264
	821	3年次 70	3,494
東京農工大学大学院			
工学府			
生命工学専攻(M)	58	-	116
生命工学専攻(D)	14	-	42
応用化学専攻(M)	78	-	156
応用化学専攻(D)	14	-	42
機械システム工学専攻(M)	70	-	140
機械システム工学専攻(D)	13	-	39
電子情報工学専攻(D)	19	-	57
物理システム工学専攻(M)	26	-	52
電気電子工学専攻(M)	66	-	132
情報工学専攻(M)	42	-	84
産業技術専攻(P)	40	-	80
農学府			
生物生産科学専攻(M)	27	-	54
共生持続社会学専攻(M)	12	-	24
応用生命化学専攻(M)	30	-	60
生物制御科学専攻(M)	20	-	40
環境資源物質科学専攻(M)	11	-	22
物質循環環境科学専攻(M)	17	-	34
自然環境保全学専攻(M)	19	-	38
農業環境工学専攻(M)	10	-	20
国際環境農学専攻(M)	28	-	56
共同獣医学専攻(4年制D)	10	-	40
生物システム応用科学府			
生物機能システム科学専攻(M)	59	-	118
生物機能システム科学専攻(D)	12	-	36
食料エネルギーシステム科学専攻(一貫制D)	10	-	50
共同先進健康科学専攻(D)	6	-	18
連合農学研究科			
生物生産科学専攻(D)	15	-	45
応用生命科学専攻(D)	10	-	30
環境資源共生科学専攻(D)	10	-	30
農業環境工学専攻(D)	4	-	12
農林共生社会科学専攻(D)	6	-	18
計	756		1,685

平成31年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東京農工大学				
農学部				
生物生産学科	57	-	228	
応用生物科学科	71	-	284	
環境資源科学科	61	-	244	
地域生態システム学科	76	-	304	
共同獣医学科(6年制)	35	-	210	
工学部				
	3年次			
<u>生命工学科</u>	<u>81</u>	<u>11</u>	<u>346</u>	改組(事前伺い)
<u>生体医用システム工学科</u>	<u>56</u>	<u>6</u>	<u>236</u>	改組(事前伺い)
<u>応用化学科</u>	<u>81</u>	<u>10</u>	<u>344</u>	改組(事前伺い)
<u>化学物理工学科</u>	<u>81</u>	<u>7</u>	<u>338</u>	改組(事前伺い)
<u>機械システム工学科</u>	<u>102</u>	<u>16</u>	<u>440</u>	改組(事前伺い)
<u>知能情報システム工学科</u>	<u>120</u>	<u>20</u>	<u>520</u>	改組(事前伺い)
	821	3年次 70	3,494	
東京農工大学大学院				
工学府				
生命工学専攻(M)	58	-	116	
生命工学専攻(D)	14	-	42	
応用化学専攻(M)	78	-	156	
応用化学専攻(D)	14	-	42	
機械システム工学専攻(M)	70	-	140	
機械システム工学専攻(D)	13	-	39	
電子情報工学専攻(D)	<u>15</u>	-	<u>45</u>	入学定員変更(△4)
物理システム工学専攻(M)	26	-	52	
電気電子工学専攻(M)	66	-	132	
情報工学専攻(M)	42	-	84	
産業技術専攻(P)	40	-	80	
<u>共同サステイナビリティ研究専攻(D)</u>	<u>4</u>	-	<u>12</u>	専攻の設置(意見伺い)
農学府				
<u>農学専攻(M)</u>	<u>174</u>	-	<u>348</u>	改組(事前伺い)
共同獣医学専攻(4年制D)	10	-	40	
生物システム応用科学府				
生物機能システム科学専攻(M)	59	-	118	
生物機能システム科学専攻(D)	12	-	36	
食料エネルギーシステム科学専攻(一貫制D)	10	-	50	
共同先進健康科学専攻(D)	6	-	18	
連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	15	-	45	
応用生命科学専攻(D)	10	-	30	
環境資源共生科学専攻(D)	10	-	30	
農業環境工学専攻(D)	4	-	12	
農林共生社会科学専攻(D)	6	-	18	
計	756		1,685	